

目次

本書をお読みになる前に	7
本書の表記	7
商標および著作権について	10
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	12
ワークステーション本体前面	12
ワークステーション本体背面	15
ワークステーション本体内部	18
メインボード	19
第2章 ハードウェア	
1 疲れにくい使い方	22
ディスプレイ	23
使用時間	23
入力機器	23
机と椅子	23
作業スペース	23
2 マウスについて	24
マウスの使い方	24
光学式マウスについて	26
3 キーボードについて	27
4 CD／DVDについて	30
取り扱い上の注意	30
使用できるディスク	32
推奨ディスク	35
DVD-RAMへの書き込み／書き換えについて	36
ディスクをセットする／取り出す	38
5 フロッピーディスクについて	40
取り扱い上の注意	40
フロッピーディスクをセットする／取り出す	40
6 ハードディスクについて	43
注意事項	43
7 CPUについて	44
8 ハードウェアのお手入れ	45
ワークステーション本体のお手入れ	45
ヒートシンクのお手入れ	47
マウスのお手入れ	55
キーボードのお手入れ	56

フロッピーディスク ドライブのお手入れ	56
9 筐体のセキュリティ	57

第3章 増設

1 周辺機器を取り付ける前に	60
取り扱い上の注意	60
2 本体力バーを取り外す	62
本体力バーの取り外し方	62
3 メモリを取り付ける	64
メモリの取り付け場所	65
取り付けられるメモリ	66
メモリを取り付ける	67
4 拡張カードを取り付ける	73
拡張カードの取り付け場所	74
PCI 規格の拡張カードを取り付ける	75
PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付ける	77

第4章 機能

1 ディスプレイ関連	82
解像度と色数について	82
マルチディスプレイ機能	85
マルチディスプレイ機能を設定する	87
2 音量の設定	95
画面上の音量つまみで設定する	95
再生時／録音時の音量設定について	95
3 通信	99
LAN について	99
4 ドライブ関連	101
ドライブ構成	101
DMA の設定	101
5 省電力	103
スタンバイと休止状態	103
注意事項	103
省電力の設定	106
スタンバイまたは休止状態にする	107
スタンバイまたは休止状態からのレジューム	108
6 その他	109
Power Management for Windows	109

第5章 セキュリティ

1 セキュリティについて	112
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	114
コンピュータウイルス対策	114
Windows やソフトウェアのアップデート	116
セキュリティセンター	117
ファイアウォール	118
通信データの暗号化	118
3 不正使用からのセキュリティ	119
Windows のパスワード	119
管理者権限とユーザー アカウント	119
アクセス権と暗号化	120
BIOS のパスワード	120
セキュリティチップ	120
スマートカードリーダ／ライタ	121
Portshutter	121
拡張ウィルス防止機能（Enhanced Virus Protection）	121
エグゼキュート・ディスクエーブル・ビット機能	122
4 ワークステーションの盗難防止	123
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	124
ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意	124
ハードディスクのデータ消去サービスについて	125

第6章 ソフトウェア

1 ソフトウェア一覧	128
各ソフトウェアの紹介	129
アンインストール方法	141
2 ドライバ	142

第7章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	144
2 BIOS セットアップの操作のしかた	145
BIOS セットアップを起動する	145
各キーの役割	146
設定値を変更する	147
BIOS セットアップを終了する	148
Boot Menu を使用する	148
3 メニュー詳細	149
Main メニュー	149
Advanced メニュー	151
Security メニュー	156

PC Health メニュー	159
Info メニュー	160
Exit メニュー	161
4 BIOS のパスワード機能を使う	162
パスワードの種類	162
パスワードを忘れるとき	162
パスワードを設定する	164
パスワードを設定した後は	165
パスワードを変更／削除する	165
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	166
セキュリティチップ	166
6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧	168
エラーメッセージが記録されたときは	168
エラーメッセージ一覧	168

第 8 章 技術情報

1 仕様一覧	172
本体仕様	172
省エネ法に基づくエネルギー消費効率	174
LAN 機能	175
表示機能	175
2 コネクタ仕様	177

第 9 章 トラブルシューティング

1 トラブルに備えて	184
テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	184
Windows のセットアップ後の操作	184
修正プログラムの適用について	185
データのバックアップ	185
ドキュメントの確認	185
2 トラブル発生時の基本操作	186
本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する	186
以前の状態に戻す	186
セーフモードで起動する	187
ハードウェアの競合を確認する	187
バックアップを行う	188
メッセージなどが表示されたらメモしておく	188
診断／修正プログラムを使用する	188
リカバリ	190
3 起動・終了時のトラブル	192
4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル	194

5 ハードウェア関連のトラブル	196
ハードウェア関連のトラブル一覧	196
BIOS	197
メモリ	198
LAN	199
ハードディスク	200
デバイス	201
CD／DVD	201
フロッピーディスク	203
SCSI カード	203
ディスプレイ	204
グラフィックスカード	205
サウンド	206
キーボード	206
マウス	207
USB	207
IEEE1394a	208
サイドカバーキー	208
プリンタ	209
その他	209
6 それでも解決できないときは	210
お問い合わせ先	210
索引	211

Memo

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようにになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	○で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
      ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD/DVD ドライブなどのドライブ名を、[CD/DVD ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

例：[CD/DVD ドライブ]:\\$setup.exe

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■ BIOS 設定の表記

本文中の BIOS 設定手順において、各メニュー やサブメニュー または項目を、「-」(ハイフン) でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」(コロン) の後に記述する場合があります。

例：「Advanced」メニューの「Advanced BIOS Features」で「Boot Menu」の項目を「Disabled」に設定します。

↓

「Advanced」-「Advanced BIOS Features」-「Boot Menu」:Disabled

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ CD-ROM の使用について

本文中の操作手順において、CD-ROM を使用することができます。

操作に必要なドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合は、必要に応じて別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ カスタムメイドオプションについて

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドで選択のオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

■ 製品名の表記

本文中では、製品名称を次のように略して表記します。

なお、本書にはお使いの機種、またはOS以外の情報もあります。お使いの機種、またはOSのところをお読みください。

製品名称	本文中の表記			
CELSIUS J350	J350	ワークステーション ワークステーション本体		
CELSIUS X840	X840			
Microsoft® Windows® XP Professional	Windows XP Professional			
Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition	Windows XP Professional x64 Edition	Windows XP	Windows	
Microsoft® Windows® XP 日本語版 Service Pack	SP			
Microsoft® Office Professional 2007	Office Professional 2007			
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007			
Microsoft® Office Professional Enterprise Edition 2003	Office Professional Enterprise 2003			
Microsoft® Office Personal Edition 2003	Office Personal 2003			
Norton AntiVirus™ 2006	Norton AntiVirus			
Roxio Easy Media Creator	Easy Media Creator			
Adobe® Reader™ 7.0	Adobe Reader			
ATI RADEON® X300 SE PCI-Express 128MB DDR DVI-I ATX	RADEON X300 SE			
NVIDIA® GeForce® 7300 LE	GeForce 7300 LE			
NVIDIA® Quadro® FX 550	Quadro FX 550			
NVIDIA® Quadro® FX 1500	Quadro FX 1500			
NVIDIA® Quadro® FX 3500	Quadro FX 3500			
NVIDIA® Quadro® FX 3500 SLI	Quadro FX 3500 SLI			

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やインターネットのURLアドレスは2007年1月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください(→『取扱説明書』)。

商標および著作権について

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel、Pentium、および Intel Core は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

ATI、RADEON、CATALYST は、ATI Technologies Inc. の商標です。

NVIDIA、NVIDIA Quadro、NVIDIA GeForce は、NVIDIA Corporation の登録商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2007

第1章

各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き 12

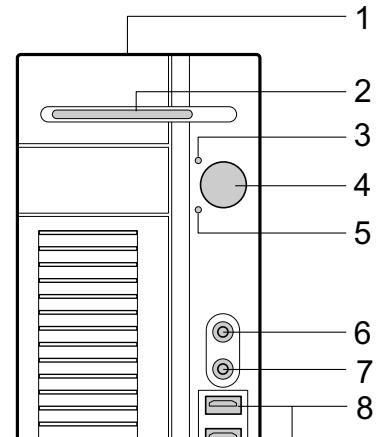
1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、メインボードの各部の名称と働きを説明します。

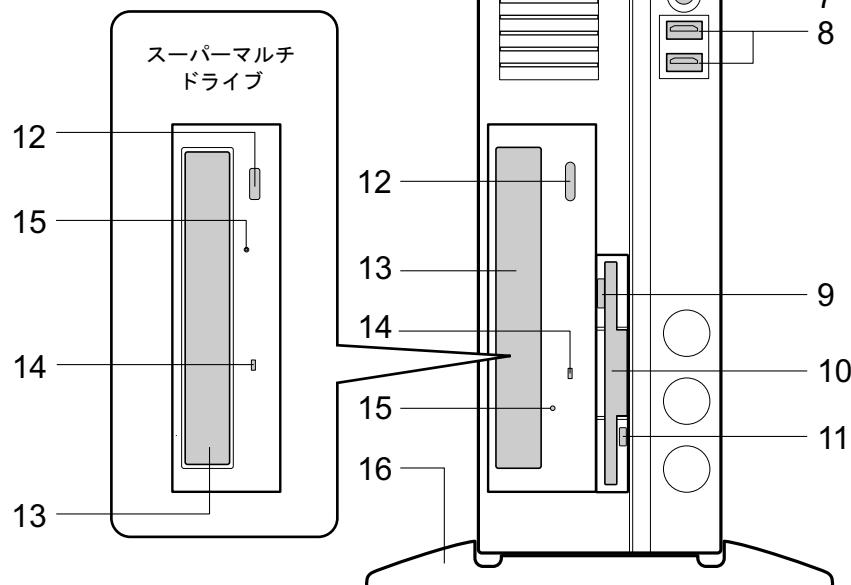
ワークステーション本体前面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

- カスタムメイドで CD-ROM ドライブおよび FDD 追加を選択した場合



- カスタムメイドでスーパーマルチ ドライブを選択した場合



1 通風孔

ワークステーション本体内部を冷却するために空気を取り込みます。

ワークステーションを設置する際は、通風孔をふさがないように注意してください。

2 スマートカードベイ ()

カスタムメイドで選択したスマートカードリーダ／ライタが取り付けられています。

3 電源ランプ (①)

ワークステーション本体に電源が入っているときに緑色に点灯します。
スタンバイ状態（省電力状態）時にはオレンジ色に点灯します。
ワークステーション本体に電源が入っていないときは消灯しています。

4 電源ボタン (④)

次の場合に押します。

- ・ワークステーション本体の電源を入れるとき
- ・スタンバイ状態（省電力状態）にするとき
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの設定を変更してください。
「機能」－「省電力」（→ P.103）
- ・スタンバイ状態から復帰（リジューム）するとき

5 ディスクアクセスランプ (⑤)

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点滅します。また、CD-ROM ドライブによっては、CD にアクセスしているときに点滅する場合があります。

6 マイク端子 (⑥)

市販のコンデンサマイクを接続することができます。

7 ヘッドホンアウト端子 (⑦)

市販のヘッドホンなどのオーディオ機器を接続することができます。

スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

ヘッドホンアウト端子にオーディオ機器を接続した場合は、ワークステーション本体背面のラインアウト端子はお使いになれます。

8 USB コネクタ (⑧)

USB 規格の周辺機器を接続することができます。USB2.0 に準拠しています。

9 フロッピーディスク取り出しボタン

カスタムメイドでFDD 追加を選択している場合、フロッピーディスクを取り出すときに押します。

フロッピーディスクアクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

10 フロッピーディスク ドライブ

カスタムメイドでFDD 追加を選択している場合、フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりします。

「ハードウェア」－「フロッピーディスクについて」（→ P.40）

11 フロッピーディスクアクセスランプ

カスタムメイドでFDD 追加を選択している場合、フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出しているときに点滅します。

12 CD/DVD 取り出しボタン

CD-ROM や音楽 CD をセットするときや取り出すときに押します。ワークステーション本体の電源が入っているときにお使いになります。

CD アクセスランプが点滅しているときは、押さないでください。

13 CD-ROM ドライブ

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽用 CD を再生したりします。

カスタムメイドの選択によっては、次のドライブが取り付けられています。

- ・CD-ROM ドライブ
- ・スーパーマルチドライブ

「ハードウェア」－「CD / DVD について」（→ P.30）

14 CD アクセスランプ

CD-ROMからデータを読み出しているときや音楽CDを再生しているときに点滅します。

15 ディスク取り出し穴

CD/DVD取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合に使用します。

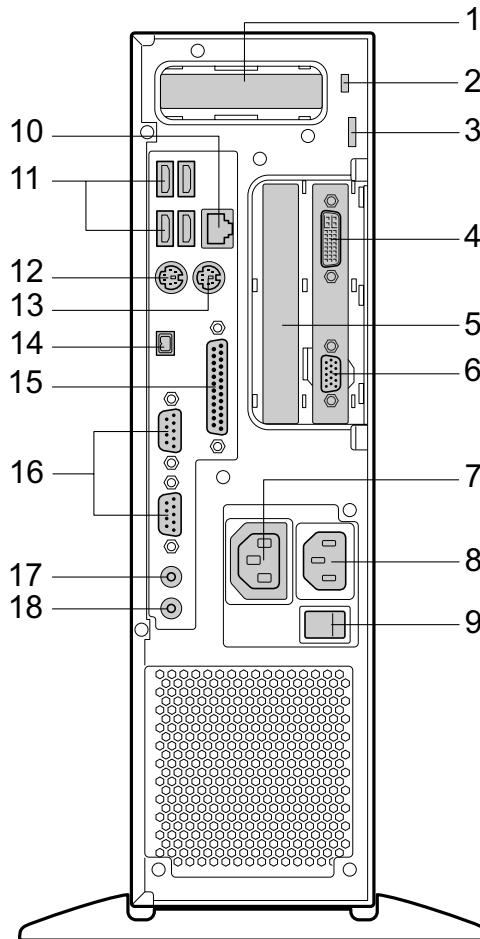
電源を切断した後、クリップなどの細いワイヤをディスク取り出し穴に挿入するとトレーが出てきます。媒体を取り出した後、トレーを静かに元の位置に戻します。緊急時以外は使用しないでください。

16 フット

本ワークステーションをお使いになるときに取り付ける台座です（→『取扱説明書』）。

ワークステーション本体背面

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カード（Low Profile 対応）を取り付けることができます。
「増設」 - 「拡張カードを取り付ける」（→ P.73）

2 盗難防止用ロック取り付け穴

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

3 セキュリティ施錠金具

市販の鍵を取り付けることができます。

「ハードウェア」 - 「筐体のセキュリティ」（→ P.57）

4 DVI-I コネクタ（）

ディスプレイを接続することができます。DVI-VGA 変換ケーブルまたはデジタルディスプレイのディスプレイケーブルが使用できます。
カスタムメイドの選択によっては、コネクタの数が異なります。

5 拡張カードスロット

PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付けることができます。

カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.73)

6 アナログ RGB コネクタ

ディスプレイを接続することができます。アナログ RGB 規格のディスプレイケーブルが使用できます。

なお、カスタムメイドの選択によっては、本コネクタはありません。

7 アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続することができます。

8 インレット

電源ケーブルを接続することができます。

9 メインスイッチ

ワークステーション本体の電源を完全に切る場合に「オフ」にします。「|」側が「オン」で「○」側が「オフ」です。

「オフ」にすると、電源ボタンを押しても、ワークステーション本体の電源は入りません。通常は「オン」のままお使いください。

ただし、長期間お使いにならない場合は、「オフ」にしてください(→『取扱説明書』)。

10 LAN コネクタ (昌)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続することができます。

1000Mbps でお使いになる場合、エンハンスドカテゴリ 5 のケーブルが必要です。

100Mbps でお使いになる場合、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、次のとおりです。

	上部 LED (Speed)	下部 LED (Link/Act)
1000Mbps で LINK を確立	オレンジ点灯	緑色点灯 <small>注</small>
100Mbps で LINK を確立	緑色点灯	緑色点灯 <small>注</small>
10Mbps で LINK を確立	消灯	緑色点灯 <small>注</small>

注：データ転送中：緑色点滅

11 USB コネクタ (•↔+)

USB 規格の周辺機器を接続することができます。USB2.0 に準拠しています。

12 キーボードコネクタ (■)

PS/2 キーボードを接続することができます。

「ハードウェア」－「キーボードについて」(→ P.27)

13 マウスコネクタ (白)

PS/2 マウスを接続することができます。

「ハードウェア」－「マウスについて」(→ P.24)

14 IEEE1394a 端子 (1394)

IEEE1394a 規格の周辺機器を接続することができます。

15 パラレルコネクタ (昌)

プリンタやスキャナなどを接続することができます。

16 シリアルコネクタ（[□□□]）

RS-232C 規格に対応した周辺機器を接続することができます。

17 ラインアウト端子（[↔↔]）

サウンド出力用端子です。オーディオ機器の入力端子と接続することができます。

スピーカーを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

ワークステーション本体前面のヘッドホンアウト端子にオーディオ機器を接続した場合、お使いになれません。

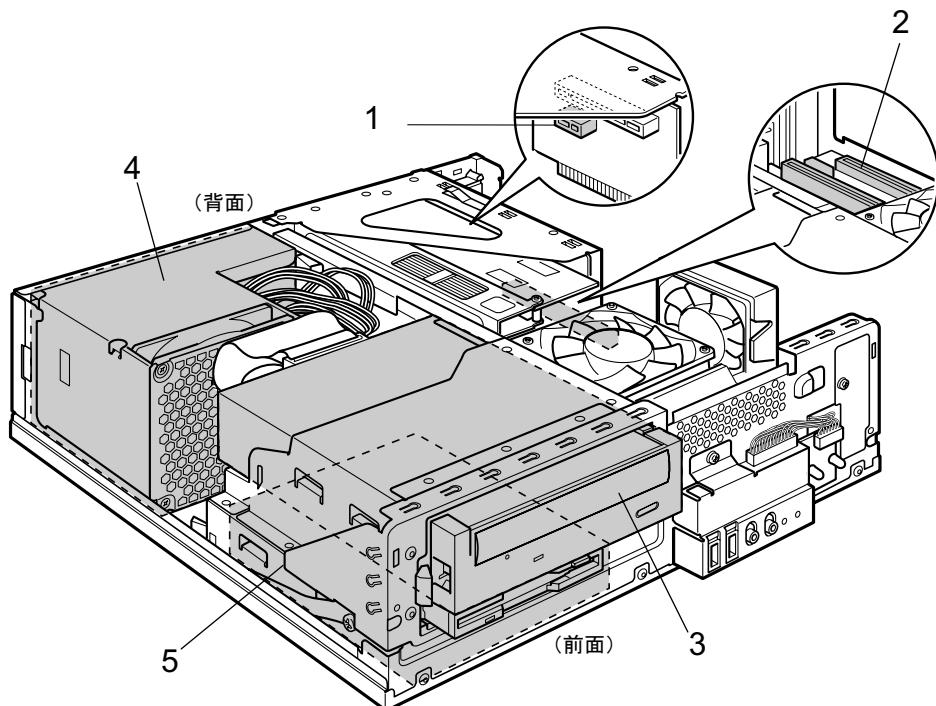
18 ラインイン端子（[↔↔]）

サウンド入力用端子です。オーディオ機器の出力端子と接続することができます。

ワークステーション本体内部

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。

- カスタムメイドで CD-ROM ドライブおよび FDD 追加を選択した場合



1 拡張カードスロット

PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付けることができます。

カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合は、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.73)

2 拡張カードスロット

32bit/33MHz PCI カードを取り付けることができます。

「増設」－「拡張カードを取り付ける」(→ P.73)

3 5 インチファイルベイ

カスタムメイドの選択によって、次のドライブが取り付けられています。

- ・CD-ROM ドライブ
- ・スーパーマルチドライブ

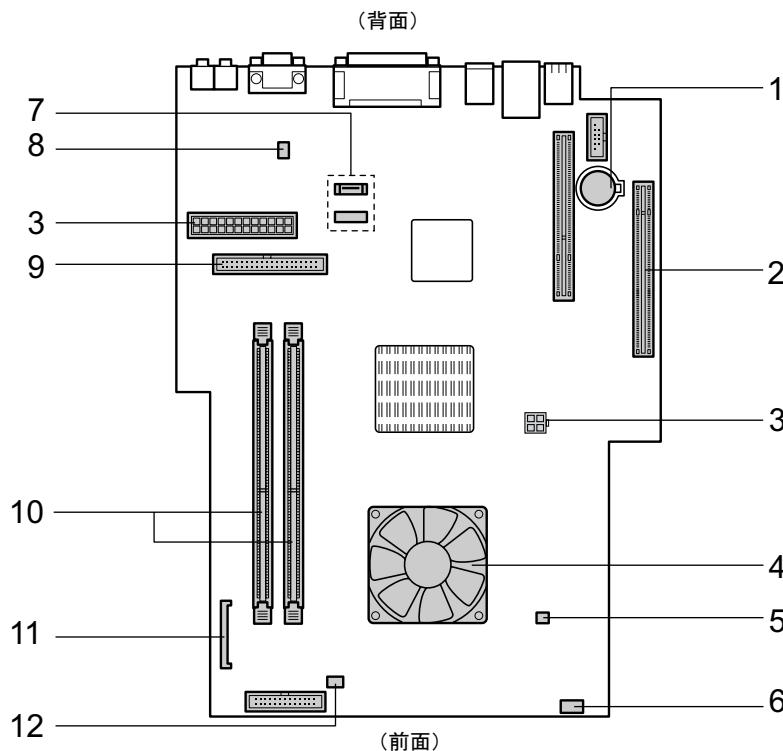
4 電源ユニット

5 3.5 インチファイルベイ

内蔵ハードディスクが取り付けられています。

メインボード

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 内蔵バッテリ

本ワークステーションの時計機能とBIOSセットアップで設定した設定値を保存するためのバッテリです。標準の使用状態（1日約8時間）で約5年間お使いになれます。

2 PCI コネクタ

32bit/33MHz PCI カード（Low Profile 対応）を取り付けることができます。

3 電源コネクタ

4 CPU (ヒートシンクの下にあります)

5 温度センサー (System)

6 System FAN コネクタ

7 Serial ATA コネクタ

Serial ATA インターフェースのハードディスクを接続するケーブルが接続されています。Serial ATA コネクタ 1 に標準のハードディスク（Serial ATA HDD）が接続されているケーブルが接続されています。

8 温度センサー (Rear)

9 パラレル ATA コネクタ

CD-ROM ドライブが接続されているケーブルが接続されています。

10 DIMM スロット

メモリが取り付けられています。

図中右から、DIMM1、DIMM2 の順に並んでいます。

「増設」—「メモリを取り付ける」(→ P.67)

11 フロッピーコネクタ

カスタムメイドで FDD 追加を選択している場合、フロッピーディスクドライブと接続されているケーブルが接続されています。

12 CPU FAN コネクタ

第2章

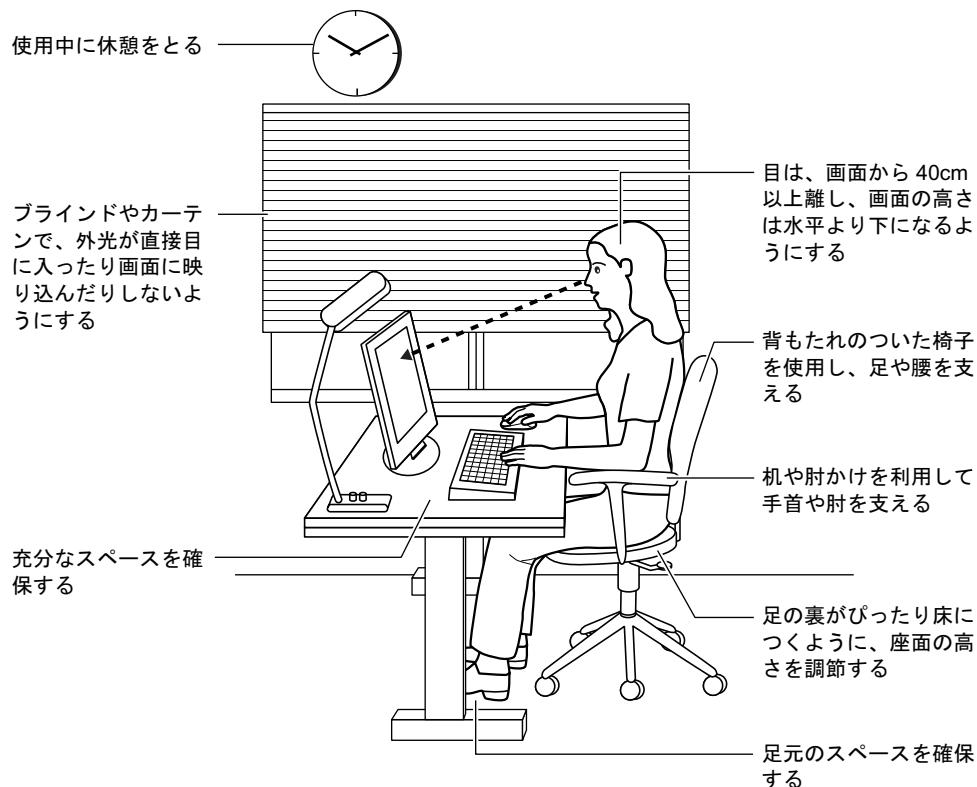
ハードウェア

本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1 疲れにくい使い方	22
2 マウスについて	24
3 キーボードについて	27
4 CD／DVDについて	30
5 フロッピーディスクについて	40
6 ハードディスクについて	43
7 CPUについて	44
8 ハードウェアのお手入れ	45
9 筐体のセキュリティ	57

1 疲れにくい使い方

ワークステーションを長時間使い続ければ、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。ワークステーションをお使いの際は姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。



ディスプレイ

- 外光が直接目に入ったり画面に映り込んだりしないように、窓にブラインドやカーテンを取り付けたり、画面の向きや角度を調整しましょう。
- 画面の輝度や文字の大きさなども見やすく調整しましょう。
- ディスプレイの上端が目の位置と同じかやや低くなるようにしましょう。
- ディスプレイの画面は、顔の正面にくるように調整しましょう。
- 目と画面の距離は、40cm 以上離すようにしましょう。

使用時間

- 1 時間以上続けて作業しないようにしましょう。続けて作業をする場合には、1 時間に 10 ~ 15 分程度の休憩時間をとりましょう。また、休憩時間までの間に 1 ~ 2 分程度の小休止を 1 ~ 2 回取り入れましょう。

入力機器

- キーボードやマウスは、肘の角度が 90 度以上になるようにして使い、手首や肘は机、椅子の肘かけなどで支えるようにしましょう。

机と椅子

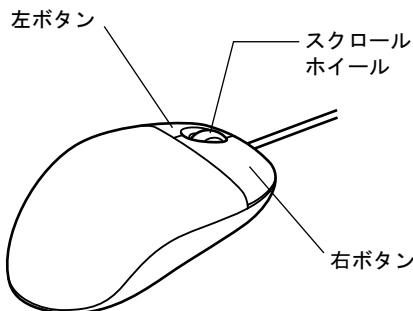
- 高さが調節できる机や椅子を使いましょう。調節できない場合は、次のように工夫しましょう。
 - ・机が高すぎる場合は、椅子を高く調節しましょう。
 - ・椅子が高すぎる場合は、足置き台を使用し、低すぎる場合は、座面にクッションを敷きましょう。
- 椅子は、背もたれ、肘かけ付きを使用しましょう。

作業スペース

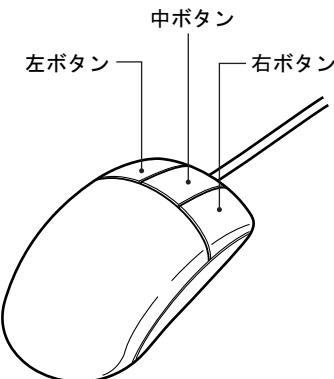
- 机上のワークステーションの配置スペースと作業領域は、充分確保しましょう。スペースが狭く、腕の置き場がない場合は、椅子の肘かけなどを利用して腕を支えましょう。

2 マウスについて

■ 2ボタンマウス



■ 3ボタンマウス



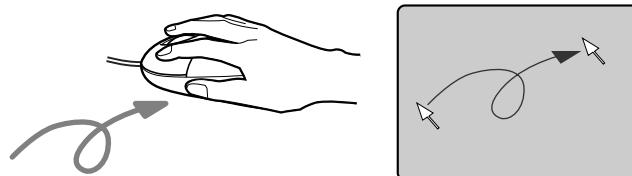
POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングしてください（→ P.55）。

マウスの使い方

■ マウスの動かし方

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



■ ボタンの操作

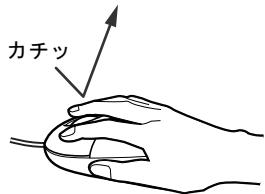
● クリック

マウスの左ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。



● 右クリック

マウスの右ボタンをカチッと1回押して、すぐ離すことです。



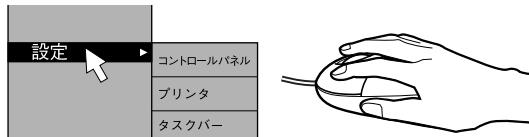
● ダブルクリック

マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。



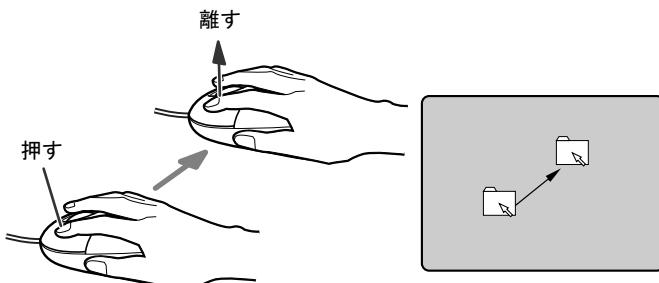
● ポイント

マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合（メニューの右端に▶が表示されています）、そのメニューが表示されます。



● ドラッグ

マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。



● スクロール（スクロールボタン付きのマウスのみ）

- ・スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・スクロール機能は、対応したソフトウェアで使うことができます。

POINT

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ウィンドウで右利き用（主な機能に左側のボタンを使用）に設定した場合の操作です。
- ▶ 3ボタンマウスの場合、中ボタンは対応するソフトウェアで使用できます。

光学式マウスについて

光学式マウスは、底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカル（光学）センサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上だけでなく、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

◀ 重要

- ▶ オプティカル（光学）センサーについて
 - ・マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、眼に悪い影響を与えることがありますので避けてください。
 - ・センサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
 - ・発光部分を他の用途に使用しないでください。

POINT

- ▶ 光学式マウスは、次のようなものの表面では、正しく動作しない場合があります。
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- ▶ マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。
- ▶ 光学式マウスは、非接触でマウスの動きを検知しているため、特にマウスパッドを必要としません。ただし、マウス本体は接触しているので、傷がつきやすい机やテーブルの上では、傷を防止するためにマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

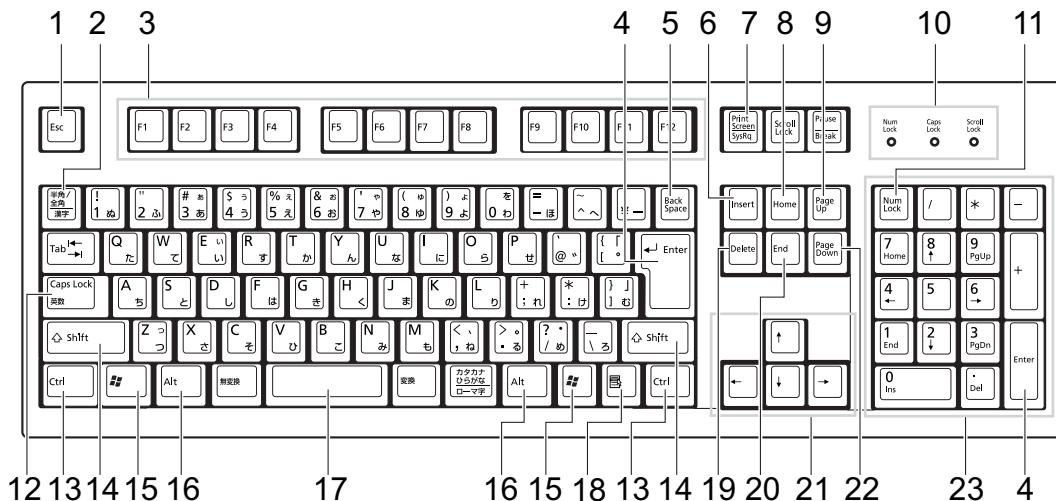
3 キーボードについて

キーボード（109A 日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- お使いになるソフトウェアにより、キーの役割が変わることがあります。
ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

各番号をクリックすると説明箇所へジャンプします。



1 【Esc】キー

ソフトウェアの実行中の操作を取り消します。また、【Ctrl】 + 【Shift】キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウが表示され、ソフトウェアを強制終了できます。

2 【半角／全角】キー

文字の入力時に、半角と全角を切り替えます。

3 【F1】～【F12】キー

ソフトウェアごとにいろいろな役割が割り当てられています。

4 【Enter】キー

入力した文字を確定したり、文を改行したり、コマンドを実行したりします。
リターンキー、または改行キーとも呼ばれます。

5 【Back Space】キー

カーソルの左にある文字や選択した範囲の文字を削除します。

6 【Insert】キー

文字の入力時に、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

7 【Print Screen】キー

画面のコピーをクリップボードに取り込みます。また、【Alt】キーと一緒に押すと、アクティブになっているウィンドウのコピーをとることができます。

8 【Home】 キー

カーソルを行の最初に一度に移動します。

【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最初に一度に移動します。

9 【Page Up】 キー

前の画面に切り替えます。

10 インジケータ

【Num Lock】 キー、【Shift】 + 【Caps Lock 英数】 キー、【Scroll Lock】 キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

11 【Num Lock】 キー

テンキーの機能を切り替えます。再度押すと、解除されます。

12 【Caps Lock 英数】 キー

【Shift】 キーと一緒に押して、アルファベットの大文字／小文字の入力モードを切り替えます。

Caps Lock を ON にすると大文字、OFF にすると小文字を入力できます。

13 【Ctrl】 キー

他のキーと一緒に組み合わせて使います。

14 【Shift】 キー

他のキーと一緒に組み合わせて使います。

15 【 (Windows) キー

「スタート」メニューを表示します。

16 【Alt】 キー

他のキーと一緒に組み合わせて使います。

17 【Space】 キー

空白を入力します（キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです）。

18 【 (アプリケーション) キー

選択した項目のショートカットメニューを表示します。

マウスの右クリックと同じ役割をします。

19 【Delete】 キー

カーソルの右にある文字や選択した範囲の文字、または選択したアイコンやファイルなどを削除します。

また、【Ctrl】 + 【Alt】 キーと一緒に押すと、「Windows タスクマネージャ」ウィンドウまたは「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示され、システムを強制終了できます。

20 【End】 キー

カーソルを行の最後に移動します。

【Ctrl】 キーと一緒に押すと、文章の最後に移動します。

21 カーソルキー

カーソルを移動します。

22 【Page Down】 キー

次の画面に切り替えます。

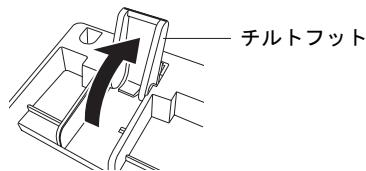
23 テンキー

「Num Lock」 インジケータ点灯時に数字が入力できます。

「Num Lock」 インジケータ消灯時にキーワードに刻印された機能が有効になります。

 POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



4 CD／DVDについて

CD／DVD の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

重要

- ▶ ここでは、CD-ROM、音楽CD および CD-R/RW ディスクをまとめて CD、DVD-ROM や DVD-Video などをまとめて DVD と呼んでいます。また、CD や DVD をまとめてディスクと呼びます。
- ▶ カスタムメイドで選択したドライブによって、使用できるディスクは異なります。
- ▶ 「Easy Media Creator」、「DVD-RAM ドライバーソフト」については「ソフトウェア」—「ソフトウェア一覧」(→ P.128) をご覧ください。

取り扱い上の注意

■ ディスクご使用時の注意事項

- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ワークステーション本体のCD アクセスランプが点灯中は、振動や衝撃を与えないでください。
- CD 自動挿入機能（オートラン）が有効に設定されていると、正しく書き込みができないタイミングソフトウェアがあります。ソフトウェアの指示に従って CD 自動挿入機能を設定してください。
- ディスクに書き込み中は、ワークステーション本体の電源を切ったり、再起動したり、CD/DVD 取り出しボタンを押したりしないでください。また、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作もしないでください。
- 書き込み中にディスクのディスク面に傷を検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- ディスクへの書き込みを行うときは、自動的にスタンバイまたは休止状態にならないよう に、省電力の設定を変更してください。
- ディスクへの書き込み中は、他のソフトウェアを起動しないでください。他のソフトウェアを起動している場合は、そのソフトウェアを終了させてください。

■ DVD ディスクご使用時の注意事項

- 次の DVD ディスクがお使いになれます。
 - ・ DVD ディスクに記録されているリージョンコードに「2」が含まれているか、「ALL」と書かれているディスク

- DVD-Video を再生するためには、別途ソフトウェアをご購入していただく必要があります。Windows XP Professional モデルで推奨しているソフトウェアは次のとおりです。
 - ・「WinDVD™ 7」
- ディスクの種類によっては、専用の再生ソフトが添付されている場合があります。ディスクに添付されている再生ソフトについては、弊社では保証いたしません。
- リージョン（地域）コードについて
 - ・リージョン（地域）コードの変更は 4 回までです。
リージョン（地域）コードを 4 回変更すると、最後に設定したリージョン（地域）コードに固定され、その他のリージョン（地域）コードの DVD-Video は再生できなくなります。固定されたリージョン（地域）コードを変更する方法はありませんのでご注意ください。
 - ・前回再生した DVD-Video と、リージョン（地域）コードが異なる DVD-Video を再生しようとすると、リージョン（地域）コード変更を確認するメッセージ画面が表示されます。このメッセージ画面で「OK」をクリックすると、リージョン（地域）コードの設定が変更されます。
 - ・ご購入時のリージョン（地域）コードは「2」です。
- DVD のディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。

■ ドライブの注意事項

- 本ワークステーションは、円形のディスクのみお使いになれます。円形以外の異形ディスクは、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形ディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 「ディスクご使用時の注意事項」が守られていないディスク、ゆがんだディスク、割れたディスク、ヒビの入ったディスクはお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。これらのディスクをお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm ~ 1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 市販の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクはお使いにならないでください。
- コピーコントロール CD は、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本ワークステーションでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。



POINT

- ▶ スーパーマルチドライブをお使いの場合は、次の点にご注意ください。
 - ・不正コピー防止の仕様に準拠していない DVD ディスクやビデオ CD は、正常に再生できない場合があります。
 - ・本ワークステーションでは DVD-Audio など「使用できるディスク」(→ P.32) に記載されていないディスクの再生および動作保証はできません。

使用できるディスク

本ワークステーションで使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。お使いのドライブの表をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションでは8cmおよび12cmのディスクをお使いになります。ただし、8cmのディスクをお使いになる場合は、ワークステーション本体を横置きにしてください。

□ CD-ROM ドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	×	×
CD-RW		○	×	×

□ スーパーマルチドライブの場合

		読み込み	書き込み	書き換え
CD-ROM		○	×	×
音楽 CD		○	×	×
ビデオ CD		○	×	×
CD-R		○	○注1	×
CD-RW 注2		○	○注1注3	○注3
DVD-ROM		○	×	×
DVD-Video		○	×	×
DVD-R (for Authoring) (3.95GB / 4.7GB)		○	×	×
DVD-R (for General) (4.7GB)		○	○注1	×
DVD-R DL (8.5GB)		○	○注4	×
DVD-RW		○	○注1注3	○注3
DVD+R (4.7GB)		○	○注1	×
DVD+R DL (8.5GB)		○	○注1	×
DVD+RW (4.7GB)		○	○注1注3	○注3
DVD-RAM 注5 (4.7GB / 9.4GB)		○	○	○
DVD-RAM2 注6		○	○	○

- 注 1 : CD-R や CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW へのデータの追記は「Easy Media Creator」で行います。なお、データの追記を行うためには、「Easy Media Creator」を使って CD/DVD にデータの書き込みを行う際に、CD/DVD を追記可能な状態にしておく必要があります。
詳しくは、「Easy Media Creator」のヘルプをご覧ください。
- 注 2 : 書き換え速度については、最大 10 倍速までを保証します。
- 注 3 : CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータを削除するには、ディスクに書き込まれているデータをすべて消去する必要があります。
- 注 4 : DVD-R DL には追記はできません。
- 注 5 : • DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。
• 2.6GB および 5.2GB のディスクは、使用できません。
- 注 6 : • DVD-RAM2 は、5 倍速までの従来規格の DVD-RAM と異なり、6、8、12、16 倍速に対応した DVD-RAM です。
• DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをご購入ください。
カートリッジに入れた状態で使用するタイプ (Type1) は使用できません。また、無理に取り出して使わないでください。

推薦ディスク

本ワークステーションで書き込み、書き換えを行う場合は、次のディスクをお使いになることをお勧めします。なお、使用できるディスクは、カスタムメイドの選択によって異なります。

ディスク	メーカー	メーカー型名
CD-R	太陽誘電	CDR80WTY、CDR80WPY、CDR-74WPY
CD-RW	三菱化学メディア	SW74QU1、SW74EU1、SW80QU1、SW80EU1
DVD-R	三菱化学メディア	DHR47JP
	太陽誘電	DR-47WTY
DVD-R DL	三菱化学メディア	DHR85YP1
DVD-RW	日本ビクター	VD-W47H
DVD+R	三菱化学メディア	DTR47JP
	太陽誘電	DR+47WTY
DVD+R DL	三菱化学メディア	DTR85H1
DVD+RW	リコー	D4RWD-S1CW、D8RWD-S1CW
	三菱化学メディア	DTW47U1
DVD-RAM	日立マクセル	DRM47C.1P (4.7GB、カートリッジ無)、 DRMC47C.1P (4.7GB、カートリッジ有、取り出し可)、 DRMC94C.1P (9.4GB、カートリッジ有、取り出し可)
DVD-RAM2	日立マクセル	DRM47D.1P (4.7GB、カートリッジ無)

上記以外の記録型ディスクをお使いの場合は、書き込み、書き換え速度の低下や正常に書き込み、書き換えができない場合があります。

POINT

- ▶ カスタムメイドでスーパーマルチドライブを選択した場合は、次のことにご注意ください。
 - ・本ワークステーションで作成した CD-R/CD-RW は、お使いになる CD プレーヤーによっては再生できない場合があります。
 - ・本ワークステーションで作成した DVD-RAM、DVD-R/RW、DVD-R DL、DVD+R/RW および DVD+R DL は、お使いになる DVD プレーヤーによっては、再生できない場合があります。
 - また、再生に対応した DVD プレーヤーをお使いの場合でも、ディスクの記録状態によっては再生できない場合があります。
 - ・ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視などを行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

DVD-RAMへの書き込み／書き換えについて

本ワークステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM を作成する場合には、あらかじめ DVD-RAM ディスクをフォーマット（初期化）する必要があります。

9.4GB の両面タイプのDVD-RAMディスクについては、片面ごとにフォーマットしてください。

2.6/5.2GB の DVD-RAM ディスクについては使用できません。

■ DVD-RAM のフォーマット形式

DVD-RAM ディスクのフォーマットには、次のものがあります。

□ FAT 形式

Windows の標準フォーマットで、ハードディスクなどでも使用されています。

- FAT32

Windows の標準フォーマットです。

□ UDF (Universal Disk Format) 形式

DVD の統一標準フォーマットです。UDF 形式でフォーマットした DVD-RAM メディアでは、エラーチェックツールや最適化（デフラグ）ツールは実行できません。

- UDF1.5

DVD-RAM ディスクの標準フォーマットです。

- UDF2.0（「DVD-RAM ドライバーソフト」のみ選択可能）

DVD フォーラム策定の「ビデオレコーディングフォーマット規格」準拠のフォーマットです。

■ ソフトウェアについて

本ワークステーションのスーパーマルチドライブで DVD-RAM に書き込み、書き換える場合は、次のソフトウェアがお使いになります。

- Windows 標準のドライバ

Windows が標準でサポートしているドライバで DVD-RAM の書き込み、書き換えを行うことができます。

DVD-RAM のフォーマット形式は、FAT32 に対応しています。

「DVD-RAM ドライバーソフト」をインストールすると、機能が強化されます。

- 「DVD-RAM ドライバーソフト」

ハードディスクと同様の操作で DVD-RAM に書き込み、書き換えを行う場合は、「DVD-RAM ドライバーソフト」をインストールしてください。インストールする場合は、「DVD-RAM ドライバーソフト」CD-ROM を用意してください。

インストール方法は、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」（→ P.128）をご覧ください。

DVD-RAM のフォーマット形式は、FAT32、UDF1.5 および UDF2.0 に対応しています。

■ DVD-RAM ディスクに書き込むための準備

DVD-RAM ディスクに書き込む前に、ドライブの設定を変更し、DVD-RAM ディスクをフォーマットしてください。

- 初めてDVD-RAMディスクに書き込む場合は、次の手順でドライブの設定を変更してください。

1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
2. DVD-RAM を割り当てているドライブを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3. 「書き込み」タブで「このドライブで CD 書き込みを有効にする」のチェックを外します。
4. 「OK」をクリックします。

- DVD-RAM ディスクをフォーマットする場合は、お使いになる目的にあわせて、フォーマット形式を選んでください。

ディスクをセットする／取り出す

△注意



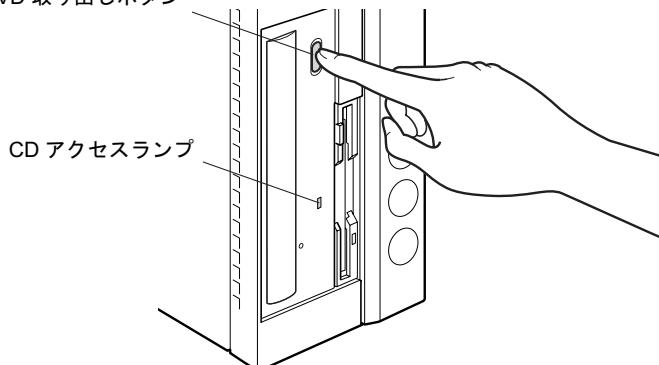
- CD や DVD をセットするとき、および取り出すときには、CD/DVD ドライブのトレーに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

■ ディスクをセットする

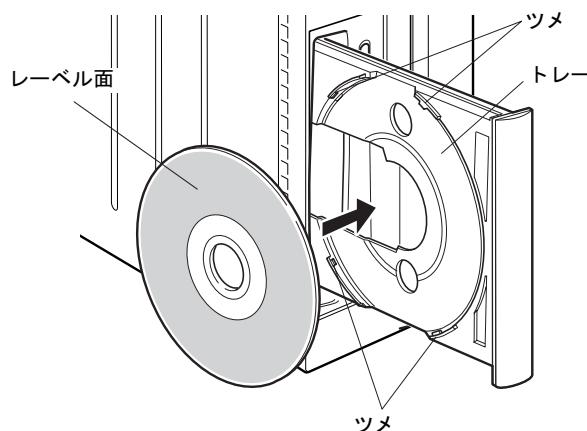
□ カスタムメイドで CD-ROM ドライブ／スーパーマルチドライブを選択した場合

- 1 CD/DVD 取り出しボタンを押します。
ディスクをセットするトレーが出てきます。

CD/DVD 取り出しボタン

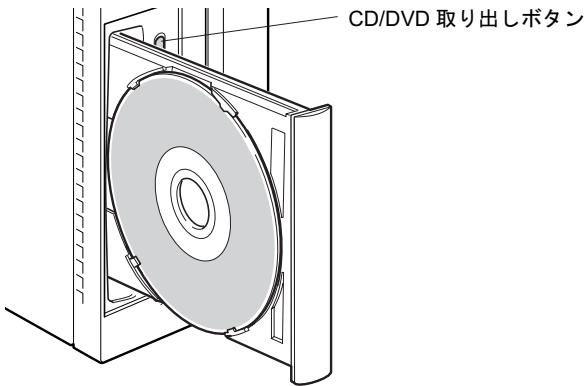


- 2 ディスクのラベル面を左にして、トレーの中央に置きます。
ディスクの落下を防止するためのツメ（4ヶ所）で固定します。



3 CD/DVD 取り出しボタンを押します。

トレーがワークステーション本体に入り、ディスクがセットされます。



POINT

- ▶ ディスクをセットすると、CD アクセスランプが点滅します。CD アクセスランプが消えたことを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ ディスクをセットしてから使用可能となるまでしばらく時間がかかります。また、マルチセッションディスクの場合、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。
- ▶ トレーが入っている途中で CD/DVD 取り出しボタンを押すと、トレーが正しくセットされません。

■ ディスクを取り出す

ディスクを取り出す場合は、CD アクセスランプが消えていることを確認してから、CD/DVD 取り出しボタンを押してください。

5 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法を説明します。

◀ 重要

- ▶ カスタムメイドの選択によっては、フロッピーディスク ドライブは搭載されていません。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露させたり、濡らしたりしないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

△ 注意



- フロッピーディスクをセットするとき、および取り出すときには、フロッピーディスク ドライブの差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

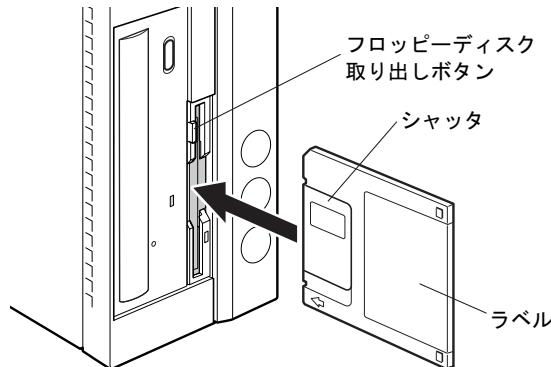
○ POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクをセットする

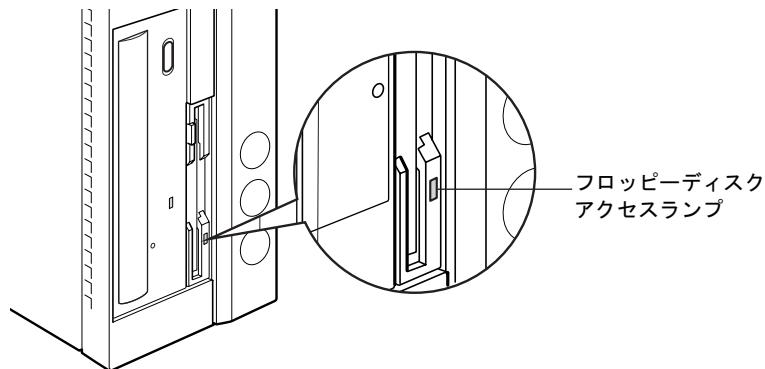
- 1** ラベル面を左にしてシャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクを取り出す

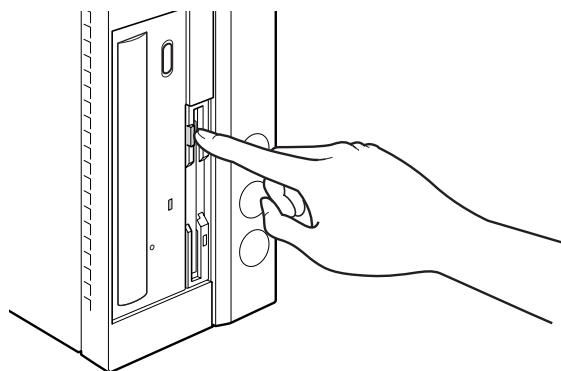
- 1** フロッピーディスクアクセスランプが消えていることを確認します。



POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセスランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2** フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



6 ハードディスクについて

ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

注意事項

故障の原因となりますので、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きをしています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態で本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所でのご使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所でのご使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所でのご使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでのご使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露させたり、濡らしたりしないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

7 CPUについて

本ワークステーションに搭載されているCPUで使用できる機能は、次のとおりです。

■ 重要

- ▶ ここで説明するCPUの各機能は、Windows XPモデルで、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）をインストールした場合のみお使いになれます。その他のOSをお使いになる場合の動作保証はいたしません。
なお、Windows XPモデルには、あらかじめWindows XP SP2がインストールされています。

■ エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能は、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載（以降、Windows XP SP2）のデータ実行防止（DEP）機能と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

この機能を有効にするか無効にするかは、BIOSセットアップで設定します。ご購入時は、有効に設定されています。

この機能を有効にした場合は、次のようにになります。

- 「システムのプロパティ」ウィンドウの「全般」タブに、「物理アドレス拡張」というメッセージが表示されます。
- データ実行防止（DEP）機能がウイルスやその他の脅威を検出した場合、「データ実行防止」ウィンドウに「コンピュータの保護のため、このプログラムはWindowsにより終了されました。」というメッセージが表示されます。

この場合は、「データ実行防止」ウィンドウの「その他の詳細情報を表示します。」をクリックして表示される対処方法に従ってください。

■ デュアルコア・テクノロジー機能

デュアルコア・テクノロジー機能は、1つのCPUに2つのコアを実装する技術でソフトウェアの複数処理の性能を高め、作業効率を上げることができます。

8 ハードウェアのお手入れ

ワークステーション本体のお手入れ

本ワークステーションを長期間お使いになると、ワークステーション本体に汚れが付着したり、ほこりがたまることがあります。そのままお使いになると、ワークステーションが故障しやすくなります。ワークステーション本体は、定期的に清掃してください。

⚠ 警告



- お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

■ 清掃方法

ワークステーション本体に付着した汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

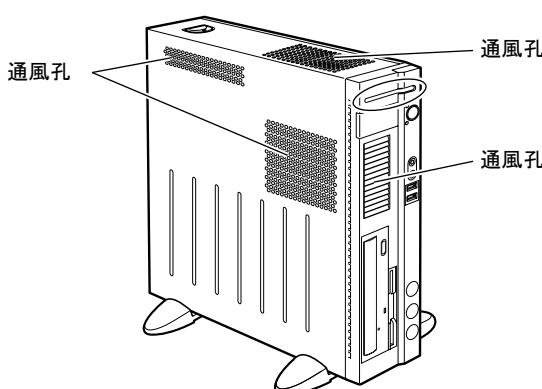
- から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。ワークステーション本体を損傷する原因となります。

ワークステーション本体内部のほこりは、掃除機などで吸引してください。

■ ほこりがたまりやすい箇所

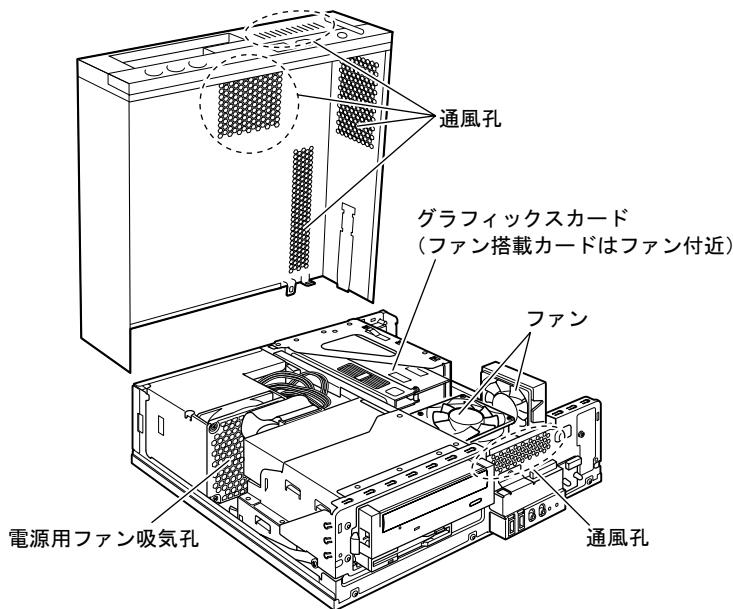
- ワークステーション本体前面や通風孔

次の図の○が付いている箇所、および通風孔にほこりがたまらないよう気を付けてください。



● ワークステーション本体内部

通風孔の内側、ヒートシンク、ファン、電源用ファンの吸気口、およびグラフィックスカードにほこりがたまらないよう気を付けてください。



重要

- ▶ ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、CPU ファンの羽根および他のワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。
- ▶ 清掃時には、充分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、充分に換気してください。

ヒートシンクのお手入れ

■用意するもの

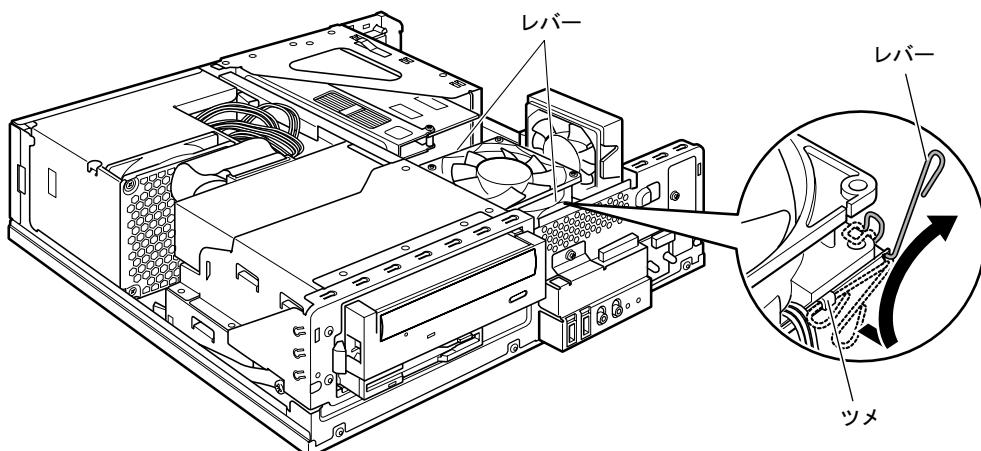
- 掃除機
- 綿手袋

■清掃方法

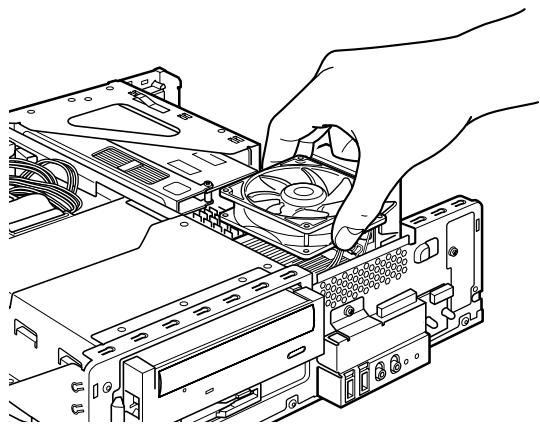
重要

- ▶ 感電の恐れがありますので、清掃前には必ずワークステーション本体や周辺機器の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ▶ ワークステーション本体内部の突起物には触れないでください。
異音や故障の原因となりますので、ファンの羽根およびそのほかのワークステーション本体内部の突起物には、極力手を触れないでください。
- ▶ ワークステーション本体内部は静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまたま静電気によって破壊される場合があります。
ワークステーション本体内部のお手入れをする前に、一度金属質のものに手を触れたり金属質のものに掃除機の吸引口先端を触れさせたりして、静電気を放電してください。
- ▶ 清掃時には、充分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇をまわしたりするなどして、充分に換気してください。
- ▶ 故障の原因となりますので、洗剤を使用しないでください。
- ▶ 清掃時に破損した場合は、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分にご注意ください。

- 1 「本体力バーを取り外す」(→ P.62) をご覧になり、本体力バーを取り外します。
- 2 CPU ファンの両側のレバー（2ヶ所）を外します。
レバーを下に押してツメから外し、上に持ち上げます。



- 3** CPU ファンの外枠のフレームを持って、CPU ファンをヒートシンクから取り外します。

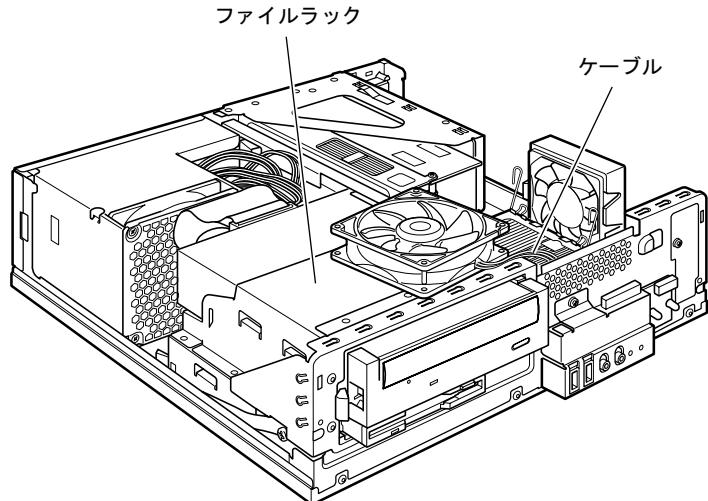


重要

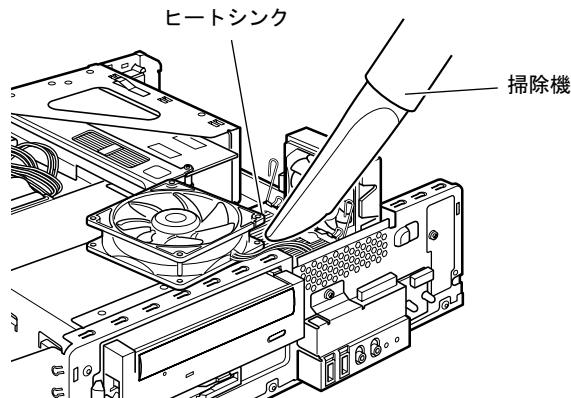
▶ CPU ファンを持つときは、CPU ファンの羽根に触れたりしないようにしてください。

- 4** 取り外した CPU ファンを、ファイルラック部に置きます。

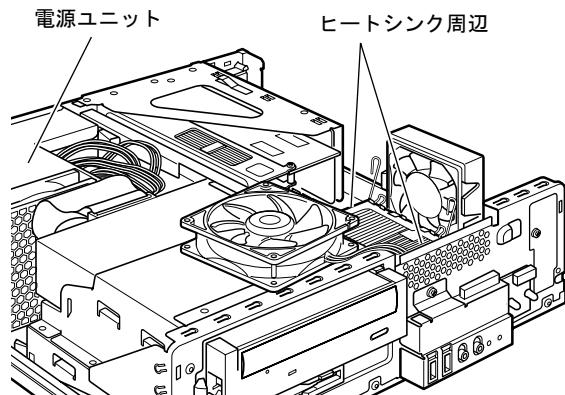
CPU ファンのケーブルコネクタが抜けないように注意してください。強く引っ張るとケーブルコネクタが抜ける場合があります。



5 掃除機でヒートシンク上のほこりを直接吸い取ります。



続いて、電源ユニットやヒートシンク周辺のほこりを掃除機で吸い取ります。

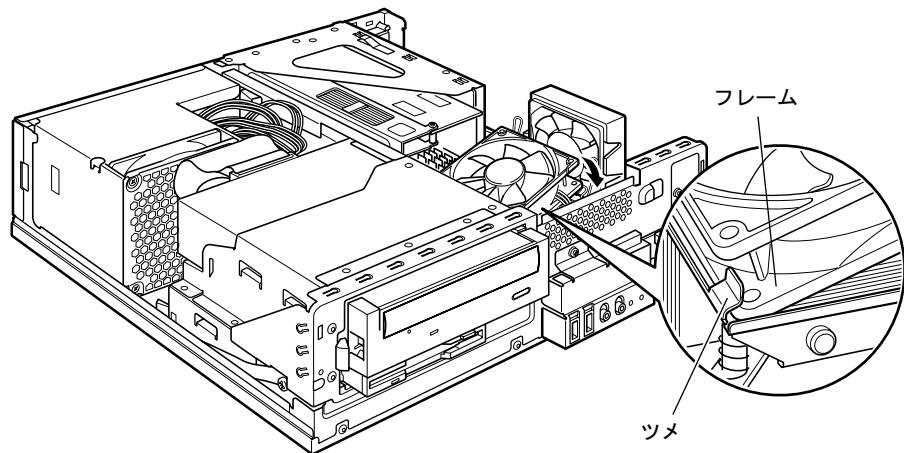


重要

- ▶ ヒートシンクに掃除機の吸引口を強くぶつけたり、綿棒や爪楊枝を使用してほこりを取つたりしないでください。ヒートシンクが変形する場合があります。
- ▶ 故障の原因となりますので、ヒートシンク周辺の電気部品には触れないようにご注意ください。

6 CPU ファンを、ヒートシンクの上に置きます。

ラベルのない面を上側に向か、ヒートシンクのツメ（2ヶ所）にCPU ファンのフレームを差し込んでから下に降ろしてください。

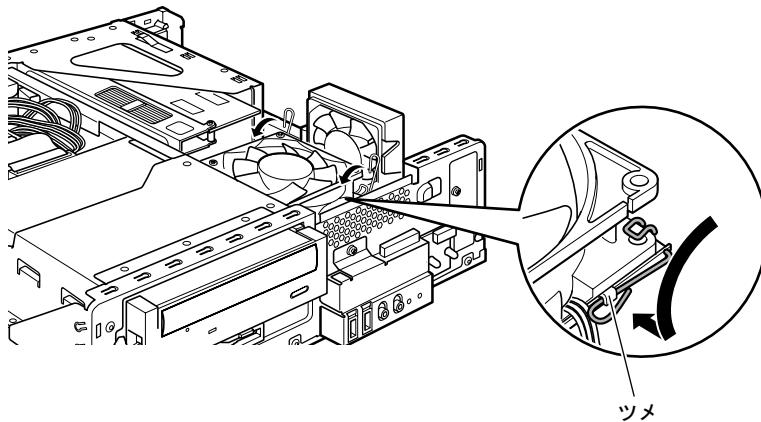


重要

- CPU ファンを置くときにケーブルをはさまないように気をつけてください。

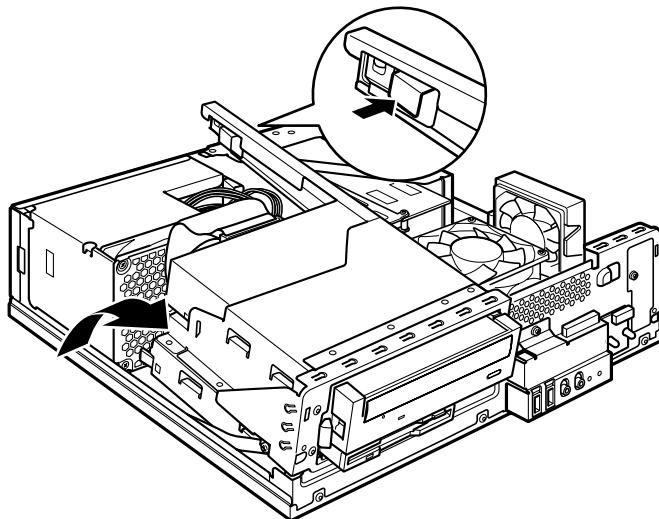
7 CPU ファンの両側のレバーを下に倒し、CPU ファンを固定します。

レバーでCPU ファンをしっかりと固定してから、レバーをツメにかけます。

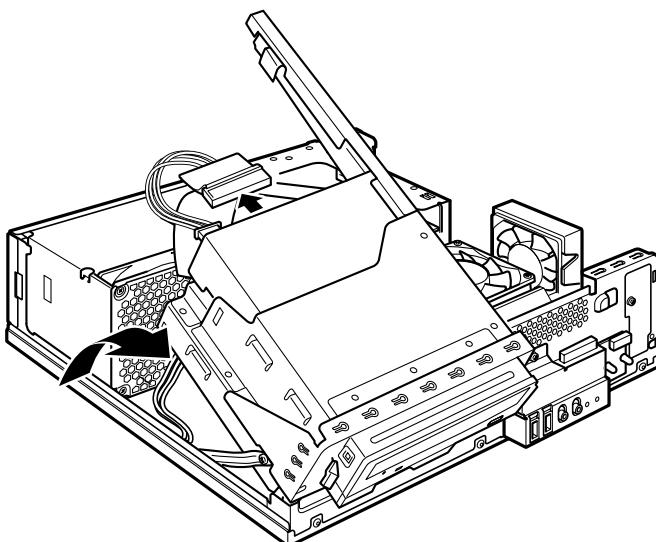


続いて、CPU ファンのケーブルコネクタが外れていないことを確認します。

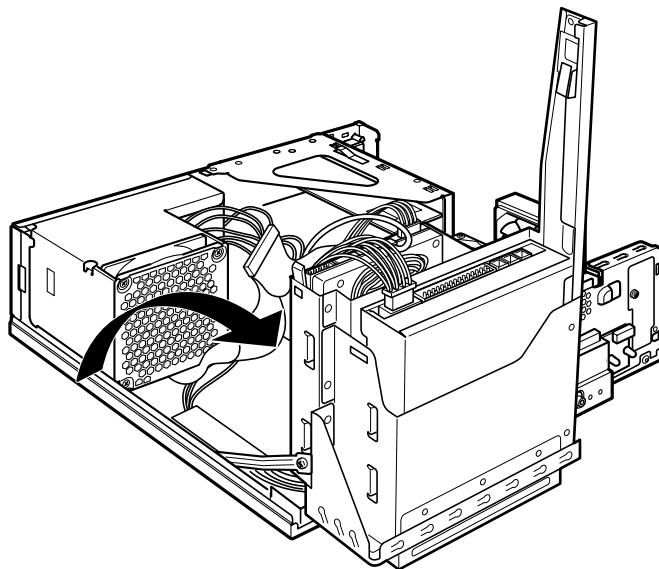
8 留め具のロックボタンを押しながら、ドライブユニットを前に起こします。



9 ドライブユニットを前に起こしている途中で、CD-ROM ドライブのフラットケーブルを取り外します。

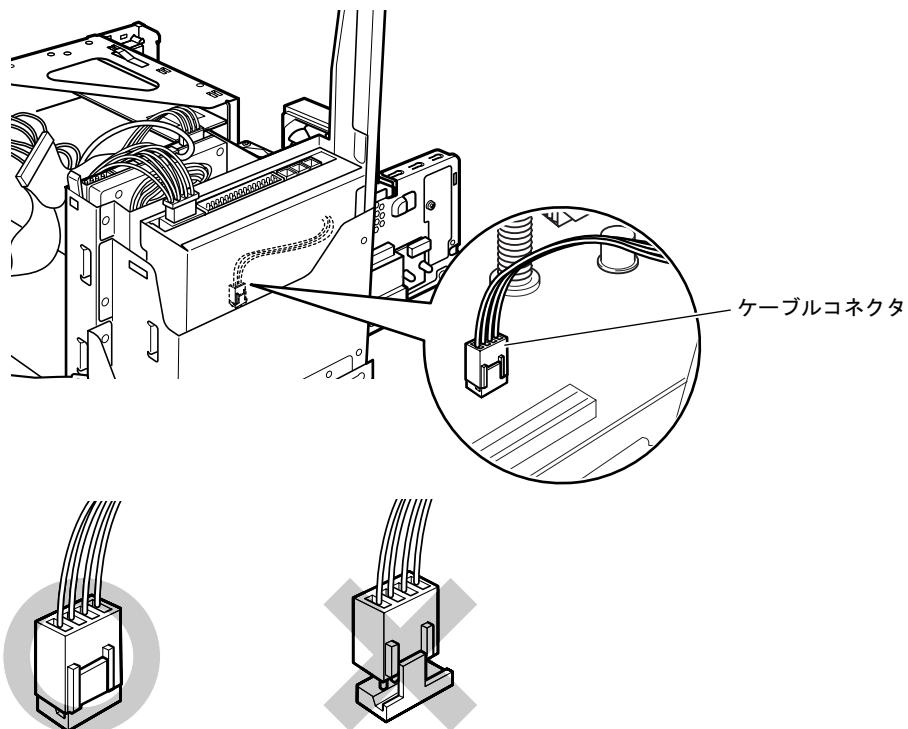


10 ドライブユニットが垂直になるまで引き起しします。



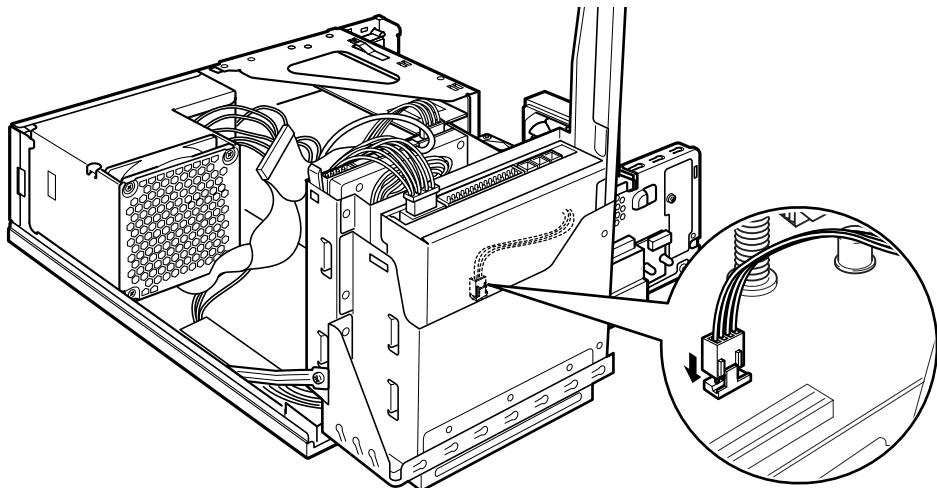
11 CPU ファンのケーブルコネクタが外れていないことを確認してください。

ケーブルコネクタが外れていない場合は、手順 13 へ進んでください。少しでも外れていた場合は、しっかりと取り付けます。手順 12 へ進んでください。



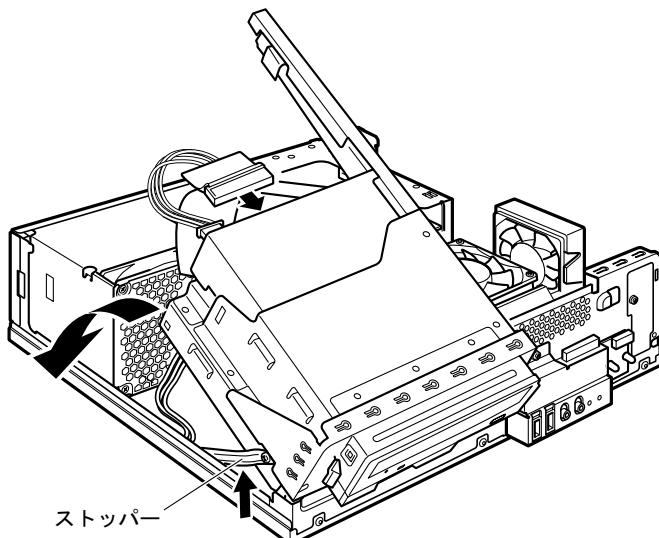
12 ケーブルコネクタが少しでも外れている場合は、ケーブルコネクタを取り付けます。

ケーブルコネクタを取り付けるときは、形状を確認し、形を互いに合わせてまっすぐに差し込んでください。



13 CD-ROM ドライブにフラットケーブルを取り付けます。

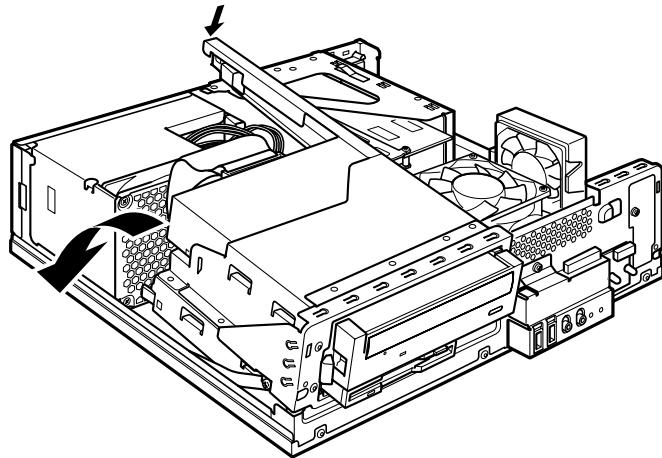
ドライブユニットを支えているストッパーを外して、ドライブユニットを少し倒してください。



POINT

- ▶ 電源ケーブルはフラットケーブルの内側にしまってください。

- 14** ドライブユニットを元の位置に戻し、留め具部分を押さえてロックします。
元の位置に戻すとき、未使用の電源コネクタ先端内部の金属端子が、金属部品に接触しないことを確認し、電源ユニットからの配線をロック部に噛み込まないようにしてください。



- 15** 本体力バーを取り付けます。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、マウス内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナー やベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

また、PS/2 マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

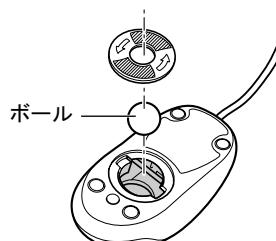
1 マウスの裏ブタを取り外します。

マウス底面にある裏ブタを、矢印の方向に回して取り外します。



2 ボールを取り出して、水洗いします。

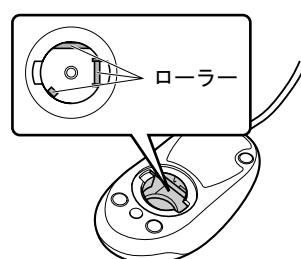
マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、および裏ブタを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。

ローラーは、綿棒で拭きます。



4 ボール、裏ブタを取り付けます。

ボールとマウスの内部を充分乾燥させたら、ボールと裏ブタを取り付けます。

キーボードのお手入れ

キーボードの汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、キーボード内部に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合は、圧縮空気などを使ってゴミを吹き飛ばしてください。なお、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

重要

- ▶ カスタムメイドの選択によっては、フロッピーディスクドライブは搭載されていません。

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れています。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売のクリーニングフロッピーを使用して、3ヶ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

■ 用意するもの

商品名：クリーニングフロッピイマイクロ

商品番号：0212116

クリーニングフロッピイマイクロは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

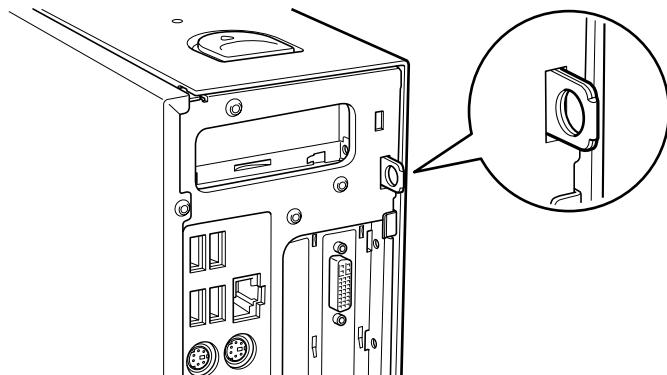
■ お手入れのしかた

- 1 クリーニングフロッピーをセットします。
- 2 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「3.5インチ FD (A:)」をクリックします。
フロッピーディスクドライブのクリーニングが開始されます。
- 4 「ドライブAのディスクはフォーマットされていません。今すぐフォーマットしますか？」のメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
- 5 フロッピーディスクへのアクセスが終了したことを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。
- 6 「マイコンピュータ」ウィンドウを閉じます。

9 筐体のセキュリティ

ワークステーション内部のデバイス（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るために、本ワークステーションに施錠できます。

- 1 本体カバーがきちんと取り付けられていることを確認します。

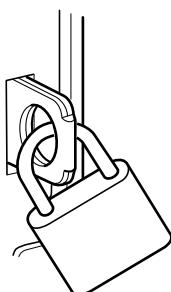


2

POINT

- セキュリティ施錠金具の穴径は、 $\phi 7.5\text{mm}$ です。

- 2 ワークステーション本体背面のセキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けます。



POINT

- セキュリティ施錠金具には、次のセキュリティワイヤも使用できます。
商品名：セキュリティロックワイヤ.TOP
商品番号：1690290
セキュリティロックワイヤ.TOPは、富士通サプライ品です。お問い合わせ先については、『取扱説明書』をご覧ください。

Memo

第3章

増設

本ワークステーションに取り付けられている
(取り付け可能な) 周辺機器について、基本的な
取り扱い方などを説明しています。

1 周辺機器を取り付ける前に	60
2 本体カバーを取り外す	62
3 メモリを取り付ける	64
4 拡張カードを取り付ける	73

1 周辺機器を取り付ける前に

本ワークステーションは、さまざまな周辺機器を接続または内蔵して、機能を拡張できます。

△警告



- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、ワークステーション本体および周辺機器が故障する原因となります。

△注意



- 周辺機器などの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
-  電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
火傷の原因となることがあります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器の中には、お使いになれないものがあります
ご購入の前に富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧になり、その周辺機器がお使いになれるかどうかを確認してください。
- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、ワークステーションが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本ワークステーションに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
弊社純正品以外の動作については、サポートしておりません。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけにしてください
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われないおそれがあります。1つの周辺機器の取り付けが終了して、動作確認を行った後、別の周辺機器を取り付けてください。
- ワークステーションおよび接続されている機器の電源を切ってください
安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。ワークステーションの電源を切った状態でも、ワークステーション本体内部には電流が流れています。

● 内蔵の周辺機器について

標準搭載およびカスタムメイドの選択によって搭載された機器は、ご購入時の状態から搭載位置や接続ケーブルの接続先などを変更することをサポートしておりません（マニュアルなどに指示がある場合は除く）。

● 電源ユニットは分解しないでください

電源ユニットは、ワークステーション本体内部の背面側にある箱形の部品です。

詳しくは、「各部名称」—「ワークステーション本体内部」（→ P.18）をご覧ください。

● 内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください

傷つけたり、加工したりしないでください。

● 柔らかい布の上などで作業してください

固いもの上に直接置いて作業すると、ワークステーション本体に傷が付くことがあります。

● 静電気に注意してください

内蔵周辺機器は、プリント基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。

● プリント基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください

金具の部分や、プリント基板のふちを持つようにしてください。

● 周辺機器の電源について

周辺機器の電源はワークステーション本体の電源を入れる前に入れるもののが一般的ですが、ワークステーション本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

● ACPIに対応した周辺機器をお使いください

本ワークステーションは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、周辺機器が正常に動作しないことがあります。

● ドライバーを用意してください

周辺機器の取り付けや取り外しには、プラスのドライバーが必要な場合があります。

ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

2 本体力カバーを取り外す

周辺機器を取り付けるときは、本体力カバーを取り外して、内部が見える状態にします。

△警告



- 本体力カバーの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。この手順を守らざり作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

△注意



- 本体力カバーの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

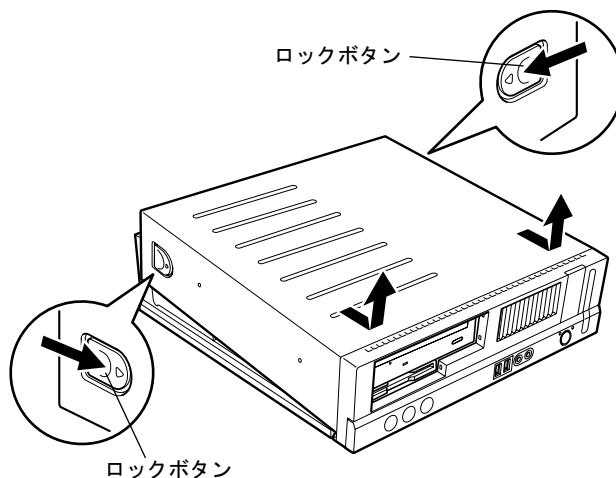
本体力カバーの取り外し方

メモリなどの周辺機器を取り付けるときは、本体力カバーを取り外します。取り外し方は、次のとおりです。

なお、フット（→P.14）を取り付けている場合は、ワークステーション本体からフットを取り外し、横置きにしてから本体力カバーを取り外してください。

- 1 ワークステーション本体両側のロックボタンを本体前面にスライドさせ、本体力カバーを取り外します。

ワークステーション本体前側にスライドさせてから、上に持ち上げて取り外します。
お使いの機種により、本体力カバーの取り外しが硬く感じる場合があります。



POINT

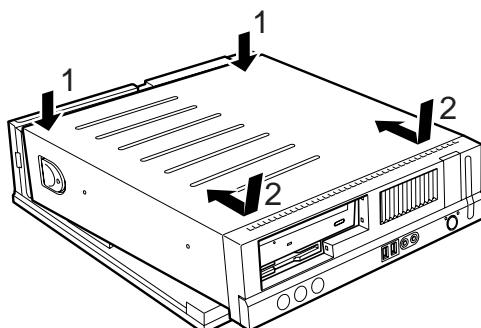
- ▶ 本体カバーを施錠している場合は、解錠してください。

■ 本体カバーの取り付け方

本体カバーを取り外した場合は、次の手順で取り付けてください。

1 本体カバーをワークステーション本体に取り付けます。

本体カバーの背面側をワークステーション本体背面側に下ろして(1)から、前面側を下ろします(2)。



2 本体カバーをワークステーション本体背面側に突き当たるまでしっかりとスライドさせます。

3 メモリを取り付ける

本ワークステーションのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください (→『取扱説明書』)。
- ▶ メモリを増設した後は、仮想メモリを設定する必要があります。設定方法は、「トラブルシューティング」 - 「ハードウェア関連のトラブル」 (→ P.196) をご覧ください。

⚠ 警告



- メモリの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行なうようにしてください。
この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 注意



- メモリの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- メモリは何度も抜き差しないでください。
故障の原因となることがあります。



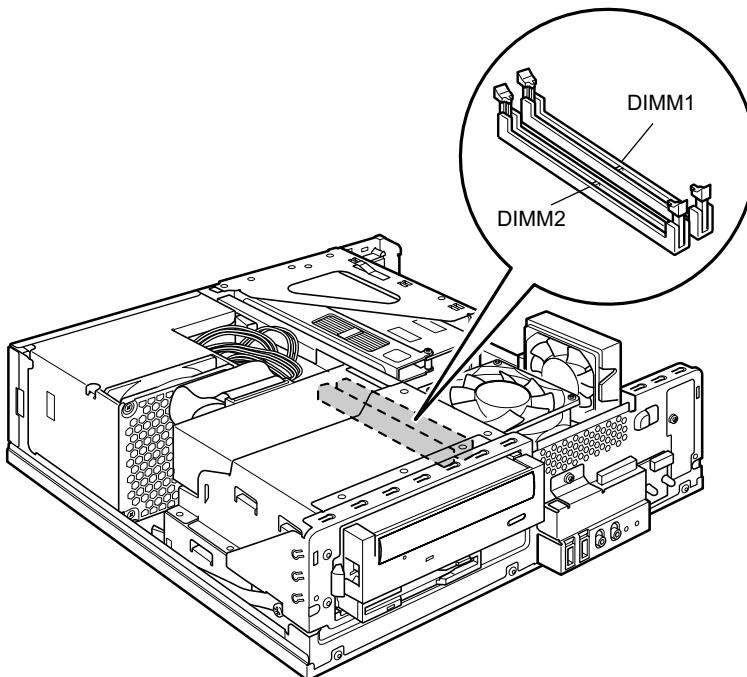
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
火傷の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリはワークステーション本体内部のメモリスロットに取り付けます。

POINT

- イラストは、カスタムメイドでCD-ROMドライブおよびFDD追加を選択した場合です。お使いの機種にあわせて読み替えてください。



取り付けられるメモリ

本ワークステーションにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「拡張 RAM モジュール DDR2 SDRAM PC2-5300 (ECC あり)」をお使いください。

本ワークステーションに標準で搭載されている 256MB のメモリは、「拡張 RAM モジュール DDR2 SDRAM PC2-5300 (ECC なし)」です。

■ メモリの組み合わせ表

本ワークステーションには、最大で 2 GB のメモリを取り付けることができます。

メモリを増設するときは、次の表でメモリの容量とスロットの組み合わせを確認し、正しく取り付けてください。表以外の組み合わせでは、本ワークステーションが正しく動作しない場合があります。

DIMM1	DIMM2	総容量
256 MB	256 MB	512 MB (標準)
512 MB	—	512 MB <small>注</small>
512 MB	512 MB	1 GB
1 GB	1 GB	2 GB

注：カスタムメイドで 512MB のメモリを選択した場合

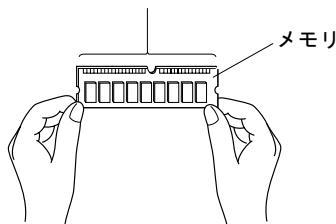
メモリを増設する場合は、ご購入時のメモリを取り外して新しいメモリ 2 枚に交換してください。

メモリを取り付ける

☞ 重要

- ▶ メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまつた静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- ▶ メモリは次図のようにふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。

この部分には手を触れないでください。



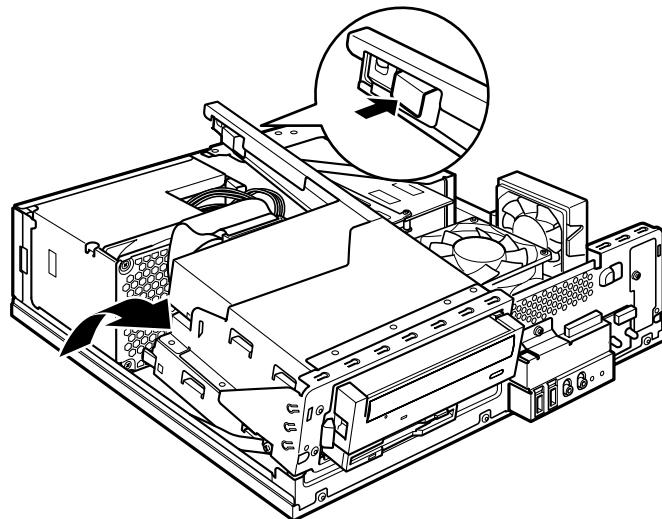
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。
故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、メモリが補助金具などに触れないように注意してください。

POINT

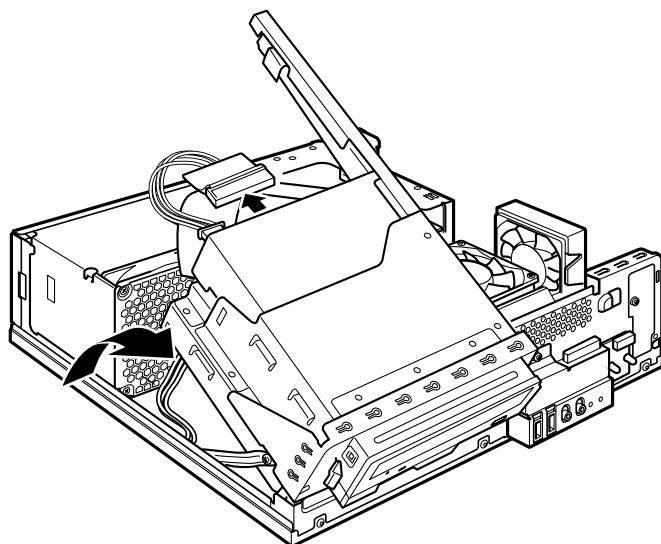
- ▶ この手順で説明しているイラストは、カスタムメイドでCD-ROMドライブおよびFDD追加を選択した場合です。お使いの機種にあわせて読み替えてください。

- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3** 本体力バーを取り外します（→P.62）。

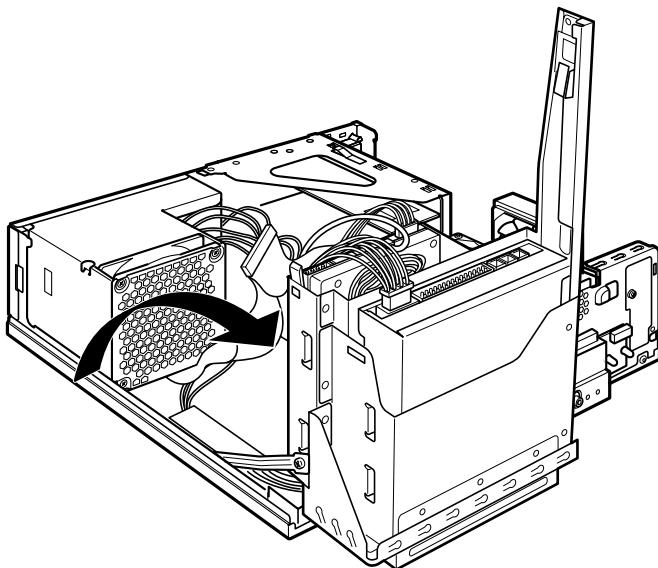
- 4 留め具のロックボタンを押しながら、ドライブユニットを前に起こします。



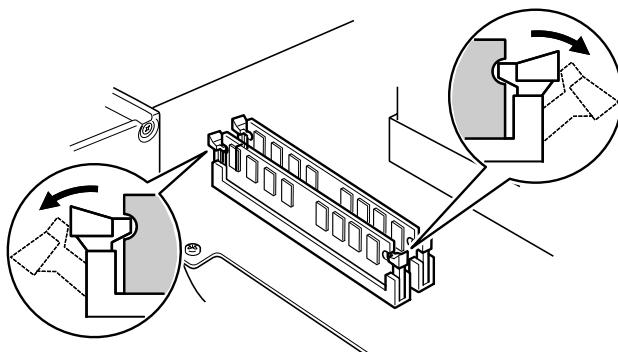
- 5 ドライブユニットを前に起こしている途中で、CD-ROM ドライブのフラットケーブルを取り外します。



6 ドライブユニットが垂直になるまで引き起こします。



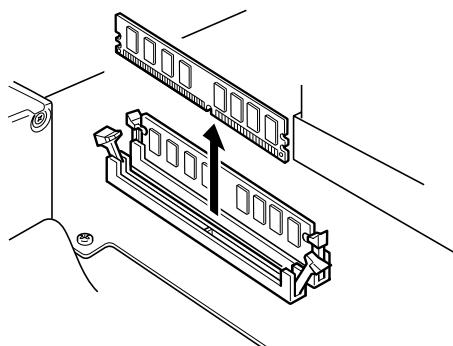
7 スロットの両側のフックを外側に開きます。



POINT

- ▶ スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。
フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリを取り付けにくい場合
ハードディスクドライブにケーブルが接続されていると、メモリが取り付けにくい場合があります。そのような場合は、ハードディスクドライブからケーブルを取り外した後、メモリを取り付けてください。
なお、メモリを取り付けた後は、忘れずにハードディスクドライブにケーブルを接続してください。

8 メモリを取り外します。



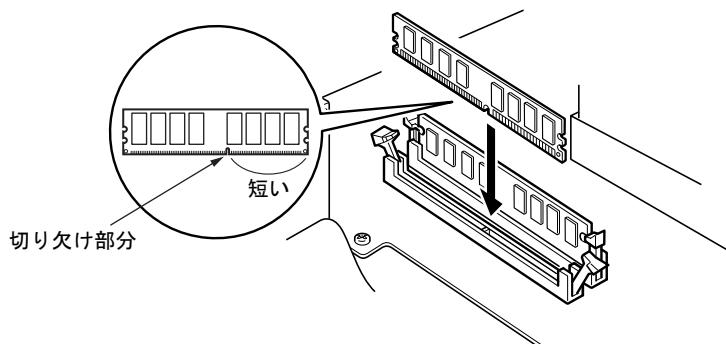
POINT

- ▶ カスタムメイドで 512MB のメモリ 1枚を選択している場合、1GB に増設するときは、搭載されているメモリを取り外し、オプション品の512MBのメモリ2枚を取り付けてください。

9 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、フックがメモリをしっかりと固定しているか確認してください。

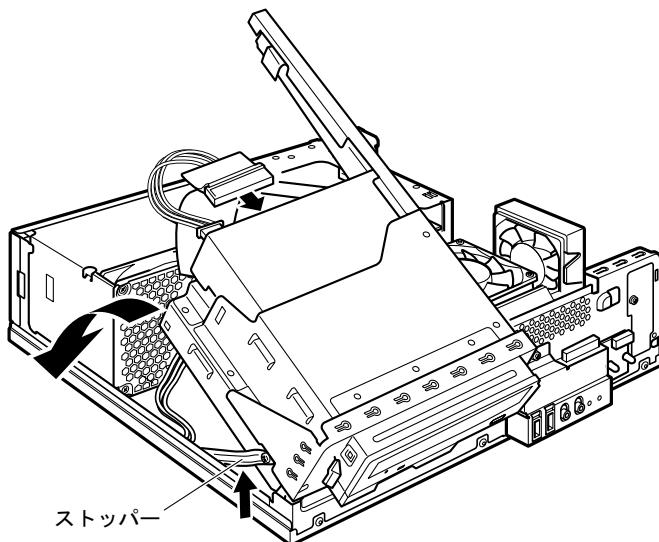


POINT

- ▶ 逆向きに差し込んだ場合、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。
- ▶ メモリ素子の状態はイラストと異なる場合があります。

10 CD-ROM ドライブにフラットケーブルを取り付けます。

ドライブユニットを支えているストッパーを外して、ドライブユニットを少し倒してください。

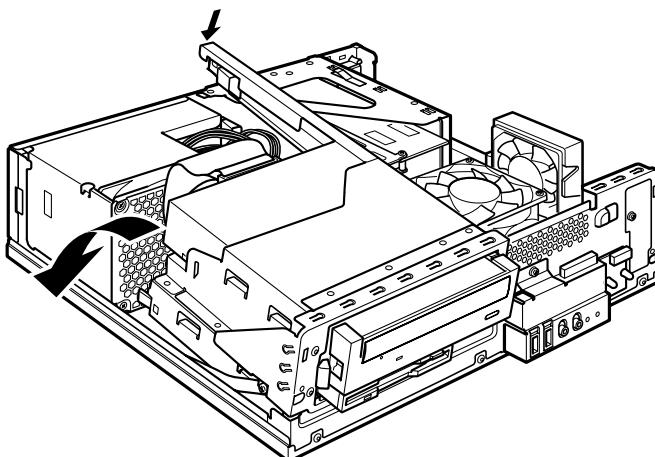


POINT

- ▶ 電源ケーブルはフラットケーブルの内側にしまってください。

11 ドライブユニットを元の位置に戻し、留め具部分を押さえてロックします。

元の位置に戻すとき、未使用的電源コネクタ先端内部の金属端子が、金属部品に接触しないことを確認し、電源ユニットからの配線をロック部に噛み込まないようにしてください。



12 本体カバーを取り付けます。

13 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。

14 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

POINT

- ▶ メモリが正しく取り付けられているかどうかは、次の手順で確認してください。
 1. BIOS セットアップを起動します。
起動の手順については、「BIOS」—「BIOS セットアップを起動する」(→ P.145) をご覧ください。
 2. 「Info」—「DIMM1/2」でメモリの容量を確認します。
メモリの容量が正しくない場合は、取り付けたメモリが本ワークステーションで使用できることを確認後、もう一度やり直してください。
- ▶ メモリを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。なお、取り外したメモリは、静電気防止袋に入れて大切に保管してください。
- ▶ スロットの両側のフックを外側に開くときは、勢いよく開かないように注意してください。フックを勢いよく外側に開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがあります。

4 拡張カードを取り付ける

拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップをしてから、一度電源を切った後に取り付けてください (→『取扱説明書』)。
- ▶ 拡張カードの取り付けや取り外しを行うと、OS を読み込むデバイスの優先順位が変わり、ワークステーションが起動しないことがあります。この場合は、BIOS セットアップの「Advanced」-「Advanced BIOS Features」-「Hard Disk Boot Priority」で起動したいデバイスの順位を最上位に設定してください。
- ▶ 本ワークステーションでは、すべての PCI Express x1 規格および PCI 規格の拡張カードについて動作保証するものではありません。
- ▶ 増設する PCI Express x1 カードや PCI カードが起動 ROM(BIOS)を搭載している場合、その種類や増設数により、ワークステーション本体が起動できないことがあります。このような場合は、増設する PCI Express x1 カードや PCI カードの BIOS を無効にすることにより、現象を回避することができます。増設する PCI Express x1 カードや PCI カードの BIOS を無効にする方法は、各カードのマニュアルをご覧ください。

⚠️ 警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行うときは、ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行うようにしてください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。

⚠️ 注意



- 拡張カードの取り付け、取り外しを行う際は、指定された場所以外のネジは外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



- ワークステーション本体内部の突起物、および指定されたスイッチ以外には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



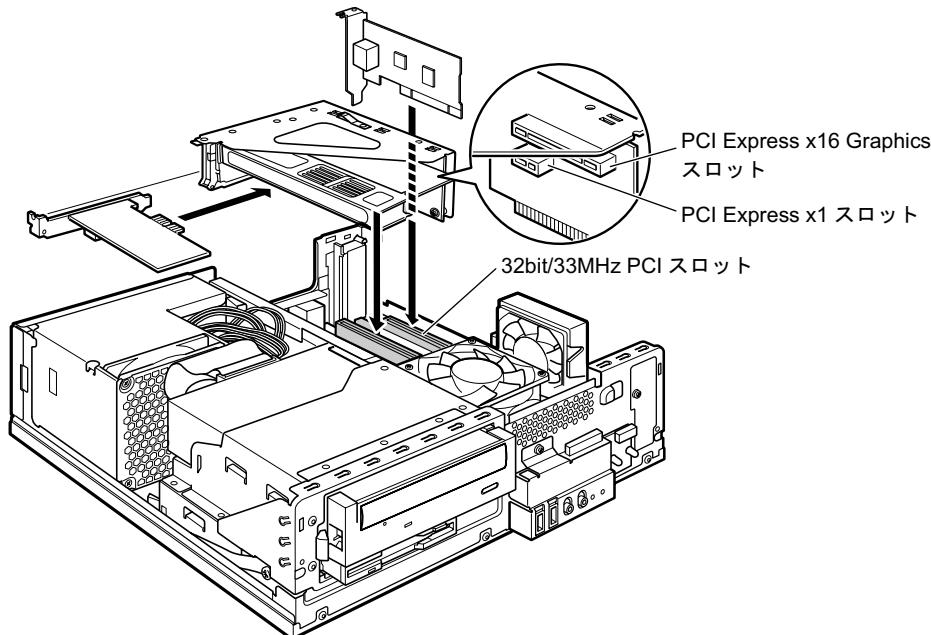
- 電源を切った直後は、ワークステーション本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後充分に待ってから作業を始めてください。
火傷の原因となることがあります。

拡張カードの取り付け場所

拡張カードは、ワークステーション本体内部の拡張カードスロットに取り付けます。

POINT

- イラストは、カスタムメイドで CD-ROM ドライブおよび FDD 追加を選択した場合です。お使いの機種にあわせて読み替えてください。

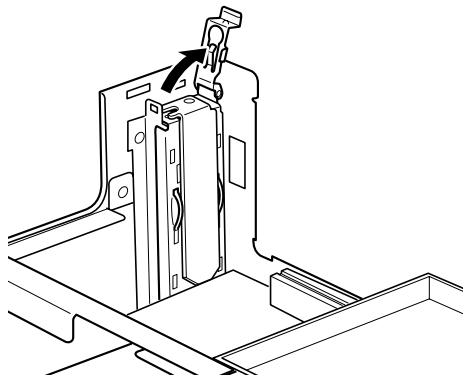


本ワークステーションには、PCI Express x1 規格と PCI 規格の拡張カードを取り付けられます。PCI Express x1 スロットには、最大長 176mm の拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けることができます。32bit/33MHz PCI スロットには、最大長 176mm の Low Profile 用 PCI 規格の拡張カード（ハーフサイズ）を取り付けることができます。

なお、カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合、PCI Express x1 スロットはご使用になれません。

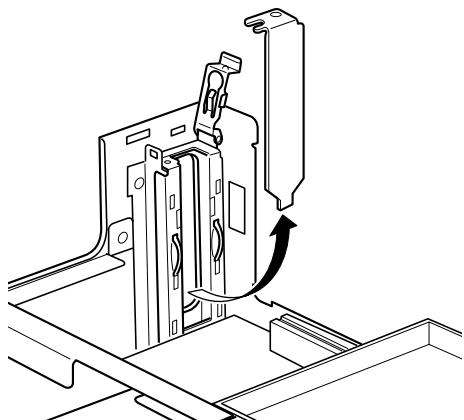
PCI 規格の拡張カードを取り付ける

- 1** ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3** 本体カバーを取り外します（→ P.62）。
- 4** スロットカバーロックを押し上げます。



3

- 5** スロットカバーを取り外します。

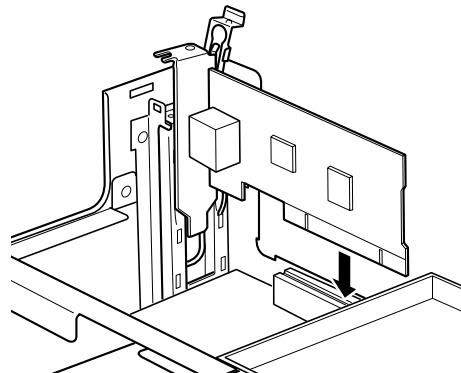
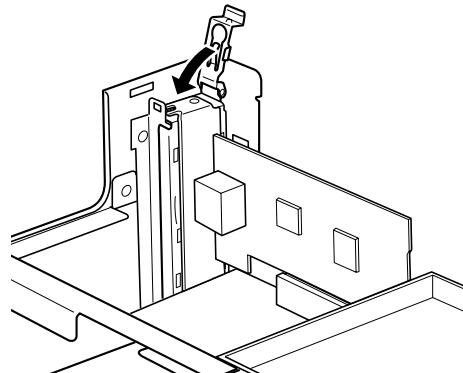


POINT

- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

6 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。

**7 スロットカバーロックを戻して固定します。****8 本体カバーを取り付けます。****9 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。****10 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。**

デバイスドライバとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

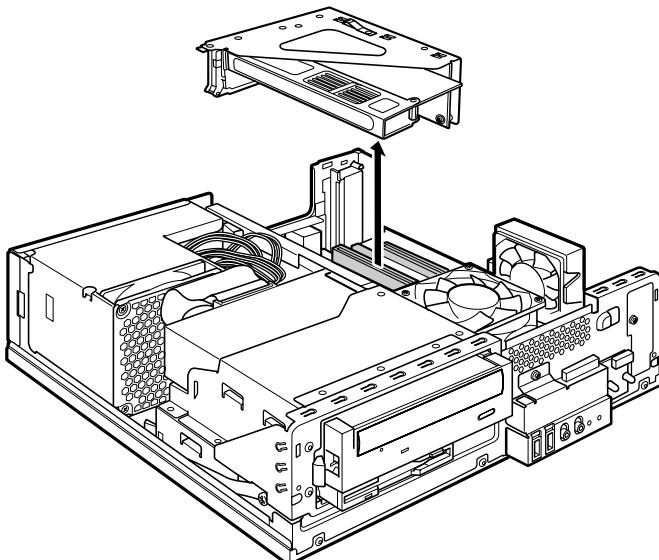
PCI Express x1 規格の拡張カードを取り付ける

POINT

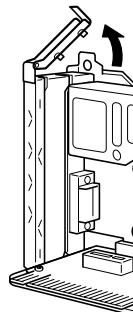
- ▶ この手順で説明しているイラストは、カスタムメイドでCD-ROM ドライブおよびFDD追加を選択した場合です。お使いの機種にあわせて読み替えてください。

- 1 ワークステーション本体および接続されている機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 縦置きにしている場合は、フットを取り外し、ワークステーション本体を横置きにします。
- 3 本体カバーを取り外します（→ P.62）。
- 4 拡張カード取り付け金具を取り外します。

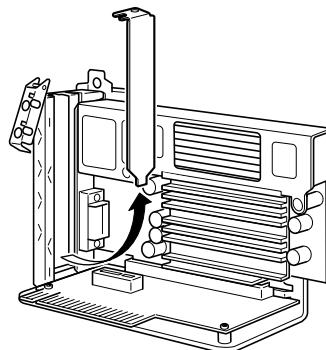
拡張カード取り付け金具は真上に引き上げてください。
すでに拡張カードが増設されている場合は、増設された拡張カードに接続されているケーブルを抜いてから、取り外してください。



5 スロットカバーロックを押し上げます。



6 スロットカバーを取り外します。

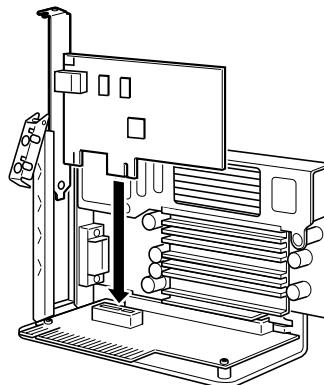


POINT

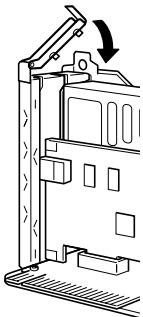
- ▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管してください。
拡張カードを取り外してお使いになる際、ワークステーション内部にゴミが入らないよう取り付けます。

7 拡張カードをコネクタに差し込みます。

拡張カードをコネクタにしっかりと差し込みます。

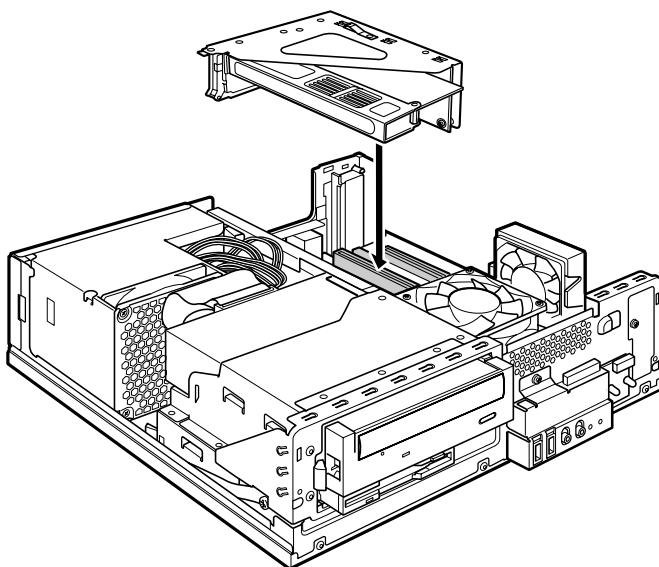


8 スロットカバーロックを戻して固定します。



9 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

ツメがきちんと背面にかかるように、垂直に取り付けてください。



10 本体カバーを取り付けます。

11 縦置きにする場合は、フットを取り付け、ワークステーション本体を縦置きにします。

12 電源プラグをコンセントに差し込み、本ワークステーションの電源を入れます。

デバイスドライバとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えるようになります。

POINT

- ▶ 拡張カードを取り外す場合は、取り付ける手順を参照してください。
- ▶ 拡張カードの取り付け後に画面にメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ 拡張カードを使用する前に、デバイスマネージャに正しく登録されていることを確認してください。詳しくは、拡張カードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

Memo

第4章

機能

4

本ワークステーションでお使いになれる機能について説明しています。

1 ディスプレイ関連	82
2 音量の設定	95
3 通信	99
4 ドライブ関連	101
5 省電力	103
6 その他	109

1 ディスプレイ関連

解像度と色数について

本ワークステーションでは、Windows の「画面のプロパティ」 ウィンドウの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。

なお、Windows の色数は「中」が6万5千色、「最高」が1677万色です。

- 「RADEON X300 SEの場合」(→P.82)

- 「GeForce 7300 LE、Quadro FX 550、Quadro FX 1500、Quadro FX 3500、Quadro FX 3500 SLIの場合」(→P.83)

■ RADEON X300 SEの場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP
800 × 600	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1024 × 768	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1280 × 768	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1280 × 1024	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1600 × 1200	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1920 × 1200	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
1920 × 1440	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	
2048 × 1536	中（16ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32ビット）	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	

■ GeForce 7300 LE、Quadro FX 550、Quadro FX 1500、
Quadro FX 3500、Quadro FX 3500 SLI の場合

□ アナログディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1920 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1920 × 1440	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
2048 × 1536	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	

□ デジタルディスプレイ接続時

解像度（ピクセル）	色数	Windows XP
800 × 600	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1024 × 768	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1280 × 1024	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	
1600 × 1200	中（16 ビット）	<input type="radio"/>
	最高（32 ビット）	

Quadro FX 550 にカラー液晶ディスプレイ VL-200VH をデジタル接続する場合は、ご利用可能な最大解像度は 1280 × 1024 になります。

POINT

- ▶ 必ず他のソフトウェアや常駐しているソフトウェアをすべて終了してから、解像度、色数を変更してください。また、変更後は必ず Windows を再起動してください。再起動しない場合、本ワークステーションの動作が不安定になる場合があります。
- ▶ 色数やリフレッシュレートを変更すると、画面がディスプレイ中央に表示されない場合があります。この場合は、ディスプレイの仕様を確認して適切なリフレッシュレートを設定するか、ディスプレイの設定機能を使用して調整してください。
- ▶ お使いのディスプレイによっては、表示できない解像度があります。表示可能な解像度以外の解像度ではお使いにならないでください。表示可能な解像度はディスプレイのマニュアルでご確認ください。なお、すべてのディスプレイについて動作保証するものではありません。
- ▶ ソフトウェアによっては、使用時の解像度や発色数が指定されていることがあります。必要に応じて変更してください。
 1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックします。
 3. 解像度、色数などを設定し、「OK」をクリックします。
 4. 画面が正しく表示され、「デスクトップのサイズを変更しました。この設定を保存しますか？」が表示されたら、15 秒以内に「はい」をクリックします。不具合があった場合は「いいえ」をクリックします。
設定が有効になります。
- ▶ 「いいえ」をクリックした場合は、手順 3 に戻り再度解像度などを選択します。

■ 補足情報

「画面のプロパティ」ウィンドウ内にはディスプレイアダプタごとに特有の設定項目がある場合があります。これらの設定項目については、各ディスプレイアダプタのプロパティ画面内のヘルプをご覧ください。通常は初期設定値でお使いください。

マルチディスプレイ機能

本ワークステーションには、搭載しているグラフィックスカード1枚で、2台のディスプレイを接続して表示できる「マルチディスプレイ機能」があります。

POINT

- ▶ 搭載しているグラフィックスカードのみでマルチディスプレイ機能を使うことができるのと、本体にグラフィックスカードを増設する必要はありません。

■ 注意事項

- 本体の電源を入れる前にディスプレイの電源を必ず入れてください。
特にデジタルディスプレイをお使いになる場合、本体の電源を入れる前に、デジタルディスプレイの電源が入っていることを必ず確認してください。本体の電源を入れたあとでデジタルディスプレイの電源を入れた場合、画面が表示されません。この場合、本体の電源を切り、その後に電源を入れ直してください。
- マルチディスプレイ機能を使用する場合、必ずWindowsのセットアップをしてから、もう一方のディスプレイケーブル(DVI-VGA変換アダプタ経由の接続含む)を接続してください。
- マルチディスプレイ機能には、次の3つの機能があります。
 - ・ クローン機能
プライマリディスプレイに表示されている画面をセカンダリディスプレイにも表示する機能です。各ディスプレイの設定(解像度、色数、リフレッシュレート)は、選択可能な範囲で同一に設定してください。
なお、表示可能な解像度が異なるディスプレイ2台でマルチディスプレイ機能を使う場合、表示は解像度が低いディスプレイに依存します。解像度が低いディスプレイに合わせて画面を設定してください。
 - ・ マルチモニタ機能
デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台のディスプレイを使って表示する機能です。
OS上では、2台のディスプレイとして認識されます。各ディスプレイの設定(解像度、色数、リフレッシュレート)は、選択可能な範囲でディスプレイごとに設定してください。
 - ・ スパン機能
デスクトップをプライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの2台で1台のディスプレイとして表示する機能です。
OS上では、1台のディスプレイとして認識されます。1台のディスプレイとして解像度の設定を行うようにしてください。

各グラフィックスカードの対応は次のとおりです。

	クローン機能	マルチモニタ機能	スパン機能
RADEON X300 SE	○	○	—
GeForce 7300 LE			
Quadro FX 550			
Quadro FX 1500	○	○	○
Quadro FX 3500			
Quadro FX 3500 SLI	—	—	—

- お使いになる前に、ディスプレイのマニュアルなどを参照し設定してください。

- GeForce 7300 LE、Quadro FX 550、Quadro FX 1500、Quadro FX 3500 では、DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合は、「DVI-VGA 変換アダプタ」が必要です。
- RADEON X300 SE では、アナログディスプレイを 2 台接続する場合は、添付の「マルチモニタケーブル」をお使いください。
- マルチディスプレイ機能を設定する場合は、設定を行う前に 2 台目のディスプレイを接続してください。2 台目のディスプレイが接続されていない場合は、マルチディスプレイ機能を設定することができません。
- マルチディスプレイ機能を使用すると、各グラフィックスカードの最大解像度を表示できなくなる場合があります。
- マルチディスプレイ機能を設定すると、ディスプレイを 1 台のみ接続してお使いになる場合に比べて表示性能が若干低下しますのでご注意ください。
- 接続されていないディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を有効にしないでください。正常に動作しない場合があります。
- ディスプレイを取り外した場合、取り外したディスプレイに対してマルチディスプレイ機能を無効にしてください。
- ピンボールなどのゲームや Windows Media Player などのマルチディスプレイ機能での動作を保証していないソフトウェアを全画面表示した場合、ソフトウェアを表示している画面以外のデスクトップの表示が正常に行われない場合があります。
- 動画再生ソフトによってはプライマリディスプレイの画面以外では動画が再生できない場合があります。その場合は、動画再生ソフトを最新版にアップデートしてください。

■ 用意するもの

□ RADEON X300 SE の場合

- マルチモニタケーブル
- アナログディスプレイ 2 台

□ GeForce 7300 LE の場合

- DVI-VGA 変換アダプタ（DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合）
- アナログディスプレイ 2 台、またはアナログディスプレイ 1 台とデジタルディスプレイ 1 台

□ Quadro FX 550、Quadro FX 1500、Quadro FX 3500 の場合

- DVI-VGA 変換アダプタ（DVI-I コネクタにアナログディスプレイを接続する場合）
- アナログディスプレイまたはデジタルディスプレイ 2 台

マルチディスプレイ機能を設定する

- 「RADEON X300 SE の場合」 (→ P.87)
- 「GeForce 7300 LE の場合」 (→ P.90)
- 「Quadro FX 550、Quadro FX 1500、Quadro FX 3500 の場合」 (→ P.92)

POINT

- ▶ [お使いのディスプレイ名] は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 各項目の詳細は、調べたい項目の上で右クリックし、オンラインヘルプをご覧ください。
- ▶ リフレッシュレートとは、1秒間に画面を書き換える回数を周波数(単位は Hz)で表したもので、垂直同期周波数ともいいます。CRTなどのアナログディスプレイではリフレッシュレートの値が高いほど、画面のちらつきが少なくなりますが、その反面、画像品質が低下します。アナログディスプレイでは 85Hz 又は 75Hz、LCD などのデジタルディスプレイでは 60Hz でご使用されることをお勧めします。

■ RADEON X300 SE の場合

□ クローン機能 (Windows XP Professional の場合)

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と RV370 のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「ATI CATALYST(R) Control Center」タブをクリックし、「ATI CATALYST(R) Control Center」をクリックします。
「ATI CATALYST® Control Center - 基本」 ウィンドウが表示されます。
- 4** 「使用の選択」で「基本の [簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 5** 「簡単設定ウィザード」タブをクリックし、「ディスプレイ設定を設定します」に設定されていることを確認し、「移動する」をクリックします。
「利用可能なディスプレイデバイス」が表示されます。
- 6** 「セカンダリディスプレイを選択」の設定を、「なし」から「「VGA2」に接続したモニタ名」に変更し、「次へ」をクリックします。
- 7** 「デスクトップモードの選択」で「クローン」を選択し、「次へ」をクリックします。
「ディスプレイマネージャー通知」が表示されます。
- 8** 「はい」をクリックします。
「デスクトップ表示の单一ディスプレイ設定」が表示されます。
- 9** 「デスクトップ領域」で任意の領域を選択し、「終了」をクリックします。
「ディスプレイマネージャー通知」が表示された場合は、「はい」をクリックします。

- 10** 「終了」をクリックした後、「OK」をクリックしてすべてのウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ クローンモニタの動画再生画面の表示方法を全画面表示やウィンドウ表示に切り替えることができます。
次の手順で設定を変更してください。
 1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名]とRV370のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ATI CATALYST(R) Control Center」タブをクリックし、「ATI CATALYST(R) Control Center」をクリックします。
「ATI CATALYST® Control Center - 基本」ウィンドウが表示されます。
 4. 「使用の選択」で「基本の[簡単設定ウィザードとクイック設定]」を選択し、「次へ」をクリックします。
 5. 「簡単設定ウィザード」タブをクリックし、「ディスプレイ設定を設定します」に設定されていることを確認し、「移動する」をクリックします。
「利用可能なディスプレイデバイス」が表示されます。
 6. 「セカンダリディスプレイを選択」の設定を、「なし」から「VGA2」に接続したモニタ名に変更し、「次へ」をクリックします。
 7. 「デスクトップモードの選択」で「クローン」を選択し、「セカンダリディスプレイでのビデオ再生表示方法の選択」をチェックし、「次へ」をクリックします。
「ディスプレイメージャー通知」が表示された場合は、「はい」をクリックします。
「セカンダリディスプレイでのビデオ再生を設定します」が表示されます。
 8. 「セカンダリディスプレイでのビデオ再生」の「クローンモードでビデオ表示」から表示方法を選択し、「次へ」をクリックします。
「デスクトップ表示の單一ディスプレイ設定」が表示されます。
 9. 「デスクトップ領域」で任意の領域を選択し、「終了」をクリックします。
「ディスプレイメージャー通知」が表示された場合は、「はい」をクリックします。
 10. 「終了」をクリックした後、「OK」をクリックしてすべてのウィンドウを閉じます。
- ▶ マルチモニタを有効にする場合は、一度リフレッシュレートを60Hzに設定してから行うようにしてください。

□ クローン機能 (Windows XP Professional x64 Edition の場合)

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名]とRV370のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「ATI CATALYST(R) Control Center」タブをクリックします。
- 4** 「ATI CATALYST(R) Control Center」をクリックします。
「CATALYST® Control Center」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「グラフィック設定」の左の一覧から「ディスプレイメージャ」をクリックします。
- 6** 「デスクトップとディスプレイの設定」の「ウィザード」をクリックします。
「CATALYST® Control Center デスクトップ設定ウィザード」ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ 「ディスプレイマネージャ」に「ウィザード」が表示されない場合は、「表示」を「標準表示」に設定してください。

7 表示したいディスプレイにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

POINT

- ▶ 「CATALYST® Control Center デスクトップ設定ウィザード」の「1. 有効にするディスプレイを選択」には、接続されているディスプレイのみ表示されます。
- ▶ 「1. 有効にするディスプレイを選択」に表示されている上側のモニタは、チェックを外さないでください。上側のチェックを外した状態では、正常に起動しない場合があります。

8 「クローン（プレゼンテーション）モード」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。

9 「デスクトップ表示のクローンモードディスプレイ設定」の確認画面が表示されます。

10 「適用」をクリックします。

11 「終了」をクリックします。

12 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

13 解像度、色数などを設定し、本ワークステーションを再起動します。

「解像度と色数について」(→ P.82) をご覧になり、設定してください。

POINT

- ▶ クローンモニタの動画再生画面の表示方法を全画面表示やウィンドウ表示に切り替えることができます。
次の手順で設定を変更してください。
 1. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 2. 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名]とRV370のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 3. 「ATI CATALYST(R) Control Center」タブをクリックします。
 4. 「ATI CATALYST(R) Control Center」をクリックします。
「CATALYST® Control Center」ウィンドウが表示されます。
 5. 「表示」をクリックし、「詳細表示」をクリックします。
 6. 左の一覧から「ビデオ」をクリックし、「シーターモード」をクリックします。
 7. 「オーバーレイディスプレイモード」の「クローンモードでオーバーレイを表示」から表示方法を選択します。
 8. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- ▶ マルチモニタを有効にする場合は、一度リフレッシュレートを60Hzに設定してから行うようにしてください。

□ マルチモニタ機能

1 デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.82) をご覧になり、設定してください。

■ GeForce 7300 LE の場合

POINT

- ▶ [お使いのディスプレイ名] は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIA ディスプレイセットアップ ウィザード」が表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

□ クローン機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と NVIDIA GeForce 7300 LE のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「GeForce 7300 LE」タブをクリックし、「NVIDIA Control Panel の起動」をクリックします。
「NVIDIA Control Panel」ウィンドウが表示されます。
- 4** 「カテゴリの選択 ...」の「表示」をクリックします。
- 5** 「複数のディスプレイ」の「ディスプレイ設定の変更」をクリックします。
- 6** 「両方のディスプレイで同じ（クローン）」を選択し、「適用」をクリックします。
「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。
- 7** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 8** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、「NVIDIA Control Panel」ウィンドウを閉じます。
- 9** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 10** 本ワークステーションを再起動します。

□ マルチモニタ機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4** 「画面のプロパティ」 ウィンドウで、「OK」をクリックします。
- 5** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.82) をご覧になり、設定してください。

□ スパン機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と NVIDIA GeForce 7300 LE のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 3** 「GeForce 7300 LE」タブをクリックし、「NVIDIA Control Panel の起動」をクリックします。
「NVIDIA Control Panel」 ウィンドウが表示されます。
- 4** 「カテゴリの選択 ...」の「表示」をクリックします。
- 5** 「複数のディスプレイ」の「ディスプレイ設定の変更」をクリックします。
- 6** 「1つの大きな横型デスクトップ（水平スパン）」、または「1つの大きな縦型デスクトップ（垂直スパン）」を、選択し、「適用」をクリックします。
「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。
 - ・「水平スパン」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。
 - ・「垂直スパン」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。
- 7** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 8** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、「NVIDIA Control Panel」 ウィンドウを閉じます。
- 9** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 10** 本ワークステーションを再起動します。

■ Quadro FX 550、Quadro FX 1500、Quadro FX 3500 の場合

POINT

- ▶ [お使いのディスプレイ名] は接続したディスプレイによって表示が異なります。
- ▶ [お使いのグラフィックスカード名] は搭載されているグラフィックスカード名が表示されます。
- ▶ 2台のディスプレイを接続し、初めて電源を入れたときに、1台目のディスプレイに「NVIDIA nView ウィザード」、または「NVIDIA ディスプレイ セットアップ ウィザード」が表示される場合があります。この場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

□ クローン機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 - 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」
ウィンドウが表示されます。
 - 3** 「Quadro FX 550」タブ、「Quadro FX 1500」タブ、または「Quadro FX 3500」
タブをクリックします。
この後の手順は、表示された画面によって選択してください。
- 「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」
ウィンドウの左側に、「ディスプレイメニュー」が表示された場合
- 1** 「nView ディスプレイ設定」をクリックします。

POINT

- ▶ 「ディスプレイメニュー」の「nView ディスプレイ設定」は、2台のディスプレイを接続した場合のみ表示されます。
- 2** 「nView」で「クローン」を選択し、「OK」をクリックします。
「デスクトップが再設定されました。この設定を保存しますか?」と表示されます。
 - 3** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
 - 4** 「画面のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。
 - 5** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」(→ P.82) をご覧になり、設定してください。
- 「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」
ウィンドウに、「NVIDIA Control Panel の起動」ボタンが表示された場合
- 1** 「NVIDIA Control Panel の起動」をクリックします。
「NVIDIA Control Panel」ウィンドウが表示されます。
 - 2** 「カテゴリの選択 ...」の「表示」をクリックします。

- 3** 「複数のディスプレイ」の「ディスプレイ設定の変更」をクリックします。
- 4** 「両方のディスプレイで同じ（クローン）」を選択し、「適用」をクリックします。
「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。
- 5** 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。
- 6** ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、「NVIDIA Control Panel」ウィンドウを閉じます。
- 7** 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。
- 8** 本ワークステーションを再起動します。

□ マルチモニタ機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックします。
- 3** 「2」のディスプレイをクリックし、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」をチェックして、「適用」をクリックします。
- 4** 「画面のプロパティ」ウィンドウで、「OK」をクリックします。
- 5** 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。
「解像度と色数について」（→ P.82）をご覧になり、設定してください。

□ スパン機能

- 1** デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2** 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」をクリックします。
「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「Quadro FX 550」タブ、「Quadro FX 1500」タブ、または「Quadro FX 3500」タブをクリックします。
この後の手順は、表示された画面によって選択してください。

- 「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」 ウィンドウの左側に、「ディスプレイメニュー」が表示された場合

1 「nView ディスプレイ設定」をクリックします。

 **POINT**

- ▶ 「ディスプレイメニュー」の「nView ディスプレイ設定」は、2台のディスプレイを接続した場合のみ表示されます。

2 「nView」で「水平スパン」または「垂直スパン」を選択します。

「水平スパン」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。

「垂直スパン」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。

3 「OK」をクリックします。

「デスクトップが再設定されました。この設定を保存しますか？」と表示されます。

4 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。

5 「画面のプロパティ」 ウィンドウで「OK」をクリックします。

6 解像度と色数を設定し、本ワークステーションを再起動します。

「解像度と色数について」(→ P.82) をご覧になり、設定してください。

- 「[お使いのディスプレイ名] と [お使いのグラフィックスカード名] のプロパティ」 ウィンドウに、「NVIDIA Control Panel の起動」ボタンが表示された場合

1 「NVIDIA Control Panel の起動」をクリックします。

「NVIDIA Control Panel」 ウィンドウが表示されます。

2 「カテゴリの選択 ...」の「表示」をクリックします。

3 「複数のディスプレイ」の「ディスプレイ設定の変更」をクリックします。

4 「1つの大きな横型デスクトップ（水平スパン）」、または「1つの大きな縦型デスクトップ（垂直スパン）」を、選択し、「適用」をクリックします。

「お使いのデスクトップの設定は変更されました。変更を保存しますか？」と表示されます。

・「水平スパン」：2つの画面を横置きで1枚の画面として使用します。

・「垂直スパン」：2つの画面を縦置きで1枚の画面として使用します。

5 画面が正しく表示されたことを確認し、「はい」をクリックします。

6 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、「NVIDIA Control Panel」 ウィンドウを閉じます。

7 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

8 本ワークステーションを再起動します。

2 音量の設定

スピーカーやヘッドホンの音量は、画面の音量つまみで調節します。
また、音声入出力時のバランスや音量の設定は、音量を設定するウィンドウで行います。

重要

- ▶ スピーカーが故障する原因となる場合がありますので、音量はスピーカーから聞こえる音がひづまない範囲に設定や調整をしてください。

画面上の音量つまみで設定する

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをクリックします。
音量を調節する画面が表示されます。

POINT

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
 2. 「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」が表示されます。
 4. 「音量」タブをクリックします。
 5. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 6. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。
「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。

音量を調節する画面が消えます。
消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定について

「マスタ音量」 ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

■ 再生時の音量設定方法

- 1 通知領域の「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスタ音量」 ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。

3 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ 録音時の音量設定方法

- 1 画面右下の通知領域にある「音量」アイコンをダブルクリックします。
「マスター音量」ウィンドウが表示されます。**
- 2 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。**
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。**
- 4 「OK」をクリックします。**
- 5 バランスや音量などを調節します。**
- 6 ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックし、ウィンドウを閉じます。**

POINT

- ▶ バランスや音量を設定しても録音時の音量が小さい、または大きい場合は、次の手順で「マイクボリューム」の設定を変更してください。
 1. 「オプション」メニュー→「トーン調整」の順にクリックします。
 2. 「マイクボリューム」の「トーン」をクリックします。
 3. 「そのほかの調整」で「マイクブースト」のチェックを確認してください。
音量を大きくしたい場合はチェックを付けます。
音量を小さくしたい場合はチェックを外します。

■ ご購入時の音量設定

POINT

- ▶ 各項目で表示される名称や順番はOSにより異なる場合があります。
- ▶ 表示されていない項目を表示させる場合は、次のように設定します。
 1. 「オプション」メニュー→「プロパティ」の順にクリックします。
 2. 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」または「Realtek HD Audio output」を選択します。
 3. 「表示するコントロール」で、項目をクリックしてチェックします。
 4. 「OK」をクリックします。
項目が表示されるようになります。

● X840 の場合

- 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
マスタ音量	表示	ー	ワークステーション全体の再生音量
WAVE	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ [®]	表示	ー	本ワークステーション内蔵のソフトウェア MIDI の再生音量
ライン音量	表示	ー	ライン入力の再生音量
マイク ボリューム	非表示	ミュート	マイク端子に接続したマイクの再生音量
CD 音量	表示	ー	(表示されますが、音量調節できません)

- 録音時の音量設定

ご購入時、「録音コントロール」ウィンドウの「選択」は「ステレオミキサー」に設定されています。

項目	ご購入時の表示の状態	設定する音量
CD 音量	表示	(表示されますが、音量調節できません)
ライン音量	表示	ライン入力の録音音量
マイク ボリューム	表示	マイク端子に接続したマイクの録音音量
ステレオミキサー	非表示	ステレオ再生音全体の録音音量

● J350 の場合

- 再生時の音量設定

ー：ご購入時の設定はミュートではありません

項目	ご購入時の表示状態	ご購入時の設定	設定する音量
マスタ音量	表示	ー	ワークステーション全体の再生音量
WAVE	表示	ー	Wave 音源の再生音量
SW シンセサイザ [®]	表示	ー	本ワークステーション内蔵のソフトウェア MIDI の再生音量
CD プレーヤー	表示	ー	(表示されますが、音量調節できません)
ライン音量	表示	ー	ライン入力の再生音量
マイク ボリューム	非表示	ミュート	マイク端子に接続したマイクの再生音量

- ・録音時の音量設定

ご購入時、「録音コントロール」ウィンドウの「選択」は「ステレオミキサー」に設定されています。

項目	ご購入時 の表示の 状態	設定する音量
ライン音量	表示	ライン入力の録音音量
マイク ボリューム	表示	マイク端子に接続したマイクの録音音量
ステレオミキサー	非表示	ステレオ再生音全体の録音音量

3 通信

重要

- ▶ 通信機能をお使いになる場合は、ウイルスや不正アクセスからワークステーションを守るために、セキュリティ対策を実行してください（→ P.111）。

LANについて

LANの設定については、ネットワーク管理者に確認してください。

■ LANを接続する

本ワークステーションには、下記に対応したLANが内蔵されています。

- 10BASE-T (IEEE 802.3 準拠)
- 100BASE-TX (IEEE 802.3u 準拠)
- 1000BASE-T (IEEE 802.3ab 準拠)

警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでワークステーション本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめワークステーション本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

注意



- LANコネクタに指などを入れないでください。
感電の原因となることがあります。



- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 ワークステーション本体の電源を切ります（→『取扱説明書』）。

2 ワークステーション本体のLANコネクタとネットワークを、LANケーブルで接続します。

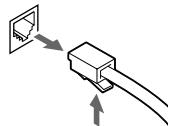
コネクタの形を合わせて、まっすぐに差し込んでください。LANコネクタについては、「各部名称」—「各部の名称と働き」（→ P.12）をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワークを使用中に省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなったり、ソフトウェアの不具合が発生したりする場合があります。
その場合は、「機能」—「省電力の設定」（→ P.106）をご覧になり、省電力機能を解除してください。

POINT

- ▶ LAN コネクタからプラグを取り外すときは、ツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。



コネクタの向きは機種
により異なります。

4 ドライブ関連

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
C	全容量の約 50%	NTFS
D	全容量の約 50%	NTFS
E	CD-ROM ^注 ドライブ	CD-ROM 搭載時

注：カスタムメイドの場合は、選択したドライブ（CD-ROM、スーパーマルチ）になります。

POINT

- ▶ ファイルシステムを NTFS から FAT32 に変換することはできません。
- ▶ カスタムメイドでハードディスク追加を選択した場合、追加されたハードディスクは未フォーマットのため、セットアップ後に「ディスクの管理」で区画を設定し、フォーマットしてください。「ディスクの管理」は次の手順で表示されます。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「コンピュータ管理」の順にクリックします。
 2. 「記憶域」の下にある「ディスクの管理」をクリックします。

DMA の設定

「デバイスマネージャ」で DMA の設定を変更することができます。

■ DMA 設定対応表

DMA 設定対応表をご覧になる前に、次の操作に従って「デバイスマネージャ」ウィンドウを「デバイス（接続別）」に変更してください。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- 2 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。

3 「表示」メニュー→「デバイス（接続別）」の順にクリックします。

本ワークステーションのデバイスが接続別に表示されます。

● X840 の場合

●：ご購入時 DMA 設定 ○：DMA 設定可 −：増設不可

デバイス		プライマリ		セカンダリ	
		0	1	0	1
標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラ PCI バス 0、デバイス 4、機能 0 ^注	CD/DVD	●	−	−	−
標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラ PCI バス 0、デバイス 5、機能 0 ^注	SATA HDD	●	−	○	−
標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラ PCI バス 0、デバイス 5、機能 1 ^注	SATA HDD	○	−	○	−

注：「標準デュアルチャネル PCI IDE コントローラのプロパティ」ウィンドウ「全般」タブの「場所」でご確認できます。

● J350 の場合

●：ご購入時 DMA 設定 ○：DMA 設定可 −：増設不可

デバイス		プライマリ		セカンダリ	
		0	1	0	1
Intel(R) 82801GB/GR/GH (ICH7 Family) Serial ATA Storage Controller-27C0	SATA HDD	●	−	−	−
Intel(R) 82801G (ICH7 Family) Ultra ATA Storage Controllers-27DF	CD/DVD	●	−	−	−

■ DMA の設定方法

POINT

- Serial ATAのハードディスクを増設した場合は、各デバイスのDMA設定がOS標準に戻ることがあります。次の手順に従って、DMA設定を変更してください。

- 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
- 「ハードウェア」タブの「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 「表示メニュー」→「デバイス（接続別）」の順にクリックします。
- 設定するデバイスの「プライマリ IDE チャネル」、または「セカンダリ IDE チャネル」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 「プライマリ（またはセカンダリ）IDE チャネルのプロパティ」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
- 「DMA の設定」の表を参照して設定を変更します。
- 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

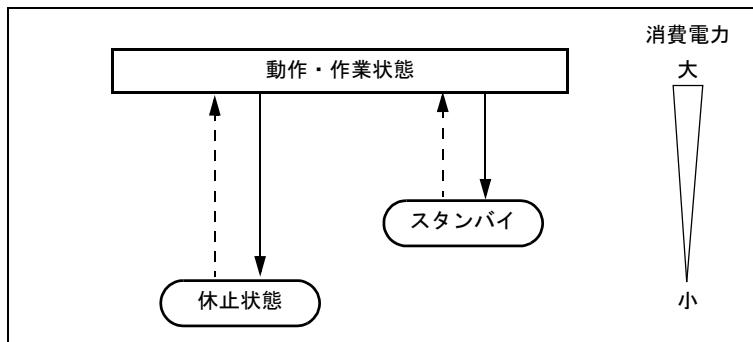
5 省電力

ご購入時は ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) モードに設定されています。

ここでは、ACPI モードに関する注意事項を説明します。

スタンバイと休止状態

スタンバイまたは休止状態を使用すると、Windows を終了しないで節電できます。



上の図にある- - - - ➡ はレジュームを表します。

● スタンバイ (ACPI S3)

実行中のプログラムやデータを、システム RAM (メモリ) に保持してワークステーションの動作を中断させます。スタンバイ中は、電源ランプがオレンジ色に点灯します。休止状態よりも短い時間で、中断やレジュームを行うことができます。スタンバイ中は、わずかに電力を消費していて、電源は AC 電源から供給されます。

● 休止状態 (ACPI S4)

実行中のプログラムやデータを、ハードディスクに書き込んで保存し、ワークステーション本体の電源を切ります。電源を自動的に切るため、スタンバイよりも中断／レジュームにかかる時間が長くなります。なお、休止状態に入るようにするには、「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウで設定する必要があります。

注意事項

■ 共通の注意事項

- ワークステーションをお使いの状況によっては、スタンバイや休止状態、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後は、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。

- スタンバイ時や休止状態移行時、またはレジューム時に、一時的に画面が乱れる場合があります。
- 次の状態でスタンバイ状態に移行させると、スタンバイまたは休止状態にならない、スタンバイまたは休止状態からレジュームしない、レジューム後に正常に動作しない、データが消失するなどの問題が発生することがあります。
 - ・Windows の起動処理中または終了処理中
 - ・ワークステーションが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後
 - ・ファイルアクセス中（フロッピーディスク、ハードディスク、CD-ROM ドライブのアクセスランプが点灯中）
 - ・モデムやネットワークの通信中
 - ・オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
 - ・ビデオ CD や DVD-Videoなどを再生中
 - ・音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
 - ・サウンドや動画の再生中（MIDI/WAVE/AVI/MPEG/DAT形式のファイルの再生中や音楽CDの再生中）
 - ・CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD+R、DVD-RW、DVD+RW、DVD-R DL、DVD+R DL に書き込みまたは書き換え中
 - ・ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているが、対象のドライバのインストールが終了していないとき
 - ・ネットワーク環境で TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用中
 - ・マウスの操作中
 - ・ACPI に対応していない別売の機器（拡張カード、周辺機器）を増設している場合
 - ・OpenGL を使用するソフトウェアを実行中
- BIOS セットアップの省電力に関する設定は、一部を除いて無効となります。各設定の詳細は、「BIOS」－「メニュー詳細」（→ P.149）をご覧ください。
- 本ワークステーションは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合は、本ワークステーションをスタンバイや休止状態にしないでください。
- PCI 拡張カードを増設する場合は、その拡張カードおよびドライバが「IRQ シェアリング（割り込みの共有）」をサポートしている必要があります。増設する PCI カードが IRQ シェアリングをサポートしているかどうかは、各 PCI カードメーカーに確認してください。
- ネットワーク環境によっては、省電力機能を使用できない場合があります。
- CD-ROM 読み込み中にスタンバイや休止状態に移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。
- ネットワーク環境で LAN 着信によるレジューム機能（Wake up on LAN 機能）を使用すると、ホストコンピュータまたは他のコンピュータからのアクセスにより、スタンバイまたは休止状態のコンピュータがレジュームする可能性があります。次の手順でタイマ値を設定することをお勧めします。なお設定値が 20 分より短いと、本ワークステーションがレジュームしてしまうことがあります。20 分以上の値に設定してください。
 1. 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウを表示します（→ P.106）。
 2. 「電源設定」タブの「システムスタンバイ」および「システム休止状態」を「20 分後」以上に設定します。

- スタンバイまたは休止状態へ移行させるときは、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→ P.107）、などの操作）ではなく次のように設定することをお勧めします。この設定を行うと、ファイルアクセス中や通信中などに省電力状態になってしまうことを回避できます。
 - ・「電源設定」タブの「システムスタンバイ」または「システム休止状態」で移行するまでの時間（例えば「30分後」）を設定します。
- ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の条件下では、使用するプロトコルやソフトウェアによっては、不具合（スタンバイおよび休止状態からの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。
 - ・TCP/IP プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
 - ・ネットワーク環境で通信中に、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→ P.107）、などの操作）によりスタンバイおよび休止状態に移行した場合
 - ・ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（電源ボタンを押す、終了ウィンドウで「スタンバイ」または「休止状態」を選択する（→ P.107）、などの操作）によりスタンバイ状態に移行したときに、次のメッセージが表示されて「はい」をクリックした場合
「このコンピュータに接続しているユーザーが次のファイルを開いています。
[ファイル名] ~~
このまま続けるとファイルを閉じますが、ファイルを開いているユーザーはデータを失うかも知れません。続けますか？」
- 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイおよびシステム休止状態への移行はできません。

■ スタンバイ時の注意事項

- 電源ボタンなどで本ワークステーションをスタンバイ状態に移行させても、まれにすぐにレジュームすることができます。その場合には、いったんマウスを動かしてから、再びスタンバイ状態に移行させてください。
- TCP/IP の設定で DHCP が有効の場合、スタンバイ状態移行時に DHCP サーバーから割り当てられた IP アドレスのリース期限が切れたとき、ワークステーション本体がレジュームすることができます。
この場合は、DHCP サーバーの IP アドレスのリース期間を延長するか、または DHCP の使用を中止し固定 IP をご使用ください。
- スタンバイ状態に移行する際、「デバイスのドライバが原因でスタンバイ状態に入れません。ソフトウェアをすべて閉じてから、もう一度やり直してください。問題が解決しない場合は、そのドライバを更新することをお勧めします。」の警告ウィンドウが表示されて、スタンバイ状態に移行できない場合があります。これは、プログラムが動作中でスタンバイ状態に移行できない状態を示します。スタンバイ状態に移行させるためには、動作中のプログラムを終了してください。

■ 休止状態の注意事項

- ハードディスクに必要な空き容量がない場合、休止状態は使用できません。
- Windows XP Professional x64 Edition で 3GB より多くメモリを搭載している場合は、休止状態は使用できません。

- プリンタなどの周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジューム時に周辺機器の情報が初期化されるため、中断する前の作業状態に戻らないことがあります。

省電力の設定

■「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウの表示

本ワークステーションの電源を管理することができます。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」の順にクリックします。
- 2 「電源オプション」をクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

この後は、「設定を変更する」(→ P.106) をご覧になり設定してください。

設定を変更した後は、「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

■ 設定を変更する

お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。

□「電源設定」タブ

本ワークステーションの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、省電力機能が働くまでの時間を設定します。

「モニタの電源を切る」：モニタの電源が切れるまでの時間を設定できます。

「ハードディスクの電源を切る」：ハードディスクの電源が切れるまでの時間を設定できます。

「システムスタンバイ」：スタンバイするまでの時間を設定できます。

「システム休止状態」：休止状態にするまでの時間を設定できます。この項目は「休止状態」タブで「休止状態を有効にする」をチェックした場合のみ表示されます。

□「詳細設定」タブ

電源ボタンを押したときの、ワークステーション本体の動作状態を設定します（ご購入時には、電源を切るように設定されています）。

次のように設定できます。

- 「コンピュータの電源ボタンを押したとき」
：電源ボタンを押したときの状態を設定できます。
- 「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」
：スタンバイ状態からレジュームするときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させる設定を行います。

□「休止状態」タブ

本ワークステーションを終了する前にメモリの内容をすべてハードディスクに保存するかを設定します。

「休止状態」タブの「休止状態を有効にする」をチェックすると、「詳細設定」タブの「電源ボタン」の項目で「休止状態」が選択できるようになります。

■ 各機能の設定について

□ AMD PowerNow!テクノロジ

X840のCPUは、AMD PowerNow!テクノロジに対応しています。

AMD PowerNow!テクノロジは、CPUの負荷が低いときにCPUのクロック周波数を落とすことで、消費電力と発熱量を抑えることができる機能です。

● 設定方法

「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ「電源設定」タブで「ポータブル/ラップトップ」、「プレゼンテーション」、「最小の電源管理」、「バッテリの最大利用」のいずれかに設定してAMD PowerNow!テクノロジを有効にし、本ワークステーションを再起動します。

POINT

- ▶ 出荷時設定は、次のように設定されています。

- ・ BIOS…「Advanced」メニュー「AMD PowerNow!」:「Enabled」(AMD PowerNow! テクノロジが有効)
- ・ OS…「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ「電源設定」タブ「自宅または会社のデスク」(AMD PowerNow! テクノロジが無効)

● 注意事項

- ・ AMD PowerNow!テクノロジを設定しているとCPUのクロック周波数を落とすため性能が劣化します。その場合は「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ「電源設定」タブで「自宅または会社のデスク」、または「常にオン」に変更してAMD PowerNow!テクノロジを無効にし、本ワークステーションを再起動してください。
- ・ お使いのソフトウェアによっては動作に問題がでる場合があります。事前にご確認の上ご使用ください。

スタンバイまたは休止状態にする

■ 「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使う

「コンピュータの電源を切る」ウィンドウを使用してスタンバイ、または休止状態にする場合は、次のように操作してください。

POINT

- ▶ 「コンピュータの電源を切る」ウィンドウに「休止状態」を使用可能にするには、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウ（→P.106）で、休止状態を有効にしてください。
- ▶ Windows XP Professional x64 Editionをお使いの場合、休止状態にするには「コンピュータの電源を切る」ウィンドウが表示された状態で、【H】キーを押してください。

- 1 「スタート」ボタン→「終了オプション」の順にクリックします。
- 2 「スタンバイ」または「休止状態」を選択します。

スタンバイまたは休止状態からのレジューム

■ スタンバイおよび休止状態からのレジューム条件

ACPI モードの高度 (ACPI S3) のスタンバイおよび休止状態から、次の表で○になっているレジューム要因で通常の状態にレジュームさせることができます。

POINT

- ▶ 電源ボタンを押す方法以外で高度 (ACPI S3) のスタンバイ状態からレジュームさせると、OS の仕様により画面が表示されない場合があります。
その場合は、キーボードかマウスから入力を行うと画面が表示されます。画面が表示されないままの状態で一定時間経過すると、本ワークステーションは再度スタンバイ状態に移行します。

レジューム要因	ACPI モード高度 (ACPI S3)	休止状態 (ACPI S4)	
		X840	J350
電源ボタンを押す ^{注1}	○	○	○
PS/2 キーボードのキーを押す、 PS/2 マウスを動かす	×	×	×
USB キーボードのキーを押す、 USB マウスを動かす ^{注2}	○	×	○
タイマでレジューム時刻指定する ^{注3}	○	○	○
LAN 着信 ^{注4}	○	○	○
モデム着信 (Ring Indicator 信号)	×	×	×
PCI 拡張カード (PME# 信号) 経由の着信 ^{注5}	○	○	○

注1 : 「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウ 「詳細設定」 タブの「電源ボタン」 の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」 を「シャットダウン」 に設定した場合でも、電源ボタンを押すとスタンバイ状態からレジュームします。

注2 : 「デバイスマネージャ」 - 「キーボード」 または「マウスとそのほかのポインティングデバイス」 の USB キーボードまたは USB マウスのプロパティの「電源の管理」 タブが表示される場合は、次の項目をチェックする必要があります。

- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

注3 : 「タスク」 を使用した場合、タイマでレジュームさせることができます。

注4 : 「デバイスマネージャ」 - 「ネットワークアダプタ」 の LAN コントローラのプロパティの「電源の管理」 タブの次の項目をチェックする必要があります。

- ・「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- ・「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」

注5 : PME# 信号をサポートした PCI 拡張カード (PCI Revision 2.3 規格に準拠) を搭載した場合、着信によるレジュームをさせることができます。

6 その他

Power MANagement for Windows

Power MANagement for Windows (PMAN) は、本ワークステーションの電源を制御するソフトウェアです。本ソフトウェアでは、「スケジュールによる電源の ON/OFF (自動シャットダウン)」、「LAN 経由によるリモート電源 ON/OFF」、「イベント連携」の機能を使用できます。PMAN はご購入時にインストールされていません。必要に応じてインストールしてください(→ P.136)。

■ 対象 OS

Windows XP Professional

■ PMAN の機能

本ワークステーションで使用できる機能は、次のとおりです。

● スケジュール機能

カレンダスケジュールにより、ワークステーション電源の自動運転ができます。週間スケジュールの他、祝日、長期休暇などの特定日のスケジュールも可能です。スケジュールの設定は、「動作設定」を使用してください。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール)」(別売) の「運用設定」を使用してください。

● リモート電源制御機能

本ワークステーションに搭載されている Wakeup on LAN 機能と連携し、ネットワーク上の他のワークステーションから LAN 経由で本ワークステーションの電源投入／切断 (自動シャットダウン含む) を行うことができます。グループ指定 (運用単位) により複数のワークステーションを一括して電源投入／切断することも可能です。

本機能を使用する場合は、別売の「Power MANagement for Windows (コンソール)」が必要です。設定を行う場合は、「Power MANagement for Windows (コンソール)」(別売) の「運用設定」を使用してください。

● イベント連携機能

通常起動時、通常終了時 (シャットダウン時) のイベントごとにユーザープロセス (プログラム、コマンドなど) を指定できます。イベント発生とソフトウェアを連携させることができます。たとえば、通常停止 (電源切断) のイベント発生時にファイルの退避を行うといったようなソフトウェアの実行も可能です。イベントの設定は、「動作設定」を使用してください。

 POINT

- ▶ Windows XP SP2 を適用している場合、Windows ファイアウォール機能が有効となる為、コンソールからの要求が受け取れなくなります。Windows ファイアウォールの例外リストの登録を行なう必要があります。
詳細は、富士通ホームページより「Windows XP SP2 留意事項」—「Power MANagement for Windows V1.1」(<http://software.fujitsu.com/jp/products/syskou/winxp/sp2/r293c1641.html>)をご覧ください。
- ▶ 本ソフトウェアを使用する場合、休止状態およびスタンバイ機能は使用しないでください。
- ▶ 「コントロールパネル」ウインドウ「電源オプション」—「詳細設定」タブの「電源ボタン」設定が優先されるため、「電源スイッチによる自動シャットダウン機能」は使用できません。
- ▶ シャットダウンについて
本ソフトウェアでは、ワークステーションの強制シャットダウンは行いません。このため、シャットダウン時にソフトウェアの終了を確認してくるプログラムがある場合は、終了の確認画面が表示された状態でキー入力待ち状態になります。
- ▶ DHCP について（リモート電源制御機能使用時のみ）
本ソフトウェアは、DHCP プロトコルに対応していません。必ず、固定 IP アドレスを使用してください。
- ▶ スクリーンセーバーについて
本ソフトウェアを使用する場合、スクリーンセーバー名に「OpenGL」の表記があるスクリーンセーバーは使用しないでください。

第5章

セキュリティ

本ワークステーションで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1 セキュリティについて	112
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	114
3 不正使用からのセキュリティ	119
4 ワークステーションの盗難防止	123
5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ	124

1 セキュリティについて

コンピュータの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本ワークステーションではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。

ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、説明しています。

●重要

- ▶ 当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティ対策は、本ワークステーションを使用している方が責任をもって行うようにしてください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。ワークステーションを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■コンピュータウイルス

コンピュータにトラブルをひき起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染することにより、ワークステーションのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を与えます。

■情報の漏えい

ネットワークなどを通してコンピュータに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり、破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したワークステーションから不正に情報が抜き出されることもあります。

●POINT

- ▶ 記録メディアを廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。CD、DVDなどはディスクの読み取り部に傷をつけたり、USBメモリなどはデータを完全に消去したりすることをお勧めします。

■不正使用

使用する権限のないコンピュータを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■盗難

不正にコンピュータが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

コンピュータのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」—「トラブルに備えて」(→ P.184)、および「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.116) をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどの普及に伴い、コンピュータウイルスへの感染やワークステーション内の情報が漏えいする危険性が高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているワークステーションを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス対策

重要

- ▶ コンピュータウイルスに感染したことにより本ワークステーションの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になることがあります。ウイルスの感染を防ぐために、「Norton AntiVirus」(→ P.114) を使用したり、「Windows Update」(→ P.116) を実行したり対策を取ってください。

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてワークステーションに感染し、データを破壊したりワークステーションを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したワークステーションを使用することにより、メールソフトに登録されているアドレスや保持しているデータに記録されているアドレス宛てに勝手にウイルスが配信され、ウイルスを広めてしまうこともあります。

Windows XP Professionalをお使いの場合は、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「Norton AntiVirus」が添付されています。「Norton AntiVirus」は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

■ Norton AntiVirus

□ 対象 OS

Windows XP Professional

「Norton AntiVirus」は「ソフトウェア」 - 「ソフトウェア一覧」(→ P.128)をご覧になり、必要に応じてインストールしてください。また、「Norton AntiVirus」を使用する場合は、ウイルス定義ファイルの更新をお勧めします。

更新方法については、「ウイルス定義ファイルを更新する (LiveUpdate)」(→ P.115)をご覧ください。

使用方法や設定については、ヘルプをご覧ください。

□ 注意事項

- 「Norton AntiVirus」を起動していると、ソフトウェアが正常にインストールされなかったり、ご使用のソフトウェアによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「Norton AntiVirus」を一時的に使用不可にしてください。ただしインストールが終了した後は、使用可に戻すのを忘れないでください。
 - ・「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」の順にクリックします。

「Norton AntiVirus」ウインドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にクリックし、

- 「Auto-Protect をオンにする」のチェックを外して、「OK」をクリックします。
- ・「Norton AntiVirus」のアイコンが通知領域に表示されている場合は、そのアイコンを右クリックし、「Auto-Protect を無効にする」をクリックします。
 - 「Norton AntiVirus」でコンピュータウイルス検査を実行しているときは、ハードディスクにあるプログラムを実行したり、検査中のフロッピーディスクを取り出したりしないでください。
 - 「Norton AntiVirus」は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイルと、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。定期的に更新してください。
スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の「Norton AntiVirus」をご購入ください。
 - 電子メールに添付されたファイルや入手したフロッピーディスクなどは、コンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。また、ワークステーションのハードディスクは定期的にウイルスチェックを実行してください。

□ ウイルス定義ファイルを更新する（LiveUpdate）

POINT

- ▶ 「LiveUpdate」はシステム管理者の指示に従ってください。
- ▶ 「LiveUpdate」を実行するには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから実行してください。
- ▶ 「Norton AntiVirus」の自動 LiveUpdate を「オン」に設定しておくと、インターネットに接続したときに最新のウイルス定義ファイルに自動更新することができます。

● 手動で更新する

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」の順にクリックし、画面左上の「LiveUpdate」ボタンをクリックします。
2. 「次へ」ボタンをクリックします。
更新ファイルがあるかどうか検索されます。
更新ファイルがない場合は、「完了」をクリックしてウィンドウを閉じます。
3. 「次へ」ボタンをクリックします。
更新ファイルのダウンロードとインストールが始まります。
4. 「完了」をクリックします。

POINT

- ▶ 更新を有効にするために再起動が必要な場合は、Windows を再起動してください。

● 自動で更新する

自動でウイルス定義ファイルを更新するには、「Norton AntiVirus」の自動 LiveUpdate を「オン」に設定する必要があります。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Norton AntiVirus」→「Norton AntiVirus」をクリックします。
「Norton AntiVirus」が起動します。
2. 「Norton AntiVirus」ウィンドウで「オプション」→「Norton AntiVirus」の順にクリックします。
「Norton AntiVirus オプション」ウィンドウが表示されます。
3. 「インターネット」の「LiveUpdate」をクリックします。
4. 「自動 LiveUpdate をオンにする」にチェックを付けて「OK」をクリックします。
自動 LiveUpdate のオンとオフが切り替わります。

□コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

コンピュータウイルスの届け出制度は、「コンピュータウイルス対策基準」（平成 12 年 12 月 28 日付通商産業省告示第 952 号）の規定に基づいています。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、独立行政法人情報処理推進機構（IPA）セキュリティセンターに届け出ることとされています（<http://www.ipa.go.jp/security/>）。

Windows やソフトウェアのアップデート

お使いの Windows やソフトウェアに脆弱性（セキュリティホール）と呼ばれる弱点が発見されることがあります。これらの脆弱性が悪用されると、コンピュータウイルスなどの悪意あるプログラムが作られる可能性があります。脆弱性をそのまま放置しておくと、お使いのワークステーションに悪意あるプログラムが侵入する危険性があります。

その対策として、システムやソフトウェアを提供している各社が修正プログラムを無料で配布しています。新しい修正プログラムが発表されたときには、内容を確認の上、お使いのワークステーションに適用してください。

Windows では、「Windows Update」で Windows を最新の状態に更新できます。最新の状態にすることにより、ウイルスが侵入したり、不正アクセスされたりするセキュリティホールをなくすための対策もされます。

Office 製品についても、マイクロソフト社のホームページから、「Office のアップデート」を実行することにより、最新の状態に更新できます。

■ Windows Update

POINT

- ▶ 「Windows Update」を実行するためには、インターネットに接続できる環境が必要になります。ネットワーク管理者に確認し、あらかじめ必要な設定をしてから、実行してください。
- ▶ インターネットに接続しただけで感染するウイルスなどもあります。ご購入時の設定は「Windows ファイアウォール」が有効になっています。「Windows ファイアウォール」は、有効にして使用することをお勧めします。
- ▶ 「Windows Update」はシステム管理者の指示に従ってください。システム管理者は、次の点にご注意ください。
 - ・「優先度の高い更新プログラム」については、適用されることをお勧めします。
 - ・ハードウェア用の更新プログラムは適用しないでください。ただし、お客様が追加されたデバイスについてはお客様の判断で適用してください。
 - ・自動更新機能を使うと、「Windows Update」を自動的に行なうように設定することができます。設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。ご購入時の設定では、インターネットに接続しているときに、「優先度の高い更新プログラム」を自動更新するように設定されています。必要に応じて設定を変更してください。
- ▶ 「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。「Windows Update」で提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のワークステーションの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。
- ▶ 「Windows Update」のバージョンがアップされている場合は、「Windows Update」のホームページの案内に従って、実行してください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。**

「Windows Update」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ Windows や Office 製品などのマイクロソフト社が提供するソフトウェアの更新プログラムを 1 度に入手できる「Microsoft Update」を利用するこどもできます。「Microsoft Update」を利用するには、マイクロソフト社のホームページから専用のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「Windows Update」のホームページにあるリンクをクリックし、「Microsoft Update」のホームページをご覧ください。

- 2 「カスタム」をクリックします。**

ワークステーションの状態を診断し、更新情報を取得します。

更新情報のリストが表示されます。

- 3 内容を確認し、更新したくない項目がある場合はその項目のチェックを外します。**

通常は、「優先度の高い更新プログラム」についてはすべての項目を更新することをお勧めします。

- 4 「更新プログラムの確認とインストール」をクリックします。**

POINT

- ▶ インターネットへ情報を送信するにあたっての注意が表示されたら、「はい」をクリックします。

- 5 「更新プログラムのインストール」をクリックします。**

この後は、表示される画面に従って操作してください。

セキュリティセンター

「セキュリティセンター」を使うと、Windows のセキュリティの状態を監視したり、関連する機能や設定画面を呼び出したりすることができます。

■ セキュリティセンターの機能

□ セキュリティの状態を監視して危険を知らせる

セキュリティセンターは、セキュリティ対策上で重要な次の 3 つのポイントをいつもチェックしています。

- ワークステーションがファイアウォールで守られている
- 「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」が自動的に適用されるように設定されている
- 最新的ウイルス対策ソフトを実行している

例えば、ウイルス対策ソフトを導入していないなどたり、ウイルス定義ファイルが古いままで最新のコンピュータウイルスに対応できない状態だったりした場合など何か問題があるときに、画面右下の通知領域にあるアイコンの色が変わり、注意を喚起するメッセージを表示してお知らせします。常に最新のセキュリティ対策を取るように心がけてください。

□ セキュリティの設定／確認を手軽に行う

セキュリティセンターでは、次の設定を行うことができます。

- インターネットオプション
「Internet Explorer」のセキュリティ設定を変更できます。ホームページ閲覧中に突然表示される広告（ポップアップウィンドウ）を遮断することもできます。
- 「Windows Update」の自動更新
インターネット利用中に「Windows Update」の「優先度の高い更新プログラム」があるかどうかを定期的に確認し、お使いのワークステーションに自動的にインストールします。
- Windows ファイアウォール
ネットワーク経由で悪意のある第三者や不正なプログラムが侵入するのを防ぎます。

ファイアウォール

ワークステーションを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんすることができます。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作り、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP SP2 および Windows XP Professional x64 Edition では、「Windows ファイアウォール」が標準で搭載されています。

「Windows ファイアウォール」については、Windows のヘルプをご覧ください。

通信データの暗号化

ネットワーク経由でデータをやり取りしている場合、ネットワーク上で情報の漏えいを招くことがあります。重要なデータは、あらかじめ暗号化するなどして保護することが大切です。

Windows には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。暗号化機能の 1 つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」があります。

TCP/IP プロトコルで通信をしている場合に「IPSec」を有効にすると、ソフトウェアに依存せずにデータを暗号化させてネットワークを経由させることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

ワークステーションを使用する権限のない人が不正にワークステーションを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からワークステーションを守ることが必要になってきています。

ここでは、本ワークステーションで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、ワークステーションの安全性も高まります。

※ 重要

- ▶ ワークステーションの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、第三者に知られないように安全な場所に保管してください。
また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更したりするなど、第三者に推測されないように工夫をしてください。

Windows のパスワード

Windows の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで 1 台のワークステーションを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザー アカウント

Windows では、管理者権限を持ったユーザー アカウントを作成できます。管理者は、他のユーザー アカウントのセットアップや管理などを行うことができます。ワークステーションを使用するユーザー アカウントと管理者権限を持ったアカウントを分ければ、ファイルのアクセス権を管理したり、不正なプログラムのインストールや起動を制限できるため、ワークステーションの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows では、ファイルシステムとして NTFS を使用しています。NTFS では、次のことが可能です。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定して、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルの暗号化
暗号化しておけば、不慮の事故や盗難などでハードディスクを紛失しても、データの内容を簡単には読み出せないように保護することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

BIOS のパスワード

ワークステーション起動時や BIOS セットアップ起動時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、ワークステーションの設定が変更できなくなるなどの制限がつきます。

また、J350 をお使いの場合は、ワークステーションのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.162) をご覧ください。

セキュリティチップ

□ 対象 OS

Windows XP Professional

セキュリティチップはワークステーションの状態を確認すると共に、ユーザーごとの鍵を生成し保護管理する機能を持ちます。この機能を使うことで、より強固なファイル暗号化やユーザー認証を行うことができます。

詳しくは、『CELSIUS マニュアル』内の『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

スマートカードリーダ／ライタ

□ 対象機種／OS

スマートカードリーダ／ライタを搭載している機種／Windows XP Professional

ワークステーションや Windows の起動時、ソフトウェアのログオン時にスマートカード認証によるセキュリティを設定できます。スマートカードにはIDやパスワードなどのセキュリティ情報を格納します。1枚のスマートカードに管理者用とユーザー用のパスワードを、1つずつ設定できます。

ワークステーションを使用する場合は、ワークステーション本体にスマートカードをセットし、PIN（個人認証番号）を入力します。スマートカードをセットしないとセキュリティが解除できないため、従来のパスワード認証よりも安全に使用できます。

詳しくは、『CELSIUS マニュアル』内の『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』にあるマニュアルをご覧ください。

Portshutter

□ 対象 OS

Windows XP Professional



- ▶ 無効に設定したポートは、機器を接続してもお使いになれません。

USB ポートや CD-ROM ドライブなどの接続ポートの使用を制限できます。Portshutter を使うことにより、ワークステーションからの情報漏洩やワークステーションへの不正なプログラムの導入を防止することができます。

USB ポートを無効にする場合、USB 機器ごとに有効・無効の設定が可能です。

詳しくは、添付の「ドライバーズディスク」内のマニュアルをご覧ください。

5

拡張ウィルス防止機能（Enhanced Virus Protection）

□ 対象機種

X840

拡張ウィルス防止機能とは、バッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。

Windows XP SP2 の「データ実行防止（DEP）機能」と連動し、悪意のあるプログラムが不正なメモリ領域を使用することを防ぎます。

詳しくは、「ハードウェア」（→ P.21）をご覧ください。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能

□ 対象機種

J350

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、不正なメモリ領域を使用して悪意のあるプログラムを実行可能にするバッファ・オーバーフロー脆弱性を防止する機能です。詳しくは、「ハードウェア」(→ P.21) をご覧ください。

4 ワークステーションの盗難防止

ワークステーションの盗難という危険があります。ワークステーションを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、ワークステーション自体にも盗難防止用の機能が備えられています。

本ワークステーションには、次の機能があります。

- 「サイドカバーキー (X840 の場合)」 (→ P.123)
- 「市販の鍵」 (→ P.123)
- 「盗難防止用ロック取り付け穴」 (→ P.123)

サイドカバーキー、市販の鍵を使用すると、サイドカバーの開閉を制限できるため、ハードディスクなどの装置の盗難の危険性が減少します。これらの鍵の施錠方法については、「ハードウェア」 - 「筐体のセキュリティ」 (→ P.57) をご覧ください。

また、サイドカバーが取り外されたかどうかを、ワークステーション起動時に検出する機能を設定できます。詳しくは、「BIOS」 (→ P.143) をご覧ください。

□ サイドカバーキー (X840 の場合)

添付のサイドカバーキーで、サイドカバーを施錠できます。

重要

- ▶ 施錠する場合は、お客様の責任でサイドカバーキーを紛失しないようにしてください。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、引取修理によるサイドカバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかわらず、鍵の紛失によるサイドカバーの交換は有償となります。
- ▶ サイドカバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。
引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

□ 市販の鍵

ワークステーション本体背面のセキュリティ施錠金具に、市販の鍵を取り付けることができます。

□ 盗難防止用ロック取り付け穴

ワークステーション本体の盗難防止用ロック取り付け穴に、盗難防止用ケーブルを取り付けることができます。ケーブルの端を机や柱などに取り付けることで、ワークステーション本体の盗難の危険性が減少します。

盗難防止用ロック取り付け穴の場所については、「各部名称」 - 「各部の名称と働き」 (→ P.12) をご覧ください。

POINT

- ▶ 市販の鍵または盗難防止用ケーブルの鍵を紛失した場合は、ご購入元にご連絡ください。

5 ワークステーション本体廃棄時のセキュリティ

ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、コンピュータは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピュータに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、ワークステーションを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・ハードディスクをご購入時の状態に戻す

などの作業をするといますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ワークステーションの廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するために、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（Windows、ソフトウェアなど）を削除することなくワークステーションを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

本ワークステーションには、ワークステーションの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」(→P.128)をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ + 0 データ）する事により残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します。（最大磁力：13000 ガウス）

消去証明として富士通が消去証明書を発行し、消去済ナンバリングシールを対象ディスクに貼付して、納品物とします。

詳しくは、「データ消去サービス」(http://segroup.fujitsu.com/fs/services/h_elimination/) をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先メールアドレス：fbprj@support.fujitsu.com

Memo

第 6 章

ソフトウェア

ソフトウェアについて説明しています。



1 ソフトウェア一覧	128
2 ドライバ	142

1 ソフトウェア一覧

本ワークステーションで使用できるソフトウェアをサポートしているOSと、ご購入された時にソフトウェアが提供されている状態の一覧表です。

該当ソフトウェアをサポートするOSは「○」、サポートしない場合は「-」で示しています。ご購入時の提供形態については、プレインストールで添付がされている場合を「◎」、添付のみされている場合を「△」で示しています。

POINT

- ▶ 一部のソフトウェアの使用方法については、ヘルプまたは「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。
- ▶ 選択したカスタムメイドによっては、この他にソフトウェアが添付されることもあります。
- ▶ 添付されているソフトウェアは「ドライバーズディスク」、「リカバリディスク」などに格納されています。各ソフトウェアの紹介を参照してインストールしてください。
- ▶ 一部のソフトウェアはアンインストールできない場合があります。

	名称	ソフトウェアの対象OS		提供形態
		Windows XP Professional	Windows XP Professional x64 Edition	
OS	Windows XP Professional (SP2) (→ P.129)	○	-	◎
	Windows XP Professional x64 Edition (→ P.130)	-	○	◎
セキュリティ	Norton AntiVirus (→ P.130)	○	-	△
	Portshutter (→ P.131)	○	-	△
	SMARTACCESS/Basic (→ P.131)	○	-	△
	ハードディスクデータ消去 (→ P.131)	○	○	△
サポート	FM Advisor (→ P.133)	○	○	◎
	FMV 診断 (→ P.133)	○	○	◎
	PC 乗換ガイド (→ P.134)	○	-	△
	UpdateAdvisor (本体装置) (→ P.134)	○	○	◎
ユーティリティ	Easy Backup (→ P.135)	○	-	△
	FM-Menu (→ P.135)	○	-	△
	FM 拡大ツール (→ P.135)	○	-	△
	FM キーガード (→ P.136)	○	-	△
	Power MANagement for Windows (→ P.136)	○	-	△
ビューア	Adobe Reader (→ P.137)	○	-	◎
CD/DVD	DVD-RAM ドライバーソフト (→ P.137) ^{注1}	○	○	△
	Easy Media Creator (→ P.138)	○	○	◎
Office 製品	Office Personal 2003 (→ P.138) ^{注2}	○	-	◎
	Office Personal 2007 (→ P.139) ^{注2}	○	-	◎
	Office Professional Enterprise 2003 (→ P.139) ^{注2}	○	-	◎
	Office Professional 2007 (→ P.139) ^{注2}	○	-	◎

プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください。

注1：スーパーマルチドライブを搭載している場合

注2：カスタムメイドで選択している場合

各ソフトウェアの紹介

POINT

- ▶ インストールには CD/DVD ドライブが必要です。CD/DVD ドライブが搭載されていないモデルをお使いの場合は、ポータブル CD/DVD ドライブを接続してください。
ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット(USB)」をお勧めします。使用できるポータブル CD/DVD ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。
- ▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

■ Windows XP Professional (SP2)

□ 概要

Windows XP Professional には次のソフトウェアが含まれています。

- Internet Explorer 6 SP2 (World Wide Web ブラウザ)
- Microsoft IME スタンダード 2002 (日本語入力ユーティリティ)
- DirectX9.0c (対応ソフトウェアの高速表示／高品位音声再生を実現)
- OS追加プログラム(出荷時のOSに適用済みのSP以降に提供されたセキュリティの問題を解決する修正プログラム)

△ 重要

- ▶ 「プログラムの追加と削除」で、「更新プログラムの表示」にチェックを付けたときに表示されるモジュールを削除しないでください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションをご購入された時期によっては、「OS 追加プログラム」よりも新しい修正プログラムが配布されている場合があります。「Windows Update」を利用して Windows を最新の状態にすることをお勧めします。「Windows Update」については、「セキュリティ」 - 「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.116) をご覧ください。
- 操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプをご覧ください。

□ SP2 のインストール

SP2 には、Windows XP に対する新しい修正が含まれています。

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 2 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**
c:\\$sp\\$xp\sp2.exe
「Windows XP Service Pack2 セットアップ ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。**

- 4 「追加使用許諾契約書」を読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

この後は、メッセージに従ってインストールを完了してください。

POINT

- ▶ Windows XP のバージョン情報は、次の操作で見ることができます。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. 「ヘルプ」メニュー→「バージョン情報」の順にクリックします。

■ Windows XP Professional x64 Edition

□ 概要

Windows XP Professional x64 Edition には次のソフトウェアが含まれています。

- OS 追加プログラム (Windows XP Professional x64 Edition のリリース以降に提供されたセキュリティの問題を解決する修正プログラム)

POINT

- ▶ 「プログラムの追加と削除」で、「更新プログラムの表示」にチェックを付けたときに表示されるモジュールを削除しないでください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションをご購入された時期によっては、「OS 追加プログラム」よりも新しい修正プログラムが配布されている場合があります。「Windows Update」を利用して Windows を最新の状態にすることをお勧めします。「Windows Update」については、「セキュリティ」→「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.116) をご覧ください。
- 操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているヘルプをご覧ください。

■ Norton AntiVirus

□ 概要

コンピュータウイルスを検出・駆除します。詳しくは、「セキュリティ」→「コンピュータウイルス対策」(→ P.114) をご覧ください。

ユーザー登録をすると「シマンテックテクニカルサポートセンター」をご利用になれます。詳細については「トラブルシューティング」→「お問い合わせ先」(→ P.210) をご覧ください。

□ インストール方法

インストール前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

[CD/DVD ドライブ]:¥app¥nav¥navsetup.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。

■ Portshutter

□ 概要

USB ポートや CD/DVD ドライブなどの接続ポートを無効にするソフトウェアです。不要な機器を接続させないことにより、情報漏洩を防止できます。

□ インストール方法

インストール手順については、「ドライバーズディスク」内の「app\portshut\manual\操作マニュアル.pdf」をご覧ください。

■ SMARTACCESS/Basic

□ 概要

セキュリティチップやスマートカードを使用するためのソフトウェアです。

□ 対象機種

セキュリティチップを搭載している機種、スマートカードリーダ／ライタを搭載している機種

□ インストール方法

インストール方法については『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

■ ハードディスクデータ消去

□ 概要

ハードディスク内のデータを消去します。詳しくは「セキュリティ」－「ワークステーションの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」(→ P.124) をご覧ください。

□ 注意事項

- 本ツールでは、本ワークステーションに内蔵されているハードディスクのみを対象としています。このため、外付けのハードディスクのデータを消去することはできません。
- 1回の操作でデータを消去できるハードディスクは1つです。複数のハードディスクを消去する場合は、システムを再起動してからハードディスクデータ消去を実行する必要があります。
- 「リカバリディスク」を起動してから24時間経つと、本ワークステーションが自動的に再起動されます。そのため、「リカバリディスク」を起動してから長時間放置した場合は、再起動してからハードディスクデータ消去を実行してください。
- 必要なデータはバックアップしてください。
- 周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- データ消去終了まで、数時間かかります。
- データ消去中に電源を切らないでください。ハードディスクが故障する可能性があります。
- データ消去中にリカバリディスクを取り出さないでください。処理が継続できなくなる場合があります。

□データ消去方法

「リカバリディスク 1」を用意してください。

- CD/DVD ドライブが内蔵されていないモデルをお使いの場合

本ワークステーションにポータブル CD/DVD ドライブを接続します。

ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット（USB）」をお勧めします。使用できるポータブル CD/DVD ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

1 「リカバリディスク 1」をセットします。

2 本ワークステーションを再起動します。

3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。

メニューが表示されます。表示されない場合は、すぐに【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本ワークステーションを再起動してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、本ワークステーションの再起動後に【F12】キーを数回押してください。

4 「CD/DVD」または「USB-CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。

「USB-CD/DVD」は、CD/DVD ドライブが内蔵されていないモデルをお使いの場合に選択してください。

しばらくすると、「使用許諾」ウィンドウが表示されます。

5 「使用許諾」をよく読み、「同意します」をクリックします。

「リカバリメニュー」ウィンドウが表示されます。

6 「メニュー」から「ハードディスクデータ消去」を選択し、「実行」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去」ウィンドウが表示されます。

7 注意事項をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。
「データを消去するハードディスクを 1 台選択してください。」と表示されます。

8 データを消去するハードディスクにチェックを付け、「次へ」をクリックします。

「データを消去する方式を選択してください。」と表示されます。

9 消去する方法を選択し、「次へ」をクリックします。

「以下の説明をお読みになり、エラー発生時の処理を選択してください。」と表示されます。

10 エラー発生時の処理方法を選択し、「次へ」をクリックします。

「以下の条件で、データの消去を開始します。よろしいですか？」と表示されます。

11 「開始」をクリックします。

「ハードディスクデータ消去を実行します。よろしいですか？」と表示されます。

12 「OK」をクリックします。

しばらくすると、「電源ボタンを4秒以上押して、電源を切ってください。」と表示されます。

13 電源ボタンを4秒以上押して電源を切ります。

以上でハードディスクデータ消去は終了です。

■ FM Advisor**□ 概要**

本ワークステーションの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。

□ インストール方法

「UpdateAdvisor（本体装置）」（→ P.134）をインストールしてください。「FM Advisor」も同時にインストールされます。

■ FMV 診断**□ 概要**

ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ] :¥app¥shindan¥fmv1910¥disk1¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

 **POINT**

- ▶ インストール後、「スタート」メニューに「FMV 診断」が登録されない場合があります。この場合は、「C:¥fjuty¥fmvdiag¥fmvdiag.exe」を直接起動するか、ショートカットを作成してください。

■ PC 乗換ガイド

□ 概要

今までお使いになっていたパソコンおよびワークステーションから、現在お使いのワークステーションへ必要なデータを移行するためのソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

[CD/DVD ドライブ]:\\$app\\$pcmigrat\\$setup.exe

この後は、メッセージに従って操作してください。

■ UpdateAdvisor（本体装置）

□ 概要

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor（本体装置）」を利用するには、Azby Enterpriseの会員ID、またはSupportDeskサービス契約ユーザーなどのユーザー IDが必要です。
Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor（本体装置）」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor（本体装置）」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、「インターネットに接続し、インストールされている「UpdateAdvisor（本体装置）」が最新バージョンであるか確認を行いますか？」というメッセージが表示されるので、「はい」をクリックしてください。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。**
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。**

[CD/DVD ドライブ]:\\$app\\$advisor\\$xp\\$setup.exe

（「FM Advisor」が同時にインストールされます。）

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Backup

□ 概要

お客様が作成したファイルなどを簡単な操作でまとめてバックアップできるソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1** 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:\\$app\\$easybup\\$setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

使用方法については、ヘルプまたはソフトウェア説明書をご覧ください。

■ FM-Menu

□ 概要

ボタン式メニューから簡単にソフトウェアを起動できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1** 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3** 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:\\$app\\$fmmenu\\$xp\\$setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

6

■ FM 拡大ツール

□ 概要

画面に表示される文字やアイコン、マウスポインタなどの大きさを拡大します。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1** 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2** 「スタート」ボタン→「ファイルを指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:¥app¥elook¥setup.exe

このあとはメッセージに従って操作します。

■ FM キーガード

□ 概要

特定のキー入力を抑止する機能と、プログラムメニューに表示するメニューの抑止機能を追加するソフトウェアです。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:¥app¥fmkguard¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Power MANagement for Windows

□ 概要

本ワークステーションの電源を制御できます（→ P.109）。

□ インストール方法

インストールの前に管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしておいてください。

POINT

- ▶ リモート電源制御機能を使用する場合は、インストール時にあらかじめ IP アドレス、サブネットマスクの設定、TCP/IP プロトコルおよび NetBEUI のインストールが必要です。また、使用時には「デバイスマネージャ」の「ネットワークアダプタ」でお使いの LAN ドライバのプロパティを表示し、「電源の管理」タブで「電源の節約のために、コンピュータでデバイスの電源をオフにできるようにする」をチェックしてください。

1 「ドライバーズディスク」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:¥app¥pman¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

■ Adobe Reader

□ 概要

PDF (Portable Document Format) ファイルを表示、閲覧、印刷できます。

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

POINT

- ▶ セットアップ中、「読み取り専用ファイルの検出」ウィンドウが表示された場合、「はい」をクリックして操作を進めてください。
- ▶ インストール後、再起動時にメッセージが表示される場合があります。動作上問題ありませんので、そのままお使いください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD/DVD ドライブ]:¥app¥adobe¥adberdr708_ja_jp.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ DVD-RAM ドライバーソフト

□ 概要

ハードディスクとほぼ同様の操作で、データ書き込みを可能にする DVD-RAM を使うことができます。

DVD-RAM の保存形式は、FAT 形式 (FAT32) または UDF 形式 (UDF1.5 および UDF2.0) を選択することができます。

ただし、パケットライト機能を使用することはできません。

□ 対象機種

スーパーマルチ ドライブを搭載している機種

□ インストール方法

インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。なお、リカバリを実行した場合、「DVD ドライバーソフト」を手動でインストールする必要があります。

- 1 「DVD-RAM ドライバーソフト」 CD-ROM をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
 - ・ Windows XP Professional の場合
[CD/DVD ドライブ]:¥dvdram¥winxp¥setup.exe
 - ・ Windows XP Professional x64 Edition の場合
[CD/DVD ドライブ]:¥dvdram¥winxp_x64¥setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Easy Media Creator

□ 概要

ワークステーションのデータや音楽、映像データを CD や DVD に保存するためのソフトウェアです。

使用方法については、ソフトウェア内のヘルプをご覧ください。

POINT

- ▶ DVD+R DL にデータ書き込みを行う場合、DVD-ROM との互換性を高めるために「Extended Partial Lead-out」(約 512MB) が書き込まれます。このため、最大書き込み容量は約 7.99GB となります。
- ▶ DVD-R DL の追記はサポートしていません。

□ 対象機種

スーパーマルチドライブを搭載している機種

□ インストール方法

リカバリを実行した場合、「Easy Media Creator」を手動でインストールする必要があります。インストールの前に、必ず管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてください。

- 1 「Roxio Easy Media Creator」 CD-ROM をセットします。
- 2 「スタート」ボタン→「ファイルを指定して実行」の順にクリックします。
- 3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。
[CD/DVD ドライブ]:\\$roxio\\$setup.exe

この後は、メッセージに従って操作します。

■ Office Personal 2003

□ 概要

文書作成、表計算、メールなどのソフトウェアが含まれています。

詳しくはソフトウェアに添付のマニュアル、および『アプリケーション補足説明書 Microsoft® Office 2003 Editions』をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションをご購入された時期によっては、プレインストールされている更新プログラムよりも新しい修正プログラムが配布されている場合があります。「Office のアップデート」を利用して Office を最新の状態にすることをお勧めします。「Office のアップデート」については、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

□ 対象機種

Office Personal 2003 を選択した機種

□ インストール方法

インストール方法については『アプリケーション補足説明書 Microsoft® Office 2003 Editions』をご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「Office Personal 2003」を手動でインストールする必要があります。

■ Office Personal 2007

□ 概要

文書作成、表計算、メールなどのソフトウェアが含まれています。
詳しくはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

□ 対象機種

Office Personal 2007 を選択した機種

□ インストール方法

インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「Office Personal 2007」を手動でインストールする必要があります。

■ Office Professional Enterprise 2003

□ 概要

文書作成、表計算、データベース、メールなどのソフトウェアが含まれています。
詳しくはソフトウェアに添付のマニュアル、および『アプリケーション補足説明書 Microsoft® Office 2003 Editions』をご覧ください。

POINT

- ▶ 本ワークステーションをご購入された時期によっては、プレインストールされている更新プログラムよりも新しい修正プログラムが配布されている場合があります。「Office のアップデート」を利用して Office を最新の状態にすることをお勧めします。「Office のアップデート」については、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

□ 対象機種

Office Professional Enterprise 2003 を選択した機種

□ インストール方法

インストール方法については『アプリケーション補足説明書 Microsoft® Office 2003 Editions』をご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「Office Professional Enterprise 2003」を手動でインストールする必要があります。

■ Office Professional 2007

□ 概要

文書作成、表計算、データベース、メールなどのソフトウェアが含まれています。
詳しくはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。

□ 対象機種

Office Professional 2007 を選択した機種

□ インストール方法

インストール方法についてはソフトウェアに添付のマニュアルをご覧ください。なお、リカバリを実行した場合、「Office Professional 2007」を手動でインストールする必要があります。

アンインストール方法

■ 注意事項

ソフトウェアをアンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

「この DLL は複数のソフトウェアで使用されている可能性があります。削除を行いますか？」

この DLL ファイルを削除すると、他のソフトウェアが正常に動作しなくなることがあります。ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

■ アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

ソフトウェアにアンインストール機能が用意されている場合があります。

- 「プログラムの追加と削除」機能を使用する

「コントロールパネル」ウィンドウの「プログラムの追加と削除」機能を使用して、ソフトウェアを削除できます。

アンインストール方法はソフトウェアによって異なります。詳細は各ソフトウェアのマニュアル、ヘルプ、または「Readme.txt」などの説明ファイルをご覧ください。

2 ドライバ

◀ 重要

- ▶ 添付の「ドライバーズディスク」をセットすると「ドライバーズディスク検索」ツールが起動します。「ドライバーズディスク検索」ツールでお使いのOSを選択すると、使用できるドライバの一覧が表示されます。機種名が選択できる場合は、お使いの機種名も選択してください。
誤ったソフトウェアをインストールした場合、本ワークステーションが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがありますので、必ずOSや機種名を選択し、正しいソフトウェアを使用してください。
- ▶ すでにインストールされているドライバについては、特に問題がない限りインストールしないでください。ただし、ドライバーズディスクの「Update」フォルダ内に最新ドライバが格納されている場合があるので、必要に応じてインストールしてください。

リカバリ後はお使いの機器および選択したカスタムメイドオプションにより、ドライバのインストールが必要です。

- インストールが必要なドライバ
 - ・グラフィックスドライバ
 - ・セキュリティチップ
 - ・スマートカードリーダ／ライタ

その他のドライバをインストールする必要はありません。ただし、ドライバを誤って削除したり、またなんらかの理由により破損した場合、ドライバのインストールが必要になります。インストールについては、機能別のマニュアル、または各ドライバのフォルダ内にある「Install.txt」または「Readme.txt」をご覧ください。

□ 注意事項

- 各ドライバの最新版は富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) のドライバダウンロードページに掲載されています。

第 7 章

BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本ワークステーションのデータを守るためにパスワードを設定する方法について説明しています。

1 BIOS セットアップとは	144
2 BIOS セットアップの操作のしかた	145
3 メニュー詳細	149
4 BIOS のパスワード機能を使う	162
5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う	166
6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧	168

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップは、メモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションご購入時には、必要最小限のことは設定されています。次の場合に設定の変更が必要になります。

- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- リソースの設定を変更するとき
- 起動時の自己診断（POST）に BIOS セットアップを促すメッセージが表示されたとき

POINT

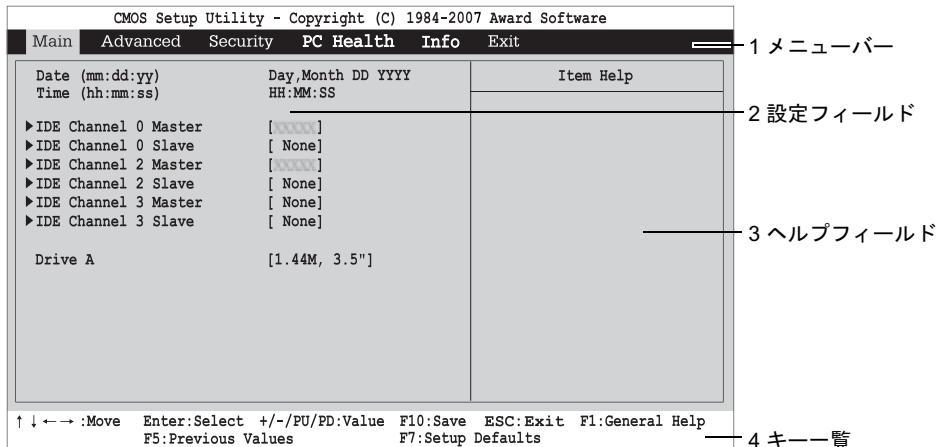
- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、記録した内容をバッテリによって保存しています。
BIOS セットアップを正しく設定しても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は、バッテリが消耗し、CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性が考えられますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断（POST）
本ワークステーションの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断」（POST : Power On Self Test）といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1** 作業を終了してデータを保存します。
- 2** 本ワークステーションを再起動します。
- 3** 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F2】キーを押します。
パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して【Enter】キーを押してください（→ P.165）。

BIOS セットアップ画面が表示されます。



機種により、表示が異なる場合があります。

1. メニューバー

メニューの名称が表示されます。

2. 設定フィールド

各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。

3. ヘルプフィールド

カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

4. キー一覧

設定時に使うキーの一覧です。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面表示が遅く、「FUJITSU」ロゴの表示が確認できない場合があります。
- その場合は、本ワークステーションの再起動後にキーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F2】キーを数回押してください。
- また、BIOS セットアップの「Advanced」—「Advanced BIOS Features」—「Quick Power On Self Test」を「Disabled」に設定することで、「FUJITSU」ロゴを表示できるようになるディスプレイもあります。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	BIOS セットアップで使用するキーについて説明しているヘルプ画面が表示されます。 閉じる場合は、【Esc】キーを押します。
【F5】キー	表示されているメニューのみ変更前の設定値が読み込まれます。
【F7】キー	表示されているメニューの設定のみ標準設定値が読み込まれます。
【F10】キー	変更した設定値を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【F11】キー	記録されているイベントログが表示されます。
【Esc】キー	「Exit」メニューが表示されます。サブメニューが表示されている場合は、1つ前の画面が表示されます。
【Enter】キー	次のことを行います。 <ul style="list-style-type: none"> ▶が表示されている項目では、サブメニューを表示します。 設定値にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、設定値の一覧が表示され、設定値を選択できます。 時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。
【←】【→】キー	メニューバーからメニューを選択します。
【↑】【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【PageUp】【PageDown】	各項目の設定値を変更します。
【+】【-】キー	
【Tab】キー	時刻や日付の設定時に時、分、秒または年、月、日の間でカーソルを移動します。

設定値を変更する

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表します。
 - ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** 【+】【-】キーを押して、設定を変更します。
さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。
サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

POINT

- ▶ 設定値を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておいてください。

BIOS セットアップを終了する

- 1** 「Exit」メニューを表示します。
【Esc】キーまたは【←】【→】キーを押してください。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して終了方法を選び、【Enter】キーを押します。
終了方法は、「Exit メニュー」(→ P.161) をご覧ください。
- 3** メッセージの後に「Y」が表示されていることを確認し、【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

 **POINT**

- ▶ メッセージの後に「N」が表示されているときは、【Y】キーを押してから【Enter】キーを押します。

Boot Menu を使用する

どのデバイスから起動するかを選択します。

- 1** 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2** 「FUJITSU」のロゴが表示されている間に【F12】キーを押します。
Boot Menu 画面が表示されます。
- 3** 【↑】【↓】キーを押して起動するデバイスを選択し、【Enter】キーを押します。
選択したデバイスから本ワークステーションが起動します。
選択されたデバイスが接続されていない場合は、次のデバイスから起動します。

 **POINT**

- ▶ Boot Menu を終了する場合は、【Esc】キーを押してください。

3 メニュー詳細

BIOS セットアップの個々のメニューを説明します。

重要

- ▶ BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

Main メニュー

Main メニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

■ 設定項目の詳細

Date

年月日を設定します。日付は「曜日，月 日 年」の形式で表示されます。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

Time

時刻を設定します。時刻は「時：分：秒」の形式で表示されます。変更する場合は、キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

POINT

- ▶ 「Date」、「Time」は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。
- ▶ 入力した数値を修正するときは、【Back Space】キーを押して設定値を消し、その後入力してください。

IDE Channel 0/1/2/3 Master、IDE Channel 0/1/2/3 Slave

サブメニューを使って、パラレル ATA コネクタやシリアル ATA コネクタに取り付けたハードディスクの、タイプ（容量やシリンドラ数など）を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

POINT

- ▶ ご購入時の状態では、各 IDE チャンネルと接続される IDE デバイスとの対応は次のとおりです。
 - ・ IDE Channel 0 Master : パラレル ATA コネクタのマスター
 - ・ IDE Channel 0 Slave : パラレル ATA コネクタのスレーブ
 - ・ IDE Channel 2 Master : シリアル ATA コネクタ 1
 - ・ IDE Channel 3 Master : シリアル ATA コネクタ 2

- IDE HDD Auto-Detection、IDE Auto-Detection…【Enter】キーを押すと、ハードディスクのサイズやヘッド数などを自動的に検出します。

- IDE Channel 0 Master、IDE Channel 0 Slave、Extended IDE Drive…IDE デバイスのタイプを設定します。
 - IDE Channel 0 Master、IDE Channel 0 Slave の場合 -
 - None : IDE デバイスを使わない場合に選択します。
 - Auto (初期値) : IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
 - Extended IDE Drive の場合 -
 - None : IDE デバイスを使わない場合に選択します。
 - Auto (初期値) : IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
- Access Mode…パラレル ATA コネクタやシリアル ATA コネクタにハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクのアクセスモードを設定します。
 - IDE Channel 0 Master、IDE Channel 0 Slave の場合 -
 - CHS : シリンダ番号／ヘッド番号／セクタ番号によるアクセスが行われます。
 - LBA : LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) が行われます。
 - Large : 拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
 - Auto (初期値) : 最適なモードが設定されます。
 - Extended IDE Drive の場合 -
 - Large : 拡張 CHS (Cylinder/Header/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
 - Auto (初期値) : 最適なモードが設定されます。

POINT

- ▶ 通常は「Auto」に設定してください。
- ▶ ハードディスクをフォーマットした後に本設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。フォーマットした後は、変更しないでください。

- Capacity…パラレル ATA コネクタやシリアル ATA コネクタにハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクドライブの最大容量を表示します。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、 $1\text{MB}=1024^2\text{byte}$ 換算によるものです。

□ Drive A

カスタムメイドで FDD 追加を選択した場合は、フロッピーディスクドライブ (A ドライブ) のタイプを設定します。

- None : フロッピーディスクドライブを使いません。
- 360K, 5.25"/1.2M, 5.25"/720K, 3.5"/1.44M, 3.5" (初期値) /2.88M, 3.5"

POINT

- ▶ カスタムメイドでFDD追加を選択した場合は、1.44MB 3.5-inchのフロッピーディスクドライブが搭載されています。「1.44M, 3.5"」以外の設定では、正常に動作しません。
- ▶ カスタムメイドでFDD追加を選択していない場合、本項目の設定は「None」から変更できません。

Advanced メニュー

Advanced メニューでは、次のサブメニューでフロッピーディスクドライブ、IDE デバイスなどの設定を行います。

Advanced メニューには、次のサブメニューがあります。

- Advanced BIOS Features
- Integrated Peripherals
- Power Management Setup

■ 設定項目の詳細

□ Advanced BIOS Features

起動に関する設定を行います。

- Hard Disk Boot Priority…システムを起動するハードディスク（内蔵ハードディスクまたは拡張カードに接続したハードディスク）の順位を設定します。
本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押し、【↑】【↓】キーを使って順位を変更したいハードディスクを選択後、【+】キーを押すと上側に、【-】キーを押すと下側にそれぞれ移動して順位が変更されます。
 - ・ 1. Ch2 M. : [お使いのハードディスク名称]（初期値）：パラレル ATA コネクタまたはシリアル ATA コネクタに接続されているハードディスクから起動します。
 - ・ 2. Bootable Add-in Cards : 拡張カードに接続されているハードディスクから起動します。

POINT

- ▶ 複数のハードディスクを搭載している場合、「Exit」—「Load Setup Defaults」を実行するとハードディスクの順位が変更されてしまいます。
その場合は、システムを起動するハードディスクの順位を変更して「Exit」—「Save & Exit Setup」または「Save & Turn-Off」を実行して設定値を保存してください。

- Quick Power On Self Test…起動時に自己診断(POST)を簡略化するかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : 起動時に POST を簡略化しません。
 - ・ Enabled（初期値）: 起動時に POST を簡略化します。
 - ・ Auto : 起動時に POST を簡略化するかどうかを自動的に判断します。
- Full Screen LOGO Show…本ワークステーションの起動時に自己診断 (POST 画面) を表示するかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : 起動時に自己診断画面を表示します。
 - ・ Enabled（初期値）: 起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。
- First/Second/Third Boot Device…起動デバイスの優先順位を設定します。「LAN」を設定した場合、ネットワーク経由で本ワークステーションを起動できます。
 - ・ Floppy、Hard Disk、CD/DVD、USB-FDD、USB-CD/DVD、LAN、Disabled

POINT

- ▶ CD-ROM からの起動には、起動可能な CD が必要となります。
一度電源を入れて CD をセット後、ワークステーション本体を再起動してください。
 - ▶ ネットワークサーバーから起動するためには、「LAN」を起動デバイスの優先順位 1 に設定してください。また、「Wired for Management Baseline Version 2.0」に準拠したインストレーションサーバーシステムが必要となります。
- Boot Menu…本ワークステーションの起動時または再起動時に、【F12】キーを押すことによって、Boot Menu (起動デバイスを選択するメニュー) を表示するかどうかを設定します。

- Disabled : Boot Menu を表示しません。
- Enabled (初期値) : Boot Menu を表示します。
- Boot Up Floppy Seek…起動時に、フロッピーディスクドライブのエラーを検出するかどうかを設定します。
 - Disabled : 起動時に、フロッピーディスクドライブのエラーを検出しません。
 - Enabled (初期値) : 起動時に、フロッピーディスクドライブのエラーを検出します。
- Boot Up Num-Lock…起動時に、キーボードを NumLock 状態にするかどうかを設定します。
 - Off : キーボードを NumLock 状態にしません。
 - On (初期値) : キーボードを NumLock 状態にします。
- Init Display First…PCI のグラフィックスカードを増設した場合、PCI カードと PCI Express x16 Graphics カードのどちらをプライマリディスプレイとして使うかを設定します。
 - PCI : PCI カードを使います。PCI のグラフィックスカードを増設していない場合は PCI Express x16 Graphics カードを使います。
 - PEG (初期値) : PCI Express x16 Graphics カードを使います。

POINT

▶ マルチモニタ機能をお使いの場合は、「PEG」に設定してください。

- Limit CPUID Max. to 3…本項目は、CPUID 命令の拡張 Function に対応した CPU を搭載した場合に表示されます。CPUID 命令の拡張 Function を制限するかどうかを設定します。
拡張 Function に対応していない OS では、システムが起動しないことがあります。その場合は「Enabled」に設定してください。
 - Enabled : CPUID 命令の拡張 Function を制限します。
 - Disabled (初期値) : CPUID 命令の拡張 Function を制限しません。
- XD Memory Protect…CPU の「エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能」を有効にするか無効にするかを設定します。
 - Enabled (初期値) : 有効にします。
 - Disabled : 無効にします。
- CPU EIST Function…本設定は「Disabled」(初期値)のまま変更せずに使いください。
- Virtualization Technology…本設定は「Disabled」(初期値)のまま変更せずに使いください。

□ Integrated Peripherals

パラレル ATA やシリアル ATA、シリアルポート、パラレルポートなどの設定を行います。

- On-Chip Primary PCI IDE…パラレル ATA インターフェースを有効にするかどうかを設定します。通常は、「Enabled」に設定してください。
 - Disabled: パラレル ATA インターフェースを無効にします。パラレル ATA インターフェースに接続されているデバイスは、使えなくなります。
 - Enabled (初期値) : パラレル ATA インターフェースを有効にします。
- On-Chip SATA Mode…本設定は「Enhanced」(初期値)のまま変更せずに使いください。

POINT

- ▶ ご購入時の状態では、各 IDE チャネルと接続される IDE デバイスとの対応は次のとおりです。
 - ・IDE Channel 0 Master : パラレル ATA コネクタのマスター
 - ・IDE Channel 0 Slave : パラレル ATA コネクタのスレーブ
 - ・IDE Channel 2 Master : シリアル ATA コネクタ 1
 - ・IDE Channel 3 Master : シリアル ATA コネクタ 2

- **USB Controller**…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。USB コントローラを「Disabled」にすると、すべての USB 機器が使えなくなります。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・Enabled/All (初期値) : USB コントローラをすべて有効にします。
 - ・Rear Only : USB コントローラをワークステーション本体背面のみ有効にします。
 - ・Disabled : USB コントローラをすべて無効にします。
- **USB 2.0 Controller** : USB2.0 を有効にするかどうかを設定します。「USB Controller」を「Enabled/All」または「Rear Only」に設定したときに本設定を変更できます。
 - ・Enabled (初期値) : USB2.0 を有効にします。
 - ・Disabled : USB2.0 を無効にし、USB1.1 で動作します。
- **USB Keyboard Support**…USB をサポートしていない OS で USB キーボードを使えるようにするかどうかを設定します。
 「USB Controller」を「Enabled/All」または「Rear Only」に設定したとき本設定を変更できます。USB をサポートしていない OS で USB キーボードをお使いになるときは「Enabled」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・Disabled (初期値) : USB キーボードを無効にします。
 - ・Enabled : USB キーボードを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「Disabled」のままでもお使いになれます。通常は「Disabled」でお使いください。
 - ▶ 「USB Keyboard Support」を「Enabled」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB キーボードをお使いにならない場合は「Disabled」に設定してください。
なお、USB に対応していない OS では、PS/2 キーボードのご使用をお勧めします。
 - ▶ 本設定が「Disabled」の場合、USB キーボードをお使いの際に Boot Menu や SCSI BIOS (SCSI カードを搭載した場合) では、キーボードによる操作ができません。
- **USB Mouse Support**…USB をサポートしていない OS で USB マウスを使えるようにするかどうかを設定します。「USB Controller」を「Enabled/All」または「Rear Only」に設定したとき本設定を変更できます。
 USB をサポートしていない OS で USB マウスをお使いになるときは「Enabled」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
 - ・Disabled (初期値) : USB マウスを無効にします。
 - ・Enabled : USB マウスを有効にします。

POINT

- ▶ USB に対応している OS では、本設定が「Disabled」のままでお使いになれます。通常は「Disabled」でお使いください。
 - ▶ 「USB Mouse Support」を「Enabled」に設定すると、USB に対応していない OS では、システム全体の動作が遅くなります。USB マウスをお使いにならない場合は「Disabled」に設定してください。
- なお、USB に対応していない OS では、PS/2 マウスのご使用をお勧めします。

- Azalia Codec…内蔵のオーディオデバイスを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Auto (初期値) : オーディオデバイスを有効にします。
 - ・ Disabled : オーディオデバイスを無効にします。
- Onboard H/W 1394…内蔵の 1394 コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : 1394 コントローラを無効にします。
 - ・ Enabled (初期値) : 1394 コントローラを有効にします。
- Onboard H/W LAN…内蔵の LAN コントローラを有効にするかどうかを設定します。
 - ・ Enabled (初期値) : LAN コントローラを有効にします。
 - ・ Disabled : LAN コントローラを無効にします。
- Onboard LAN Boot ROM…ネットワーク (LAN) 経由で本ワークステーションを起動するかどうかを設定します。「Onboard H/W LAN」を「Enabled」に設定したとき本設定を変更できます。
 - ・ Disabled : ネットワーク経由で起動しないようにします。
 - ・ Enabled (初期値) : ネットワーク経由で起動するようにします。
- Onboard Serial Port 1…シリアルポート 1 に割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 1 に I/O アドレスを割り当てません。
 - ・ 3F8/IRQ4 (初期値)、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3 : 割り当てる I/O アドレスを設定します。
- Onboard Serial Port 2…シリアルポート 2 に割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ Disabled : シリアルポート 2 に I/O アドレスを割り当てません。
 - ・ 3F8/IRQ4、2F8/IRQ3 (初期値)、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3 : 割り当てる I/O アドレスを設定します。
- Onboard Parallel Port…パラレルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ Disabled : パラレルポートに I/O アドレスを割り当てません。
 - ・ 378/IRQ7 (初期値)、278/IRQ5、3BC/IRQ7 : 割り当てる I/O アドレスを設定します。
- Parallel Port Mode…パラレルポートのデータ転送モードを設定します。
 - ・ SPP、EPP、ECP (初期値)、ECP+EPP : 接続する周辺機器に合わせて、設定します。
なお、「Onboard Parallel Port」に「3BC/IRQ7」を選択している場合は、「SPP」または「ECP」のみ選択できます。
- ECP Mode Use DMA…ECP 用の DMA チャネルを設定します。「Parallel Port Mode」の設定に「ECP」または「ECP+EPP」が含まれている場合に設定できます。
 - ・ 1、3 (初期値)

□ Power Management Setup

省電力モードに関する設定を行います。

- AC Back Function…停電などからの復電時に、ワークステーション本体の電源を自動的に入れるかどうかを設定します。
 - ・ Soft-Off : 復電しても電源が入りません。
 - ・ Full-On : 復電時に電源が入ります。
 - ・ Memory : 電源が切断される前の状態になります。
 - ・ Disabled (初期値) : 本機能を使用しません。

POINT

- ▶ 「Soft-Off」に設定した場合、または「Memory」に設定し、AC 電源が切れる前の状態がシャットダウンや休止状態の場合、復電の際に一瞬電源が入りますが故障ではありません。この現象を回避する場合は、「Disabled」に設定してください。
- ▶ AC 電源切断後 10 秒以上待ってから電源を入れてください。10 秒以内に入れると正常に動作しなくなります。
- ▶ 「Memory」に設定した場合、AC 電源が切れる前の状態が起動中またはスタンバイ状態のときにワークステーション本体の電源が入ります。休止状態のときは電源が入りません。
- ▶ UPSなどを使って復電時に電源を投入させたい場合は、「Full-On」に設定してください。

- PME Event Wake Up…内蔵 LAN コントローラまたはPME 対応の LAN カード(PCI)が Magic Packet (ウェイクアップ信号) を受信したときに電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ Disabled (初期値) : Magic Packet の受信で電源を入れません。
 - ・ Enabled : Magic Packet の受信で電源を入れます。

POINT

- ▶ Windows XP では、本項目を設定してもスタンバイや休止状態から復帰させることはできません。各 OS のデバイスマネージャで設定してください。

- Resume by Alarm…指定した時刻になったとき、本ワークステーションの電源を入れるかどうかを設定します。
 - ・ Disabled (初期値) : 指定した時刻に、本ワークステーションの電源を入れません。
 - ・ Enabled : 指定した時刻に、本ワークステーションの電源を入れます。
- Date (of Month) Alarm…ウェイクアップする日付を設定します。「Resume by Alarm」を「Enabled」に設定した場合に設定できます。
 - ・ Everyday (初期値)
 - ・ 1 ~ 31

POINT

- ▶ 本機能を毎日お使いになりたいときは、「Everyday」に設定します。

- Time (hh:mm:ss) Alarm…ウェイクアップする時刻を設定します。「Resume by Alarm」を「Enabled」に設定した場合に設定できます。
 - ・ 0 ~ 23 (時)
 - ・ 0 ~ 59 (分)
 - ・ 0 ~ 59 (秒)

POINT

- ▶ Windows XP では、本項目を設定してもスタンバイや休止状態から復帰させることはできません。各 OS のタスクで設定してください。

Security メニュー

Security メニューでは、特定の人だけが本ワークステーションを操作できるようにパスワードを設定します。

パスワードの設定方法については、「BIOSのパスワード機能を使う」(→P.162)をご覧ください。

■ 設定項目の詳細

□ Set Supervisor Password

【Enter】キーを押して、管理者用パスワードを設定、または変更します。

□ Set User Password

【Enter】キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します。

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードは、管理者用パスワードが設定されているときのみ設定できます。
- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。
- ▶ パスワードを設定すると、BIOS セットアップへのアクセス時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを 3 回入力すると、「System Halted!!」と表示され、本ワークステーションはキーボードからの入力に反応しなくなります（ビープ音が鳴り続けます）。この場合、本ワークステーションの電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されている場合、ユーザー権限で設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます（「Set User Password」のみ変更できます）。

□ Password Check

システム起動時、または BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求するかどうかを設定します。

- ・ Setup（初期値）：BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・ System：システム起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・ Auto：自動ウェイクアップ機能のうち、LAN／時刻により自動的に起動したときは、パスワードは要求しません。この場合、起動直後に画面下に表示されているキー（【F2】キー、【F12】キー）を押してもキー入力は無効になります。
なお、通常は「System」と同じ動作になります。

POINT

- ▶ 本設定は、パスワードが設定されている場合のみ有効になります。

□ Halt On

自己診断でエラーを検出したとき、エラーを検出するデバイスを設定します。

- ・ All Errors（初期値）：すべてのエラーを検出します。
- ・ No Errors：すべてのエラーを検出しません。
- ・ All, But Keyboard：キーボードに関するエラーを検出しません。
- ・ All, But Diskette：フロッピーディスクドライブに関するエラーを検出しません。
- ・ All, But Disk/Key：キーボードとフロッピーディスクドライブに関するエラーを検出しません。

□ Chassis Opened Warning

サイドカバーが取り外されたことを、自己診断時にエラーとして検出するかどうかを設定します。

- ・Disabled（初期値）：自己診断時にエラーとして検出しません。
- ・Enabled：自己診断時にエラーとして検出します。

□ Chassis Opened

サイドカバーが取り外されたかどうかが表示されます。

- ・Yes：サイドカバーが取り外されました。
- ・No：サイドカバーが取り外されたことはありません。

POINT

- ▶ 本項目は「Chassis Opened Warning」を「Enabled」に設定している場合に表示されます。

□ Hard Disk Security

サブメニューを使って、ハードディスクのセキュリティ機能を設定します。

● IDE Channel 0/1/2/3 Master、IDE Channel 0/1/2/3 Slave…本ワークステーションに内蔵されているハードディスクのセキュリティ機能を有効、または無効にするかどうかを設定します。なお、標準搭載のハードディスクは、ハードディスクセキュリティに対応しています。

- ・Disabled（初期値）：ハードディスクのセキュリティ機能を無効にします。
- ・Enabled：ハードディスクのセキュリティ機能を有効にして、特定の人だけがハードディスクを使えるようにします。起動時に設定されているパスワードを、ハードディスクに書き込まれているパスワードと照合します。一致しない場合、ハードディスクは使えません。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードで BIOS を起動した場合のみ設定できます。
- ▶ SCSI のハードディスクでは本機能はお使いになれません。
- ▶ ご購入時の状態では、各 IDE チャネルと接続される IDE デバイスとの対応は次のとおりです。
 - ・IDE Channel 0 Master：パラレル ATA コネクタのマスター
 - ・IDE Channel 0 Slave：パラレル ATA コネクタのスレーブ
 - ・IDE Channel 2 Master：シリアル ATA コネクタ 1
 - ・IDE Channel 3 Master：シリアル ATA コネクタ 2
- ▶ ハードディスクがセキュリティ機能に対応していない場合や、ハードディスク以外の装置が接続されている場合は、灰色の文字で表示され、本設定を変更することはできません。
- ▶ 管理者用パスワードのみ設定した場合、ハードディスクには管理者用パスワードが書き込まれます。管理者用パスワードとユーザー用パスワードを設定した場合、ハードディスクにはユーザー用パスワードが書き込まれます。
- ▶ パスワードを変更または解除した場合、ハードディスクに書き込まれたパスワードも変更または解除されます。
- ▶ パスワードが解除されたときは、本設定も同時に「Disabled」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。
- ▶ なんらかの原因(他のハードディスクと交換している間にパスワードを変更した場合など)でワークステーション本体のパスワードとハードディスクに書き込まれたパスワードが異なっている場合、そのハードディスクのパスワードを設定したワークステーションであっても、データは読み込めません。

重要

- ▶ パスワードを忘れると、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクセキュリティ機能を無効にすることができないなります。「パスワードを忘れると」(→ P.162) をご覧ください。
 - ▶ ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更する場合は、必ず電源をいったん切り、再度ワークステーションの電源を入れて、BIOS セットアップを起動してから設定を変更してください。また、ハードディスクセキュリティ機能の設定を変更した後は、BIOS セットアップの「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を実行してワークステーションの電源を切ってください。
- これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

□ Security Chip Setting

サブメニューを使って、セキュリティチップ機能を設定します。

- Security Chip…セキュリティチップについて設定します。
 - ・ Disabled (初期値) : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使いません。
 - ・ Enabled : セキュリティチップによるセキュリティ機能を使います。

POINT

- ▶ 本項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に選択できます。
- ▶ セキュリティチップをお使いになる場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「認証デバイスのセキュリティ機能を使う」(→ P.166) をご覧ください。
- ▶ セキュリティチップを有効にするには、BIOS セットアップ終了後に本ワークステーションを再起動してください。
- ▶ 本項目は出荷時は「Disabled」に設定されています。本設定は、「Exit」メニューの「Load Setup Defaults」を実行された場合も、現在お使いの状態のまま変更されません。必要に応じて変更してください。

- Clear Security Chip…セキュリティチップの情報を削除します。

POINT

- ▶ 本項目は、「Security Chip」の設定が「Enabled」の場合で、実行可能な状態でのみ表示されます。
- ▶ セキュリティチップをお使いになる場合は、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「認証デバイスのセキュリティ機能を使う」(→ P.166) をご覧ください。

- Security Chip State…セキュリティチップの状態を表示します。
 - ・ Disabled/Deactivated (初期値) : セキュリティチップが無効の状態です。
 - ・ Enabled/Activated : セキュリティチップが有効な状態です。

PC Health メニュー

メインボードに搭載されているハードウェアモニタや DMI Event Log の確認を行います。

□ ** Event Logging **

DMI Event Log の確認を行います。

- DMI Event Log…エラー発生時にイベントログを記録するかどうかを設定します。
 - ・ Disabled : イベントログを記録しません。
 - ・ Enabled (初期値) : イベントログを記録します。
- Clear All DMI Event Log…次回の本ワークステーション起動時に、イベントログの内容を消去するかどうかを設定します。
 - ・ No (初期値) : イベントログを消去しません。
 - ・ Yes: イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定値は「No」になります。
- View DMI Event Log…【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

□ Temperature

サブメニューを使って、ワークステーションの温度の情報を表示します。

- REAR Temperature…メインボードに搭載されている温度センサー (REAR) の現在の温度が表示されます。
- SYSTEM Temperature…メインボードに搭載されている温度センサー (SYSTEM) の現在の温度が表示されます。
- CPU Temperature…CPU の現在の温度が表示されます。

□ Voltage

サブメニューを使って、ワークステーションの電圧の情報を表示します。

- Vcore…CPU の現在の電圧が表示されます。
- +5V…5V ラインの現在の電圧が表示されます。
- +3.3V…3.3V ラインの現在の電圧が表示されます。
- +12V…12V ラインの現在の電圧が表示されます。
- VBAT…内蔵バッテリの現在の電圧が表示されます。

□ FAN

サブメニューを使って、ワークステーションの FAN の情報を表示します。

- CPU FAN Speed…CPU に取り付けられているファンの現在の回転数 (rpm) が表示されます。
- SYSTEM FAN Speed…メインボードに搭載されている SYSTEM FAN コネクタ (→ P.19) に接続されているファンの現在の回転数 (rpm) が表示されます。

Info メニュー

Info メニューには、BIOS セットアップやワークステーション本体についての情報が表示されます。設定の変更はできません。

■ 設定項目の詳細

□ BIOS Version

BIOS のバージョンが表示されます。

「1.00」と表示されている場合、BIOS のバージョンは「Version 1.00」です。

□ BIOS Date

BIOS の日付が表示されます。

□ Processor Type

本ワークステーションに搭載されている CPU の種類が表示されます。

□ Processor Speed

本ワークステーションに搭載されている動作クロック数が表示されます。

□ L1 Cache

CPU の 1 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

□ L2 Cache

CPU の 2 次キャッシュメモリの容量が表示されます。

□ Total Memory

本ワークステーションに搭載しているメインメモリ (RAM) の合計容量が表示されます。

□ DIMM1/2

メモリスロットに取り付けられているメモリの容量を検出して表示します。

メモリが取り付けられていない場合は「Not Installed」と表示されます。

□ Memory Channel

メインメモリの動作モードが表示されます。

- Single : シングルモードで動作しています。
- Dual/Inter leaved : デュアルモードで動作しています。

□ Onboard LAN MAC Address

本ワークステーションに内蔵されている LAN の MAC アドレスが表示されます。

「Advanced」 - 「Integrated Peripherals」 - 「Onboard H/W LAN」を「Disabled」に設定した場合は、「N/A」と表示されます。

□ Configuration ID

本ワークステーションのカスタムメイド (BTO) 番号が表示されます。

Exit メニュー

Exit メニューは、セットアップを終了するときに使います。

■ 設定項目の詳細

□ Save & Exit Setup

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N) ?」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して CMOS Setup Utility を終了し、本ワークステーションを再起動します。

□ Save & Turn-Off

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「SAVE to CMOS and Turn-Off (Y/N) ?」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して CMOS Setup Utility を終了し、本ワークステーションの電源が切れます。

□ Exit Without Saving

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「Quit Without Saving (Y/N) ?」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を元に戻して CMOS Setup Utility を終了し、本ワークステーションを再起動します。

□ Load Setup Defaults

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「Load Setup Defaults (Y/N) ?」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、ご購入時の設定値（標準設定値）が読み込まれます。

POINT

- ▶ 下記の自動ウェイクアップ項目の設定は、システム起動時に設定されます。
設定を変更した場合は、「Save & Exit Setup」を選択し、一度システムを再起動してください。
 - ・ PME Event Wake Up
 - ・ Resume by Alarm

4 BIOS のパスワード機能を使う

本ワークステーションのデータを守るためにパスワード機能を説明します。

本ワークステーションは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本ワークステーションを使えなくなります。

パスワードの種類

本ワークステーションで設定できるパスワードは次の2つです。

入力するパスワードにより、本ワークステーション操作の権限が区別されます。

- **Supervisor Password (管理者用パスワード)**

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、システム管理者用のパスワードです。パスワード機能を使う場合は、必ず設定してください。

- **User Password (ユーザー用パスワード)**

特定の人だけが BIOS セットアップや OS を起動できるようにするための、一般利用者用のパスワードです。「Supervisor Password」が設定されている場合に設定できます。

User Password で起動した場合、設定できる項目が「Set User Password」のみに制限されます。

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが削除された場合、ユーザー用パスワードも削除されます。

パスワードを忘れると

管理者用パスワードを忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動できなくなります。そのため、ワークステーションを起動できなくなったり、BIOS セットアップのほとんどの項目で設定値を変更できなくなったりします。

また、ハードディスクセキュリティ機能が有効の場合、ハードディスクが使えなくなったり、ハードディスクのセキュリティ機能を無効にできなくなります。

この場合は、修理（有償）が必要となりますので、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。

重要

- ▶ セキュリティチップを使用している場合、メインボードを修理した後にセキュリティチップの復元処理が必要になります。詳しくは、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』と「認証デバイスのセキュリティ機能を使う」（→ P.166）をご覧ください。
- ▶ ハードディスクの修理を行うと、ハードディスク内のデータは初期化されるため復旧できません。データのバックアップができる場合は、必ず修理の前にバックアップしてください。
- ただし、起動時のパスワードを設定している場合、管理者用とユーザー用のパスワードを両方とも忘れる、データのバックアップはできません。

 **POINT**

▶ ユーザー用パスワードを忘れた場合

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの順にパスワードを設定し直してください。

パスワードを設定する

POINT

- ▶ ユーザー用パスワードを設定する前に、管理者用パスワードを設定してください。

- 1 「Security」メニューで「Set Supervisor Password」、または「Set User Password」にカーソルを合わせて【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。

Enter Password:

POINT

- ▶ 「Set Supervisor Password」が設定されていないと、「Set User Password」は設定できません。

- 2 8桁までのパスワードを入力します。
パスワードを変更する場合も、新しいパスワードを入力してください。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、代わりに*が表示されます。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が求められます。

Confirm Password:

- 4 手順2で入力したパスワードを再度入力し、【Enter】キーを押します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「Enter Password」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。
- 5 BIOS セットアップを終了します。
「BIOS セットアップを終了する」(→ P.148)

POINT

- ▶ 設定したパスワードは、忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワードを設定した後は

パスワードを設定すると、BIOS セットアップを始めるときに、パスワード入力用ウィンドウが表示されます。また、OS 起動時にも、パスワードの入力用ウィンドウを表示するように設定することができます。

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。なお、ユーザー用パスワードを入力した場合は、設定できる項目が「User Password」のみに制限されます。

Enter Password:

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、ビープ音が鳴りシステムが停止します。この場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってからもう一度電源を入れて、正しいパスワードを入力してください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

- パスワードを変更するには、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」の項目で、新しいパスワードを入力します。

■ パスワードを削除する

- パスワードを削除するには、「Set Supervisor Password」または「Set User Password」の項目で、新しいパスワードを入力しないで 【Enter】キーを押します。
次のウィンドウが表示され、パスワードが削除されます。

PASSWORD DISABLED !!!
Press any key to continue...

- 管理者用パスワードが削除されたときは、「Hard Disk Security」(→ P.157) の設定も同時に「Disabled」に設定され、ハードディスクのセキュリティ機能が解除されます。

△ 重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ機能を有効に設定している場合
ハードディスクパスワードを変更したり削除したりする場合には、Windows の「終了オプション」から「電源を切る」を実行していったんワークステーションの電源を切り、電源ボタンを押してワークステーションの電源を入れてから BIOS セットアップを起動してください。また、パスワードの設定を変更したり削除したりした後は、必ず「Exit」メニューの「Save & Turn-off」を実行してワークステーションの電源を切ってください。
これらの手順を守らないと、変更した内容が正しく反映されない場合があります。

5 認証デバイスのセキュリティ機能を使う

ここでは、セキュリティチップなどの認証デバイスをお使いになるために必要な BIOS セットアップの設定について説明しています。

セキュリティチップ

重要

- ▶ セキュリティチップをお使いになる場合は、BIOS セットアップの設定を変更する前に、必ず『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧になり、必要な設定を行うようしてください。『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』では、セキュリティチップをお使いになるうえでの注意事項および操作の手順について記載しています。

■ BIOS の設定を変更する

セキュリティチップをお使いになる場合、ドライバやソフトウェアをインストールする前に、BIOS セットアップの設定を変更する必要があります。

次の手順に従って BIOS セットアップの設定を変更してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については「BIOS セットアップを起動する」（→ P.145）をご覧ください。

2 管理者用パスワードを設定していない場合は、管理者用パスワードを設定します。

管理者用パスワードの設定については、「パスワードを設定する」（→ P.164）をご覧ください。

3 「Security」メニューで「Security Chip Setting」（→ P.158）を選択して【Enter】キーを押します。

「Security Chip」が表示されます。

POINT

- ▶ 「Security Chip Setting」（→ P.158）の「Security Chip State」に、現在のセキュリティチップの動作状況が表示されます。セキュリティチップが使用可能な場合は、「Enabled/Activated」と表示されます。

4 【+】キーまたは【-】キーを押して、「Security Chip」の項目を「Enabled」に設定します。

5 【Esc】キーを 2 回押します。

「Exit」メニューが表示されます。

6 「Exit Saving Changes」を選択し、BIOS セットアップを終了します。

重要

- ▶ 設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Save & Turn-off」を選択してワークステーション本体の電源を切ったり、「Save Changes」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

■ セキュリティチップの鍵を消去する

本ワークステーションを廃棄する場合などは、ワークステーションに残っているデータなどが復元されないようにセキュリティチップの鍵を消去してください。

重要

- ▶ セキュリティチップの鍵を消去すると、セキュリティチップで暗号化したファイルや証明書が利用できなくなります。セキュリティチップの鍵はよくご確認のうえ消去してください。

1 BIOS セットアップを起動します。

起動の手順については、「BIOS セットアップを起動する」(→ P.145) をご覧ください。

2 「Security」メニューで「Security Chip Setting」(→ P.158) の「Clear Security Chip」を選択し、【Enter】キーを押します。

クリアの続行を確認するメッセージが表示されます。

3 「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。

4 【Esc】キーを 2 回押します。

「Exit」メニューが表示されます。

5 「Exit Saving Changes」を選択し、BIOS セットアップを終了します。

重要

- ▶ 設定を有効にするには、BIOS セットアップ終了後に「Exit Saving Changes」を選択し、本ワークステーションを再起動してください。「Save & Turn-off」を選択してワークステーション本体の電源を切ったり、「Save Changes」を選択した後で電源を切ったりすると、設定が正しく行われません。その場合は、次回起動時にエラーメッセージが表示されます。

6 BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの対処方法を説明します。必要に応じてお読みください。

エラーメッセージが記録されたときは

「エラーメッセージ一覧」(→ P.168) に記載の処置をしてください。

処置を実行しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

エラーメッセージ一覧

BIOS イベントログに記録されるエラーメッセージの一覧は、次のとおりです。

- CMOS Checksum Error

CMOS チェックサムが間違っています。すべての BIOS 設定項目が標準設定値に変更されました。

BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

BIOS 設定を標準設定値から変更している場合は設定変更後、設定した内容を保存して BIOS セットアップを終了してください。

- Keyboard error or no keyboard present

キーボードテストでエラーが発生しました。

電源を切って、キーボードが正しく接続されているか確認し、10 秒以上待ってから電源を入れ直してください。

- Floppy Disk(s) failed(nn)

フロッピーディスク ドライブテストでエラーが発生しました。

電源を切って、フロッピーディスク ドライブが正しく取り付けられているか、確認してください。

- Security Chip not found

セキュリティチップが正常に認識されていません。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Security Chip MPD function execution error

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Security Chip MPD function error

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Security Chip initialization error

セキュリティチップのテスト中にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- nnn FAN Error

POST 時のファン確認時にエラーが発生しました。

電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

- nnn Voltage Error

POST 時の電圧確認時にエラーが発生しました。

「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Chassis Open detected

サイドカバーが取り外されました。

サイドカバーが取り付けられていることを確認後、BIOS 設定を保存して BIOS セットアップを終了してください。

- Single Bit Error @DIMMnn,Banknn

メモリスロット DIMM n で 1bit のエラーが発生し、訂正されました。

そのまま使用し続けても問題ありません。

それでも頻発する場合は電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

- Multi Bit Error @DIMMnn,Banknn

メモリスロット DIMM n で訂正不可能なエラーが発生しました。

電源を切って、メモリが正しく取り付けられているか確認してください。

- Unsupported DIMM detected

サポート外のメモリが取り付けられています。

弊社純正品のメモリが取り付けられているかを確認してください。

- PCI System Error Bus nn Dev nn Fun nn

PCI デバイスでシステムエラー (SERR) が発生しました。

電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。

- PCI Parity Error Bus nn Dev nn Fun nn

PCI デバイスでパリティエラー (PERR) が発生しました。

電源を切って、PCI カードが正しく取り付けられているか確認してください。

- nnn Temperature Error

温度異常を検出しました。

電源を切って、ファンが壊れていないことまたはファンのケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

10 分程待ってから電源を入れ直してください。

- Invalid Password Input

誤ったパスワードが入力されました。

Memo

第8章

技術情報

本ワークステーションの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	172
2 コネクタ仕様	177

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		CELSIUS J350
CPU 注1		Intel® Pentium® D プロセッサー 945 3.40 GHz 注2
キャッシュメモリ注3		1 次 : 16KB データ × 2、2 次 : 2MB × 2 (CPU 内蔵)
チップセット		Intel® 975X Express チップセット
システム・バス注4		800MHz
メインメモリ		標準 512MB (256MB × 2 DDR2 SDRAM/PC2-5300) ECC なし注5、最大 2GB
メモリスロット		× 2 (空きスロットなし)
フロッピーディスクドライブ注6		3.5 インチ × 1 (3 モード対応) 注7
ハードディスクドライブ注8		80GB (Serial ATA/300、8MB cache、7200rpm) 注9
CD ドライブ注6		あり注10
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 High Definition Audio バスコントローラ + High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング周波数 最大 96kHz、24 ビット (再生時) 注11、 サンプリング周波数 最大 96kHz、20 ビット (録音時) 注11、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
通信機能	LAN	1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T 準拠、Wake up on LAN 対応注12
セキュリティ機能	スマートカード注6	あり
	セキュリティチップ注13	TCG Ver1.2 準拠
	盗難防止用ロック	あり
	筐体施錠	あり
インターフェース	シリアル	非同期 RS-232C 準拠 D-SUB9 ピン × 2 (16550A 互換)
	パラレル	セントロニクス準拠 ECP/EPP 対応 D-SUB25 ピン × 1
	キーボード／マウス	PS/2 準拠 Mini-DIN 6 ピン (キーボード用 × 1、マウス用 × 1)
	USB 注14	USB2.0 準拠 × 7 (前面 × 2、背面 × 4、内部 × 1) 注15
	IEEE1394a 注16	4 ピン × 1 (S400)
	LAN	RJ-45 × 1
	オーディオ	マイク : φ 3.5mm モノラル・ミニジャック (入力 : 100mV 以下、入力インピーダンス (AC) 5kΩ 以上 (DC) 2kΩ 以上)、 ヘッドホン : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック (出力 : 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω)、 ラインイン : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック、 ラインアウト : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック
障害監視機能 (POST 時)		カバーセンサー、ファン停止、電源電圧、バッテリ電圧
拡張スロット数注17		PCI Express x16 Graphics × 1 PCI Express x1 × 1 (ハーフ : 176mm) 32bit/33MHz PCI (Low Profile 対応) (Rev 2.3 準拠) × 1 (ハーフ : 176mm)
ファイルベイ数		前面 : 5 インチファイルベイ × 1 (カスタムメイドで CD-ROM ドライブまたはスーパーマルチドライブを選択した場合) 内部 : 3.5 インチファイルベイ × 1 (ハードディスクドライブ搭載済み)
電源／周波数		AC100V ± 10%、50/60Hz + 2% - 4% (入力波形は正弦波のみサポート)

製品名称		CELSIUS J350
消費電力 ^{注18}	電源 OFF 時 ^{注19}	2W 以下
	動作時 ^{注20}	通常約 104W 最大約 583W スタンバイ時約 1.5W ^{注21}
定格電流	動作時	最大 7A (アウトレット最大 3A を含む)
外形寸法 (突起部含まず)	縦置きの場合 : W 99 × D 367 × H 357 mm、W 189 × D 367 × H 371 mm (フット装着時) 横置きの場合 : W 357 × D 367 × H 99 mm、W 447 × D 367 × H 113 mm (フット装着時)	
質量	標準モデル : 8.5kg	
温湿度条件	温度 10 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (動作時)、 温度 -10 ~ 60 °C / 湿度 20 ~ 80%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)	
プレインストール OS	Windows XP Professional ^{注22} (DirectX 9.0c 対応)	

本ワークステーションの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注について

注 1 : ソフトウェアによっては、CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 : カスタムメイドで CPU 変更を選択した場合は、次のようになります。

Intel® Core™2 Duo プロセッサー E6600 (2.40 GHz)

注 3 : Intel® Core™2 Duo プロセッサー E6600 の場合

キャッシュメモリ	1 次 : Data キャッシュ 32KB (8-way) + 命令キャッシュ 32KB (8-way)、 2 次 : 4MB
----------	--

注 4 : Intel® Core™2 Duo プロセッサー E6600 の場合

システムバス	1066MHz
--------	---------

注 5 : カスタムメイドでメモリ変更を選択した場合は、「ECC あり」です。

注 6 : カスタムメイドの選択によって搭載されています。

注 7 : フロッピーディスクは、フォーマットした環境 (メーカー、機種、ソフトウェア) によっては、データを読み書きできない場合があります。

対応メディアは、2HD (1.44MB、1.2MB) と 2DD (720KB) です。

注 8 : 本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

注 9 : カスタムメイドの選択によっては、160GB (Serial ATA/300、8MB cache 7200rpm) の場合もあります。

注 10 : カスタムメイドの選択によって、次のドライブが搭載されていることがあります。なお、各数値は仕様上の最大値であり、使用メディアや動作環境によって異なる場合があります。

CD-ROM ドライブ	CD-ROM 読出 : 最大 40 倍速
スーパーマルチ ドライブ (バッファアンダーランエラー防止機能あり)	CD-ROM 読出 : 最大 40 倍速、CD-R 読出／書込 : 最大 40 倍速、 CD-RW 読出 : 最大 24 倍速、 CD-RW 書込／書換 : 最大 10 倍速、 DVD-RAM 読出／書込／書換 : 最大 5 倍速、 DVD-RAM2 読出／書込／書換 : 最大 12 倍速、 DVD-R 読出 : 最大 10 倍速、DVD-R 書込 : 最大 16 倍速、 DVD-RW 読出 : 最大 8 倍速、DVD-RW 書込／書換 : 最大 6 倍速、 DVD-ROM 読出 : 最大 16 倍速、DVD-Video 読出 : 最大 4.8 倍速、 DVD+R 読出 : 最大 10 倍速、DVD+R 書込 : 最大 16 倍速、 DVD+R DL 読出／書込 : 最大 8 倍速、 DVD-R DL 読出 : 最大 8 倍速、DVD-R DL 書込 : 最大 4 倍速、 DVD+RW 読出／書込／書換 : 最大 8 倍速

注 11 : 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 12：本ワークステーションには 1000BASE-T の LAN 機能が搭載されています。

- ・本ワークステーションの LAN 機能は 1000BASE-T に対応し、1Gbps(1000Mbps)の高速なデータ通信をサポートします。また、従来の 100BASE-TX、10BASE-T もサポートしているため、通信速度の自動認識を行い、既存のローカル・エリア・ネットワーク（LAN）にそのまま接続することができます。

- ・本ワークステーションでは、ACPI モード（ご購入時の設定）のときにスタンバイと休止状態からの Wakeup on LAN 機能がお使いになります。

注 13：ご購入時のセキュリティチップの設定は、無効になっています。

注 14：・すべての USB 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

- ・USB1.1 準拠の周辺機器を接続している場合、USB1.1 の仕様でお使いになれます。

- ・外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 15：カスタムメイドでスマートカードリーダ／ライタを選択した場合、内部の USB インターフェースを 1 つ使用します。

注 16：すべての IEEE1394 対応周辺機器について動作保証するものではありません。

注 17：・すべての PCI Express x1 規格のカードについて動作保証するものではありません。

- ・カスタムメイドで Quadro FX 1500 を選択した場合の拡張スロット数は、次のとおりです。

拡張スロット数	× 2 PCI Express x16 Graphics × 1 PCI Express x1 × 0 (使用不可) 32bit/33MHz PCI (Low Profile 対応) (Rev 2.3 準拠) × 1 (ハーフ : 176mm)
---------	---

注 18：ディスプレイの電源をアウトレットから供給しない場合の電力値です。

注 19：電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、メインスイッチを「○」側に切り替えるか、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 20：アウトレット（モニタ）へ最大供給した場合です。

注 21：ご使用になる機器構成により値は変動します。

注 22：出荷時に、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載が適用されています。

省エネ法に基づくエネルギー消費効率

CPU	Intel® Pentium® D プロセッサー 945	Intel® Core™ 2 Duo プロセッサー E6600
	3.40 GHz	2.40 GHz
省エネ法に基づく エネルギー消費効率 (2007 年度基準)	0.0022 【j 区分】(AA)	0.0013 【j 区分】(AA)

注：エネルギー消費効率とは省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したもののです。

AAA は省エネルギー基準達成率 500% 以上であることを示します。

AA は省エネルギー基準達成率 200% 以上 500% 未満であることを示します。

A は省エネルギー基準達成率 100% 以上 200% 未満であることを示します。

LAN 機能

LAN コントローラ	Broadcom BCM5787M
送受信バッファ用 RAM	送受信 各 40kbyte
外部インターフェース	ISO8802-3 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル ^{注1} (1Gbps : カテゴリ 5E 以上、100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	1Gbps、100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット ^{注2} による

注1：ケーブルは、必ずお使いのネットワーク・スピードに対応したデータグレードのケーブルをお使いください。データグレードの低いケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

注2：ハブユニットとは、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本ワークステーション標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。
ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

表示機能

■ 標準モデル

グラフィックスアクセラレータ	GeForce 7300 LE
ビデオ RAM	128MB ^{注1}
解像度／発色数	プライマリ：最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） プライマリ：最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時） セカンダリ：最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時）
インターフェース ^{注2}	アナログ RGB（ミニ D-Sub15 ピン×1）、 デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29 ピン×1（HDCP 対応）
DirectX	DirectX9.0c
OpenGL	OpenGL 2.0

注1：NVIDIA® TurboCache™ テクノロジにより、ローカルビデオメモリに加えてメインメモリの一部をダイナミックに使用します。その場合、ビデオメモリは、最大 512MB（メインメモリが 1GB 以上の場合）、また最大 256MB（メインメモリが 512MB の場合）までサポートします。

注2：著作権保護のされた映像を再生する場合は、ディスプレイをアナログ RGB で接続してください。HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）規格に対応していないディスプレイには、著作権保護のされた映像をデジタル出力できません。

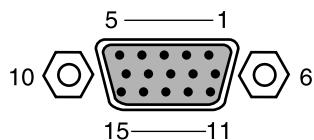
■ カスタムメイドで Quadro FX 550、Quadro FX 1500 を選択している場合

グラフィックスアクセラレータ	Quadro FX 550	Quadro FX 1500
ビデオ RAM	128MB	256MB
解像度／発色数	最大 2048 × 1536 ドット、最大 1677 万色（アナログディスプレイ接続時） 最大 1600 × 1200 ドット、最大 1677 万色（デジタルディスプレイ接続時）	
インターフェース	デジタルディスプレイ（DVI-I 準拠）29 ピン（コピーブロテクション非対応）× 2	
DirectX	DirectX9.0c	
OpenGL	OpenGL 2.0	

2 コネクタ仕様

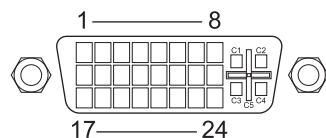
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

■ アナログ RGB コネクタ



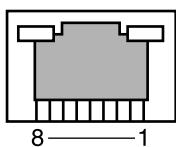
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5 ~ 8	GND	—	グランド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グランド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	DDC データ
13	H SYNC	出力	水平同期信号
14	V SYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	DDC クロック

■ DVI-I コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TX2-	出力	データチャンネル 2-
2	TX2+	出力	データチャンネル 2+
3	TX2/4 Shield	—	グランド
4	NC	—	未接続のケーブルを使用してください
5	—	—	未接続のケーブルを使用してください
6	DDC Clock	入出力	DDC クロック
7	DDC Data	入出力	DDC データ
8	Analog V Sync	出力	アナログ垂直同期信号
9	TX1-	出力	データチャンネル 1-
10	TX1+	出力	データチャンネル 1+
11	TX1/3 Shield	—	グランド
12	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
13	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
14	+5V	—	+5V
15	GND	—	グランド
16	Hot Plug Detect	入力	ホットプラグ
17	TX0-	出力	データチャンネル 0-
18	TX0+	出力	データチャンネル 0+
19	TX0/5 Shield	—	グランド
20	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
21	Reserved	—	未接続のケーブルを使用してください
22	TXC Shield	—	グランド
23	TXC+	出力	データクロック +
24	TXC-	出力	データクロック -
C1	Analog Red	出力	アナログレッド出力
C2	Analog Green	出力	アナロググリーン出力
C3	Analog Blue	出力	アナログブルー出力
C4	Analog H Sync	出力	アナログ水平同期信号
C5	Analog Ground	—	アナロググランド

■ LAN コネクタ (1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T)



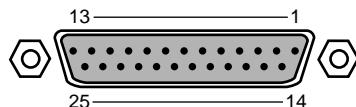
□ 1000BASE-T

ピン番号	信号名	方向	説明
1	TRD0+	入出力	送受信データ 0+
2	TRD0-	入出力	送受信データ 0-
3	TRD1+	入出力	送受信データ 1+
4	TRD2+	入出力	送受信データ 2+
5	TRD2-	入出力	送受信データ 2-
6	TRD1-	入出力	送受信データ 1-
7	TRD3+	入出力	送受信データ 3+
8	TRD3-	入出力	送受信データ 3-

□ 100BASE-TX/10BASE-T

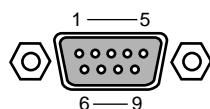
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ +
2	TD-	出力	送信データ -
3	RD+	入力	受信データ +
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ -
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

■ パラレルコネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストローブ
2	DATA0	入出力	データ 0
3	DATA1	入出力	データ 1
4	DATA2	入出力	データ 2
5	DATA3	入出力	データ 3
6	DATA4	入出力	データ 4
7	DATA5	入出力	データ 5
8	DATA6	入出力	データ 6
9	DATA7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グランド

■ シリアルコネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グランド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

■ マウスコネクタ



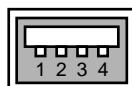
ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ キーボードコネクタ

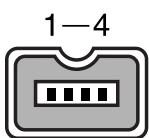


ピン番号	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グランド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

■ USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	内容
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	—	ケーブル・グランド

■ IEEE1394a コネクタ

ピン番号	信号名	方向	内容
1	TPB-	入出力	-データ信号
2	TPB+	入出力	+データ信号
3	TPA-	入出力	-データ信号
4	TPA+	入出力	+データ信号

第9章

トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことが
あったときの対処方法について説明していま
す。

1	トラブルに備えて	184
2	トラブル発生時の基本操作	186
3	起動・終了時のトラブル	192
4	Windows・ソフトウェア関連のトラブル	194
5	ハードウェア関連のトラブル	196
6	それでも解決できないときは	210

1 トラブルに備えて

テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止するVCCIの基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じても、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

■ 本ワークステーションの注意事項

- サイドカバー／本体カバーを外した状態でお使いにならないでください。
- 周辺機器と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかりと締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

■ テレビやラジオなどの注意事項

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本ワークステーションや周辺機器などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺機器など全体の電源を切ることで確認できます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、前述の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

Windows のセットアップ後の操作

Windows のセットアップが終了したら、バックアップを行ったり、セキュリティホール対策のための修正プログラムを適用したりすることをお勧めします。

- 「セキュリティ」 – 「コンピュータウイルス対策」(→ P.114)
- 「セキュリティ」 – 「Windows やソフトウェアのアップデート」(→ P.116)

『取扱説明書』もあわせてご覧ください。

修正プログラムの適用について

セキュリティの強化、安定したシステム運用のため、本ワークステーションに最新のサービスパックや修正モジュールを適用することを基本的にお勧めします。ただし、お客様の環境によっては、サービスパックや修正モジュールの適用により、予期せぬ不具合が発生する場合もありますので、ご利用前には「Readme.txt」などを必ずご確認ください。

また、万一、インストールに失敗したときのことを考慮し、システムのバックアップをとることをお勧めいたします。

なお、弊社の富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。また、「UpdateAdvisor」を利用すると、本ワークステーションに関連したソフトウェアを自動的にダウンロードすることができます。

Windowsについては、「Windows Update」で最新の修正プログラム入手できます。Office 製品については、「Office のアップデート」で最新の修正プログラム入手できます。

データのバックアップ

ハードディスクに障害が発生した場合などは、データが失われることがあります。必要なデータはフロッピーディスクや CD などの別媒体や、バックアップ装置を備えたファイルサーバーなどに定期的にバックアップしてください。

ドキュメントの確認

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールを行う前に、製品に添付されているドキュメントを読み、次の点を確認してください。

- ハードウェア／ソフトウェア要件

使用したい周辺機器やソフトウェアが本ワークステーションのハードウェア構成や Windows で使用できるか確認します。

- 取り付け時やインストール時に注意すべき点

特に「Readme.txt」や「Install.txt」などのテキストファイルがある場合は、マニュアルに記述できなかった重要な情報が記載されている場合があります。忘れずに目を通してください。

また、製品添付のドキュメントだけではなく、Web 上の情報もあわせて確認してください。ベンダーの Web サイトからは、次のような情報やプログラムを得ることができます。

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報

- 問題が解決されたドライバやソフトウェアの修正モジュール

富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>) でも、本ワークステーションに関連したサポート情報やドライバを提供しておりますので、ご覧ください。

2 トラブル発生時の基本操作

本ワークステーションや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まず本ワークステーションや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- 電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- 電源コンセント自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- OA タップを使用している場合、OA タップ自体に問題はありませんか？
他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- 使用する装置の電源ボタンはすべて入っていますか？
ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（サーバー本体やハブなど）の接続や電源も確認してください。
- キーボードの上に物を載せていませんか？
キーが押され、本ワークステーションが正常に動作しないことがあります。
この他、「起動・終了時のトラブル」(→ P.192) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もご覧ください。

以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いつたん以前の状態に戻してください。

- 周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
 - ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。
- その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、Web 上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください (→ P.185)。

発生したトラブルに該当する記述があれば、ドキュメントの指示に従ってください。

■ 前回起動時の構成に戻す

問題が発生した周辺機器を取り外したにもかかわらず Windows が起動しない場合は、前回起動時の構成に戻してみてください。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

- 3 「前回正常起動時の構成(正しく動作した最新の設定)」を選択し、【Enter】キーを押します。**
画面の指示に従って操作します。

セーフモードで起動する

Windows が起動しない場合、セーフモードで起動できるか確認してください。
起動方法は、次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れます。**
- 2 「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。
- 3 「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**
「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
- 4 お使いの Windows が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。**
- 5 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。**
「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
- 6 「はい」をクリックします。**
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」(→ P.142) をご覧になり、問題があるドライバを再インストールしてください。

ハードウェアの競合を確認する

周辺機器を正しく取り付けたにもかかわらず動作しない場合、ハードウェア (IRQ) の競合が起こっていないか確認してください。
確認方法は次のとおりです。

- 1 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。**
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。**
- 3 競合しているデバイスを確認します。**
競合しているデバイス名にはエクスクラメーションマーク (!) が表示されています。
または、×印が表示されている場合もあります。

4 競合しているデバイスがある場合は、IRQ を変更します。

変更方法については、「スタート」メニューに登録されているヘルプで調べることができます。

また、デバイスに添付されているマニュアルもあわせてご覧ください。

バックアップを行う

ハードディスクの障害などで本ワークステーションの動作が不安定になった場合は、必要なデータをただちにバックアップしてください。

メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルなどで該当する障害を検索する際や、お問い合わせの際に役立ちます。

診断／修正プログラムを使用する

本ワークステーションでは、次のワークステーション診断／修正プログラムを用意しています。

- 「UpdateAdvisor（本体装置）」（→ P.188）
- 「FM Advisor」（→ P.189）
- 「FMV 診断」（→ P.189）
- 「QT-PC/U」（→ P.189）

■ UpdateAdvisor（本体装置）

□ 概要

適用すべき修正データをダウンロードして適用することができます。

POINT

- ▶ 「UpdateAdvisor（本体装置）」を利用するには、Azby Enterprise の会員 ID、または SupportDesk サービス契約ユーザーなどのユーザー ID が必要です。
Azby Enterprise および SupportDesk については、富士通製品情報ページ (<http://www.fmworld.net/biz/celsius/>) をご覧ください。
- ▶ 「UpdateAdvisor（本体装置）」を利用するには、インターネットに接続し、「UpdateAdvisor（本体装置）」を最新バージョンにアップデートする必要があります。起動時に、確認のメッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてアップデートしてください。

- 1 「スタート」ボタン → 「すべてのプログラム」 → 「UpdateAdvisor」 → 「UpdateAdvisor（本体装置）」の順にクリックします。
「UpdateAdvisor（本体装置）」の画面が表示されます。

POINT

- ▶ 注意事項が書かれた画面が表示された場合は、内容を確認して、「OK」をクリックしてください。

この後は、表示された画面に従って操作してください。

■ FM Advisor

□ 概要

「FM Advisor」で使用環境を調査すると、問題解決のヒントを得ることができます。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。
調査結果が表示されます。

■ FMV 診断

□ 概要

「FMV 診断」でハードウェアの障害箇所を診断できます。

POINT

- ▶ 起動中のソフトウェアや常駐プログラムはすべて終了してください。
- ▶ スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。
- ▶ フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。
- ▶ CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。
- ▶ ネットワーク機能の診断を行う場合は、あらかじめ固定 IP を設定しておいてください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV 診断」の順にクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

■ QT-PC/U

Windows が起動しないために「FMV 診断」が使用できない場合、「ドライバーズディスク」から起動できる「QT-PC/U」を使用することで、ハードウェアの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通ハードウェア修理相談センター」にお問い合わせの際にお知らせください。

診断時間は通常 5 ~ 10 分程度ですが、診断するワークステーションの環境によっては長時間かかる場合があります。

ドライバーズディスクを用意してください。

● CD/DVD ドライブが内蔵されていないモデルをお使いの場合

本ワークステーションにポータブル CD/DVD ドライブを接続します。

ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット (USB)」をお勧めします。使用できるポータブル CD/DVD ドライブについては、富士通製品情報ページ内にある CELSIUS Workstation Series の「システム構成図」(<http://www.fmworld.net/biz/celsius/price/>) をご覧ください。

- 1 「ドライバーズディスク」をセットします。**
- 2 本ワークステーションの電源を一度切り、再び電源を入れます。**
- 3 「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F12】キーを押します。**
Boot Menu が表示されます。
【F12】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。数回押してください。

POINT

- ▶ ディスプレイの種類によっては画面の表示が遅く、「FUJITSU」ロゴや Windows の起動時のロゴの表示が確認できない場合があります。
その場合は、キーボードのインジケータが一瞬点灯した後、【F12】キーを数回押してください。

- 4 「CD/DVD」または「USB-CD/DVD」を選択し、【Enter】キーを押します。**
「USB-CD/DVD」は、CD/DVD ドライブが内蔵されていないモデルをお使いの場合に選択してください。
自動的に診断が開始されます。診断は 6 項目について行われ、各項目の診断結果が画面の「STATUS」の部分に表示されます。
 - ・診断でエラーが発生した場合は、「STATUS」部に「ERROR」と表示され、画面の「Message Display」部に 8 衍のエラーコードが表示されます。
お問い合わせの際は、表示されたエラーコードをお知らせください。
 - ・診断でエラーが発生しなかった場合は、「STATUS」部に「NO ERROR」と表示されます。
 - 5 診断が終了し、画面の「Message Display」部に次のように表示されたら、CD-ROM を取り出します。**

Eject CD-ROM.
Press Ctrl + ALT + DEL for power off
 - 6 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。**
 - 7 次のように表示されたら、【Enter】キーを押します。**
[Ctrl+ALT+DEL Push] -> Power off execute ok (ENTER)?
しばらくすると電源が切れます。
ただし、機種によっては、自動的に電源が切れない場合があります。
この場合は、電源ボタンを押して電源を切ります。
- 以上で QT-PC/U での診断は終了です。

リカバリ

トラブル発生時の基本操作をした後も回復しない場合には、リカバリを実行します。
リカバリの方法については、『取扱説明書』をご覧ください。

■ リカバリ起動時に「起動エラー」が発生した場合

- 周辺機器を取り外してください。
- 媒体を柔らかい布で拭いてください。

■ リカバリ後も状態が改善されない場合

リカバリ後も状態が改善されない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

3 起動・終了時のトラブル

□ ピープ音が鳴った

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、ピープ音が鳴る場合があります。ピープ音が鳴る原因と対処方法は、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ メッセージが表示された

電源を入れた後の自己診断（POST）時に、画面にメッセージが表示される場合があります。メッセージ内容と意味については、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ 電源が入らない

- 電源ケーブルは接続されていますか？
接続を確認してください。
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- 電源スイッチ付きのACタップをお使いの場合、ACタップの電源は入っていますか？

□ 画面に何も表示されない

- ワークステーション本体の電源は入っていますか？
- ワークステーション本体背面のメインスイッチはオンになっていますか？
- ディスプレイに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源スイッチは入っていますか？
 - ・ディスプレイケーブルは、正しく接続されていますか？
 - ・1台目のディスプレイは、コネクタ「1」に接続されていますか？
 - ・ディスプレイケーブルのコネクタのピンが破損していませんか？
 - ・ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットもしくはコンセントに接続されていますか？
 - ・ディスプレイのブライトネス／コントラストボリュームは、正しく調節されていますか？
 - ・デジタルディスプレイを使用する場合、ワークステーション本体の電源を入れる前に、ディスプレイの電源を入れていますか？
 - ・セットアップ前に、2台目のディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください（→P.85）。
- 省電力モードが設定されていませんか？
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
ワークステーション本体の電源ランプがオレンジ色になっている場合は、ACPIモードの高度（ACPI S3）に移行している可能性があります。ワークステーション本体の電源ボタンを押してください。電源ボタンを押してから30秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源ボタンを4秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- 電源ボタンを押す以外の方法で本ワークステーションをスタンバイからレジュームさせた場合、画面は表示されません。詳しくは、「機能」－「スタンバイまたは休止状態からのレジューム」（→P.108）をご覧ください。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。画面が表示されます。

- メモリなどの周辺機器は正しく取り付けられていますか？

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使って Windows を終了させることができます。
 1. 【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
 2. 【↑】【↓】キーで終了メニューの選択、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

マウスが故障している場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元に連絡してください。

□ Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

- 次の手順で Windows を終了させてください。
 1. 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
 2. Windows を終了します。
表示されるウィンドウによって手順が異なります。
 - ・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。
 - ・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
 1. 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されます。
 2. 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- ▶ 強制終了した場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.201）。

この操作で強制終了できないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れてください。

4 Windows・ソフトウェア関連のトラブル

ここでは、Windows、ソフトウェアに関するトラブルを説明します。トラブルにあわせてご覧ください。

□ Windows が起動しなくなった

- 周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.186）。

もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

- セーフモードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し（→ P.187）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

- 「ドライバーズディスク」に入っている「QT-PC/U」という診断プログラムでワークステーションの診断をしてください（→ P.189）。

「QT-PC/U」でエラーが発生しなかった場合は、リカバリを行い、本ワークステーションをご購入時の状態に戻してください（→『取扱説明書』）。

それでも解決しない場合は、「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。

- Windowsを正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したら本ワークステーションを再起動してください。

□ Windows にログオンできない

- セキュリティチップを使用し、「SMARTACCESS/Basic」による機器監査機能を使用している場合、ハードウェアの構成を変更すると、Windows にログオンできなくなります。この場合、ハードウェアの構成を登録したときの設定に戻すか、機器構成を登録しなおす必要があります。機器構成を登録については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

- セキュリティチップを使用して Windows ログオンをしている場合、BIOS セットアップの設定を次のようにすると、Windows にログオンできなくなります。

・「Security」メニュー—「Security Chip Setting」—「Security Chip」：「Disabled」

この場合、BIOS セットアップの設定を「Enabled」に設定しなおしてください。また、「回避パスワード」でログオンすることもできます。「回避パスワード」については、『SMARTACCESS ファーストステップガイド（認証デバイスをお使いになる方へ）』をご覧ください。

□ プログラムが動かなくなってしまった

- 次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】+【Shift】+【Esc】キーを押します。

「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。

2. 「アプリケーション」タブをクリックします。

3. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。

プログラムが強制終了されます。

4. 「Windows タスクマネージャ」 ウィンドウを閉じます。

POINT

- ▶ プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- ▶ プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします(→ P.201)。

□ 省電力機能が実行されない

- 「コントロールパネル」や BIOS の設定を確認してください。
省電力機能の詳細については、「機能」 – 「省電力」(→ P.103) をご覧ください。

□ 周辺機器の動作が不安定になった

- なんらかの理由でドライバが削除されているか破損している場合があります。
「ソフトウェア」 – 「ドライバ」(→ P.142) をご覧になり、ドライバを再インストールしてください。

□ ソフトウェアのインストールが正常に行われない

- ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

5 ハードウェア関連のトラブル

ハードウェア関連のトラブル一覧

- BIOS の「管理者用パスワードを忘れてしまった」(→ P.197)
- BIOS の「ユーザー用パスワードを忘れてしまった」(→ P.197)
- ワークステーション本体起動時に「エラーメッセージが表示された」(→ P.197)
- 「仮想メモリが足りない」(→ P.198)
- 「ネットワークに接続できない」(→ P.199)
- 「ネットワーククリソースに接続できない」(→ P.199)
- 「ネットワークアダプタ名が同じ名前で表示される」(→ P.199)
- LAN の通信時に「1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い」(→ P.200)
- 「ハードディスクが使えない」(→ P.200)
- 「ハードディスクからカリカリ音がする」(→ P.200)
- 「頻繁にフリーズするなど動作が不安定」(→ P.201)
- 次の「機器が使用できない」(→ P.201)
 - USB
 - IEEE1394a
 - CD/DVD
 - フロッピーディスク
 - シリアル
 - パラレル
- (CD/DVD) 「ディスクからデータの読み出しができない」(→ P.201)
- (CD/DVD) 「ディスクが取り出せない」(→ P.202)
- 「DVD の再生が円滑に行われない」(→ P.202)
- 「外部ディスプレイに再生画面が表示されない」(→ P.202)
- 「DVD の再生音が小さい」(→ P.202)
- 「DVD-RAM ディスクにデータが書き込めない」(→ P.202)
- 「ディスクへの書き込み速度が遅い」(→ P.202)
- 「フロッピーディスクが使えない」(→ P.203)
- 「フロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない」(→ P.203)
- 「SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない」(→ P.203)
- 「画面に何も表示されない」(→ P.204)
- 「ディスプレイの表示が見にくい」(→ P.204)
- 「表示が乱れる」(→ P.204)
- 「画面の両サイドが欠ける」(→ P.204)
- 「リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない」(→ P.205)
- (ディスプレイ) 「その他」(→ P.205)
- 「グラフィックスカードに関するメッセージが画面に表示される」(→ P.205)
- 「スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる」(→ P.206)
- 「キーボードから入力した文字が表示されない」(→ P.206)
- 「押したキーと違う文字が入力される」(→ P.206)

- 「マウスカーソルが動かない」（→ P.207）
- 「マウスカーソルが正しく動作しない（光学式マウスの場合）」（→ P.207）
- 「マウスが使えないため、Windows を終了できない」（→ P.207）
- 「マウスの中ボタンが動作しない（3 ボタンマウスの場合）」（→ P.207）
- 「USB デバイスが使えない」（→ P.207）
- 「USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される」（→ P.207）
- 「IEEE1394a デバイスが使えない」（→ P.208）
- 「IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される」（→ P.208）
- 「サイドカバーキーをなくしてしまった（X840 の場合）」（→ P.208）
- 「プリンタを使用できない」（→ P.209）
- 「使用中の製品に関する最新情報を知りたい」（→ P.209）

BIOS

□ 管理者用パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れるとき、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通ハードウェア修理相談センター」、またはご購入元にご連絡ください。なお、保証期間にかかるわらず修理は有償となります。

□ ユーザー用パスワードを忘れてしまった

ユーザー用パスワードを忘れた場合は、修理の必要はありません。ワークステーションの管理者に管理者用パスワードをいったん削除してもらった後、ユーザー用パスワードを設定し直してください。パスワードの設定方法については、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」（→ P.162）をご覧ください。

□ エラーメッセージが表示された

ワークステーション本体起動時に、画面にエラーメッセージが表示される場合があります。エラーメッセージの内容と意味については、『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」－「エラーについて」－「エラーメッセージ」をご覧ください。

メモリ

□仮想メモリが足りない

仮想メモリ（ページングファイル）の設定を行います。

仮想メモリの設定を行うには、仮想メモリの「最大サイズ」分の空き容量がハードディスクに必要です。本体搭載メモリ容量が大きい場合などに、選択したドライブに充分な空き容量がないときは、別のドライブに設定してください。

ただし、ブートパーティション以外に設定する場合、あるいはページングファイルサイズが小さい場合などは、メモリダンプをファイルに出力できなくなります。ダンプファイルを取得する場合は、システムドライブに最低でも物理メモリ + 1MB（仮想メモリの容量は含まず）の空き容量が必要です。

POINT

- 搭載メモリサイズによっては、推奨サイズを設定できない場合があります。その場合は、パーティションタイプを変更するか、ブートパーティション以外のパーティションに設定してください。

ファイル形式	ファイルサイズ上限	備考
NTFS	パーティションサイズと同じ	Windows XP をお使いの場合 出荷時のブートパーティション

- 仮想メモリの推奨値は、次のとおりです。

初期サイズ：本体搭載メモリの 1.5 倍

最大サイズ：初期サイズの 2 倍

- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
- 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 「詳細設定」タブをクリックし、「パフォーマンス」の「設定」をクリックします。
「パフォーマンスオプション」 ウィンドウが表示されます。
- 「詳細設定」タブをクリックします。
- 「仮想メモリ」の「変更」をクリックします。
「仮想メモリ」 ウィンドウが表示されます。
- ページングファイルが保存されているドライブを変更する場合は、「ドライブ」の一覧で変更するドライブをクリックします。
システムドライブに充分な空き容量がある場合は、ドライブの変更は必要ありません。
- 「選択したドライブのページングファイルサイズ」の「初期サイズ」または「最大サイズ」を適切な値に変更し、「設定」をクリックします。
- 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

9 本ワークステーションを再起動します。

LAN

□ ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか?
ワークステーション本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して次の項目を確認してください。
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・1000Mbpsで通信している場合、エンハンスドカテゴリ5のケーブルを使用してください。
 - ・100Mbpsで通信している場合、カテゴリ5のケーブルを使用してください。
- LANに関して次の項目を確認してください。
 - ・ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→P.187）
 - ・LANドライバは正しくインストールされていますか?
必要に応じて、「ソフトウェア」－「ドライバ」（→P.142）をご覧になり、再インストールしてください。
- TCP/IPプロトコルをお使いの場合は、コマンドプロンプトで次のように入力し、「Reply from ~」という応答が表示されるか確認してください。
`ping nnn.nnn.nnn.nnn`
 (nnnにはIPアドレスを入力します)
- ハブに関して次の項目を確認してください。
 - ・電源は入っていますか？
 - ・ACT/LNKランプは点灯していますか？
 - ・Speed(1000Mbps/100Mbps/10Mbps/Auto)、Duplex(Full/Half/Auto)の設定は、ワークステーション側の設定と合っていますか？

□ ネットワークリソースに接続できない

各種サーバーに接続できない場合は、ネットワーク管理者に原因を確認してください。一般的に、次の点を確認します。

- お使いのネットワークに適したコンポーネント(クライアント/サービス/プロトコル)をインストールしていますか？
- 各コンポーネントの設定は、正しいですか？
- サーバーにアクセスするためのユーザー名やパスワードは正しいですか？
- サーバーにアクセスする権限を与えられていますか？
- サーバーがなんらかの理由で停止していませんか？

□ ネットワークアダプタ名が同じ名前で表示される

複数LANカードを使用している場合、デバイスマネージャで表示されるネットワークアダプタ名が同じ名前で表示され、ネットワークアダプタの判別が困難なため、設定環境の構築ができないことがあります。

この場合、次の手順によりネットワークアダプタを判別し、設定を行います。なお、設定内容については、ドライバに添付されている「Readme.txt」および「Install.txt」を参照してください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

- 2 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。**
「ネットワークとインターネット接続」 ウィンドウが表示されます。
- 3 「コントロールパネルを選んで実行します」から「ネットワーク接続」をクリックします。**
「ネットワーク接続」 ウィンドウが表示されます。
- 4 使用しているどちらか片方の LAN ケーブルを外します。**
LAN ケーブルを外すと、「ローカルエリア接続」に赤い×が表示されます。
- 5 赤い×が表示された「ローカルエリア接続」を右クリックし「プロパティ」をクリックします。**
「ローカルエリア接続のプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 6 「構成」をクリックします。**
「LAN デバイスのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

POINT

- ▶ LAN デバイスの設定は、「詳細設定」タブで行います。
- ▶ ドライバの更新は、「ドライバ」タブで行います。

□ 1000BASE-T を使用しているが、速度が遅い

- LAN デバイスで速度は正しく設定されていますか？
- お使いのネットワークケーブルやハブは 1000BASE-T に対応していますか？
- 通信相手の機器は 1000BASE-T に対応していますか？

ハードディスク

□ ハードディスクが使えない

- エラーメッセージは出でていませんか？
『取扱説明書』の「必要に応じてお読みください」 – 「エラーについて」 – 「エラーメッセージ」をご覧ください。

□ ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
 - ・ Windows を終了した直後
 - ・ スタンバイや休止状態にした直後
 - ・ ワークステーションの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
 - ・ 中断した状態から再度ワークステーションを操作させた場合
 - ・ ワークステーションを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）
- これらはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

□ 頻繁にフリーズするなど動作が不安定

- 次の手順でハードディスクをチェックしてください。
 1. 実行中のプログラムをすべて終了します。
 2. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 3. プログラムをインストールしてあるディスクを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 4. 「ツール」タブをクリックし、「エラーチェック」の「チェックする」をクリックします。
 5. 「チェックディスクのオプション」内の項目をチェックし、「開始」をクリックします。
「ファイルシステムエラーを自動的に修復する」をチェックして C ドライブを検査する場合は、「次回のコンピュータの再起動後に、このディスクの検査を実行しますか？」と表示されます。「はい」をクリックすると、次回 Windows 起動時にエラーのチェックが行われます。それ以外の場合は、ディスクのチェックが開始されます。終了すると「ディスクの検査が完了しました。」と表示されます。
 6. 「OK」をクリックします。

修復してもトラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください (→『取扱説明書』)。

デバイス

□ 機器が使用できない

- 「Portshutter」のポート設定は、有効になっていますか？(Windows XP Professional の場合)
次の機器が使用できない場合は、システム管理者に「Portshutter」のポート設定が有効になっているか確認してください。
情報漏洩や不正プログラムの導入を防ぐために、「Portshutter」を使用して接続ポートを無効に設定している場合があります。
 - ・ USB
 - ・ IEEE1394a
 - ・ CD/DVD
 - ・ フロッピーディスク
 - ・ シリアル
 - ・ パラレル

CD / DVD

□ ディスクからデータの読み出しができない

- ディスクが正しくセットされていますか？
ディスクの表裏を間違えないよう、正しくセットしてください。
- ディスクが汚れていたり、水滴がついたりしていませんか？
汚れたり水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側へ向かって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- ディスクが傷ついていたり、極端に反っていたりしませんか？
ディスクを交換してください。
- 規格外のディスクを使用していませんか？
規格に合ったディスクをお使いください。

- ドライブはワークステーション本体にしっかりと装着されていますか？
もう一度しっかりと装着し直してください。

□ディスクが取り出せない

- ワークステーション本体は動作状態になっていますか？
本ワークステーションの内蔵ドライブは電子ロックのため、ワークステーション本体が動作状態の場合のみディスクのセット／取り出しが可能です。
なお、なんらかの原因でトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」ウィンドウのディスクアイコンを右クリックし、「取り出し」をクリックしてください。それでも出ない場合は、ディスク取り出し穴を、曲がりにくい針金（大きなクリップをのばしたものなど）でつづいてください。

□DVDの再生が円滑に行われない

- DVD再生ソフトを正しくインストールしましたか？
DVD再生ソフトをインストールしてください。
- DMA転送は有効ですか？
「機能」—「DMAの設定」（→P.101）の操作をご覧になり、DMA転送を有効にしてください。その後、すべてのソフトウェアを閉じ、ワークステーション本体を再起動してください。
- 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンしてからインストールしましたか？
いったんアンインストールしてから管理者権限を持ったユーザーとしてログオンし直し、DVD再生ソフトのインストールの手順に従って再インストールしてください。
- Wave音源の再生またはAVIファイルなどの映像再生をしていませんか？
Wave音源またはAVIファイルなどの映像と同時再生はできません。

□外部ディスプレイに再生画面が表示されない

- ワークステーション本体がマルチモニタ機能を使用していませんか？
マルチモニタ機能に設定している場合、再生映像は「プライマリディスプレイ」側にしか表示できません。

□DVDの再生音が小さい

- ワークステーション本体のボリュームの設定は正しいですか？
DVDディスクによっては音のレベルが小さく録音されているものがあります。「機能」—「音量の設定」（→P.95）をご覧になり、音量を調節してください。

□DVD-RAMディスクにデータが書き込めない

- DVD-RAMディスクに書き込む場合は、次の手順で設定してください。
 1. 「スタート」ボタン→「マイコンピュータ」の順にクリックします。
 2. 「DVD-RAM ドライブ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
 3. 「書き込み」タブで「このドライブでCD書き込みを有効にする」のチェックを外します。
 4. 「OK」をクリックします。

□ディスクへの書き込み速度が遅い

- ウイルス対策ソフトなどを常駐させていませんか？
ウイルス対策ソフトなどを常駐し、ファイルアクセスの監視を行った状態でディスクに書き込むと、書き込み速度が低下する場合があります。

フロッピーディスク

□ フロッピーディスクが使えない

- ディスクは正しくセットされていますか?
ディスクのシャッタのある側から、カシャッと音がするまでしっかりと差し込みます。
- ディスクはフォーマットしてありますか?
ディスクをフォーマットしてください。
- BIOS セットアップの項目を正しく設定していますか?
BIOS セットアップの設定については、「BIOS」-「メニュー詳細」(→ P.149)をご覧ください。
- ディスクが書き込み禁止になってしまいませんか?
ディスクの書き込み禁止タブを書き込み可能な位置にしてください。
- 別のディスクは使用できますか?
別のディスクが使用できる場合、使用できないディスクは壊れている可能性があります。
- フロッピーディスク ドライブのヘッドが汚れていませんか?
クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください。詳しくは、「ハードウェア」-「ハードウェアのお手入れ」(→ P.45)をご覧ください。

□ フロッピーディスクを 720KB でフォーマットできない

- Windows XP では、フロッピーディスクを 1.44MB 以外の容量にフォーマットできません。

SCSI カード

□ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows から認識できない

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか?
次の手順に従って確認してください。
 1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウインドウが表示されます。
 2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウインドウが表示されます。
SCSI コントローラが登録されているか確認してください。

登録されていない場合、「ハードウェアの追加ウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを実行してください。

「ハードウェアの追加ウィザード」を表示させるには、「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「プリンタとその他のハードウェア」の順にクリックし、「関連項目」の「ハードウェアの追加」をクリックしてください。
- SCSI 装置の電源は、ワークステーション本体の電源を入れる前に入れましたか?
ワークステーション本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。
- SCSI 装置の機器 ID は正しく設定されていますか?
複数の SCSI 装置に同じ機器 ID を設定すると、正しく認識されません。

ディスプレイ

□ 画面に何も表示されない

- 「起動・終了時のトラブル」(→ P.192) の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

□ ディスプレイの表示が見にくい

- ディスプレイは見やすい角度になっていますか?
ディスプレイの角度を調節してください。
- 明るさなどを調節しましたか?
明るさをライトネスボリュームで調節してください。

□ 表示が乱れる

- Windows の画面が正常に表示されない場合は、次のように操作してください。
「ソフトウェア」-「ドライバ」(→ P.142) をご覧になり、ディスプレイドライバを再インストールしてください。
Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください(→ P.187)。
- ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。
 1. ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、ソフトウェアを最小化します。
 2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- ▶ 次のような場合に表示が乱れることがあります、動作上は問題ありません。
 - ・ Windows 起動時および画面の切り替え時
 - ・ DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

- お使いになるディスプレイや、解像度の設定によっては、CAD 系ソフトウェアなどで縦線と横線の大きさが異なって見えることがあります。この場合、解像度を下げる、又はリフレッシュレートを下げることで改善する場合があります。
- 動画を再生するときは、ディスプレイの省電力機能やシステムスタンバイおよびシステム休止状態の設定は行わないでください。
- お使いのビデオカードによっては、画面のプロパティにおいて、一部文字化けがありますが、動作には支障はありません。
- OpenGL を使用したスクリーンセーバーが起動しているときには、スタンバイ状態およびシステム休止状態への移行はできません。
- 近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか?
強い磁界が発生するものは、ディスプレイやワークステーション本体から離して置いてください (→ P.184)。

□ 画面の両サイドが欠ける

- 使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。

□ リカバリ後、ディスプレイドライバをインストールし直してもディスプレイが自動的に設定されない

- 次の手順で設定し直してください。
 1. 管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。
 2. ディスプレイドライバが入っているディスクをセットします。

POINT

▶ 「Windows が実行する動作を選んでください」と表示されたら、「キャンセル」をクリックしてください。

3. デスクトップ上で右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「設定」タブの「詳細設定」をクリックします。
5. 「モニタ」タブの「プロパティ」をクリックします。
6. 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
7. 「いいえ、今回は接続しません (T)」を選択して、「次へ」をクリックします。
8. 「一覧または特定の場所からインストールする (詳細)」をクリックし、「次へ」をクリックします。
9. 「リムーバブルメディア (フロッピー、CD-ROM など) を検索」のみをチェックし、「次へ」をクリックします。
10. 「次へ」をクリックします。
「ハードウェアの更新ウィザードの完了」ウィンドウが表示されます。

POINT

▶ 「.. インストールしようとしているソフトウェアは、Windows XP との互換性を検証する Windows ロゴテストに合格していません。」と表示されたら、「続行」をクリックしてください。

11. 「完了」をクリックします。
12. すべてのウィンドウを閉じます。

□ その他

- グラフィックの表示性能は、環境設定および使用するソフトウェアによって異なります。

グラフィックスカード

□ グラフィックスカードに関するメッセージが画面に表示される

- 「グラフィックカードが高温になっています。故障につながる恐れがありますので、アプリケーションデータを保存終了した後、Windows をシャットダウンしてください。」と表示された場合。

データを保存してアプリケーションを終了し、Windows をシャットダウンします。アプリケーションの負荷によってグラフィックスカードが高温になる場合があります。再び本ワークステーションを起動した後、何度も本メッセージが表示される場合は、修理を依頼してください。

- 「グラフィックカードのファン故障の可能性があります。修理依頼を行なってください。本ワークステーションを保護するため、Windows を強制的にシャットダウンします。」と表示された場合。
グラフィックスカードのファンが故障している可能性がありますので、修理を依頼してください。

サウンド

□スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

- 外付けスピーカーに関して次の項目を確認してください。
 - ・ワークステーション本体と正しく接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ケーブルは接続されていますか？
 - ・スピーカーの電源ボタンは入っていますか？
 - ・音量ボリュームは正しく調節されていますか？
 - ・ヘッドホン端子にヘッドホン（または他のデバイス）が接続されていませんか？
- 音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。詳細については、「機能」—「音量の設定」（→ P.95）をご覧ください。
- 音が割れる場合は音量を小さくしてください。
- ハードウェアの競合が起こっていませんか？（→ P.187）
- サウンドドライバが正しくインストールされていますか？必要に応じて、「ソフトウェア」—「ドライバ」（→ P.142）をご覧になり、再インストールしてください。

キーボード

□キーボードから入力した文字が表示されない

- キーボードは正しく接続されていますか？

□押したキーと違う文字が入力される

- 【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていませんか？
キーボード上のインジケータで、【NumLock】キーや【CapsLock】キーが有効になっていないか確認してください。
- 「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？
次の手順で確認してください。
 1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
 3. 「キーボード」をクリックします。
「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
 4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。

マウス

□ マウスカーソルが動かない

- マウスは正しく接続されていますか？
- ボールやローラーなどにゴミが付いていませんか？（光学式マウス以外の場合）
マウス内部をクリーニングしてください。
- オプティカルセンサー部分が汚れていませんか？（光学式マウスの場合）
オプティカルセンサー部分をクリーニングしてください。

□ マウスカーソルが正しく動作しない（光学式マウスの場合）

- 次のようなものの上で操作していませんか？
 - ・鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・光沢のあるもの
 - ・濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの（木目調など）
 - ・網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- マウスパッドをお使いになる場合は、明るい色の無地のマウスパッドをお使いになることをお勧めします。

□ マウスが使えないため、Windows を終了できない

- キーボードを使用して Windows を終了してください。（→ P.193）。

□ マウスの中ボタンが動作しない（3ボタンマウスの場合）

- 3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応ソフトウェアを使用しているときにのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。

USB

□ USB デバイスが使えない

- ケーブルは正しく接続されていますか？
ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- USB デバイスがルートハブ以外に接続されていませんか？
USB デバイスはルートハブに直接接続してください。
- USB デバイスに不具合はありませんか？
USB デバイスに不具合がある場合、Windows が正常に動かなくなります。
ワークステーションを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？
必要なドライバをインストールしてください。
- 外部から電源を取らないUSB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？
次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. 「USB (Universal Serial Bus) コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。

IEEE1394a

□ IEEE1394a デバイスが使えない

- 長すぎるケーブルを使用していませんか?
長さ 4.7 メートル以内のケーブルをお使いください。
- IEEE1394a デバイスが表示されていますか?
IEEE1394a デバイス接続後、IEEE1394a デバイスがデバイスマネージャに一度表示され、すぐに表示されなくなることがあります。
この場合、IEEE1394a デバイス側の電源の管理機能がコンピュータに誤って認識されている可能性があります。IEEE1394a デバイス側の電源設定を変更してください。
- IEEE1394a デバイスに不具合はありませんか?
IEEE1394a デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
ワークステーションを再起動して、IEEE1394a デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、IEEE1394a デバイスのご購入元にご連絡ください。

□ IEEE1394a デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラ メーションマーク (!) が表示される

- デバイスドライバに問題はありませんか? インストールされていますか?
必要なドライバをインストールしてください。

サイドカバーキー

□ サイドカバーキーをなくしてしまった (X840 の場合)

- サイドカバーキーを紛失した場合は、引取修理によるサイドカバーの交換が必要となります。「富士通ハードウェア修理相談センター」にご連絡ください。
なお、保証期間にかかるわらず、鍵の紛失によるサイドカバーの交換は有償となります。(→『取扱説明書』)
- サイドカバーキーを紛失した場合は、訪問修理の際も即日修理ができません。引取修理になりますので、あらかじめご了承ください。

プリンタ

□ プリンタを使用できない

- 次の点を確認してください。
 - ・プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
 - ・ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
 - ・プリンタの電源は入っていますか？
 - ・プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
　プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
 - ・ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.199）

その他

□ 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- 製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社の富士通製品情報ページ（<http://www.fmworld.net/biz/celsius/support.html>）で公開しています。必要に応じてご覧ください。

6 それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■ 弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『取扱説明書』をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ ソフトウェアに関するお問い合わせ

本ワークステーションに添付されている、次のソフトウェアの内容については、各連絡先にお問い合わせください。

なお、記載の情報は、2007年1月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、『取扱説明書』をご覧になり、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問合せください。

● Norton AntiVirus 2006

- ・株式会社シマンテック

シマンテックテクニカルサポートセンター

本センターをご利用いただくためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートをご購入いただかず、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

URL : <http://www.symantecstore.jp/oem/fujitsu> (ユーザー登録ホームページ)

電話・FAX : テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

電話受付時間：10:00～18:00（土曜・日曜・祝日・年末年始を除く）

● Adobe Reader 7.0

ソフトウェア提供会社より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。

● ソフトウェア（カスタムメイド）

各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

索引

記号

- 3.5インチファイルベイ 18
- 5インチファイルベイ 18

A

- ACPI 103
- Adobe Reader 128, 137

B

BIOS

- セットアップ 144
- セットアップの操作のしかた 145
- セットアップを終了する 148
- のパスワード 162

C

- CD／DVD 30
- CD/DVD 取り出しボタン 13
- CD-ROM ドライブ 13
- CD アクセスランプ 14
- CPU 19
- CPU FAN コネクタ 20

D

- DIMM スロット 20
- DMA 101
- DVD-RAM 137
- DVD-RAM ドライバーソフト 128, 137
- DVI-I コネクタ 15, 178

E

- Easy Backup 128, 135
- Easy Media Creator 128, 138
- Exit メニュー 161

F

- FM Advisor 128, 133, 189
- FM-Menu 128, 135
- FMV 診断 128, 133, 189
- FM 拡大ツール 128, 135
- FM キーガード 128, 136

G

- GeForce 7300 LE 83

I

- IEEE1394a コネクタ 182
- IEEE1394a 端子 16
- Info メニュー 160

L

- LAN 99
- 機能 175
- コネクタ 16, 179

M

- Main メニュー 149

N

- Norton AntiVirus 114, 128, 130

O

- Office Personal 2003 128, 138
- Office Personal 2007 128, 139
- Office Professional 2007 128, 139
- Office Professional Enterprise 2003 128, 139

P

- PC Health メニュー 159
- PCI コネクタ 19
- PC 乗換ガイド 128, 134
- Portshutter 121, 128, 131
- Power Management for Windows 109, 128, 136

Q

- QT-PC/U 189
- Quadro FX 1500 83, 92
- Quadro FX 3500 83, 92
- Quadro FX 3500 SLI 83
- Quadro FX 550 92

R

RADEON X300 SE 82, 87

S

Serial ATA コネクタ 19
 SMARTACCESS/Basic 128, 131
 Supervisor Password 162
 System FAN コネクタ 19

U

UpdateAdvisor (本体装置) 128, 134, 188
 USB コネクタ 13, 16, 181
 User Password 162

W

Windows Update 116
 Windows XP Professional x64
 Edition 128, 130
 Windows XP Professional
 (SP2) 128, 129

あ行

アウトレット 16
 アナログ RGB コネクタ 16, 177
 色数 82
 インレット 16
 エグゼキュート・ディスエーブル・
 ビット機能 44, 122
 温度センサー (Rear) 19
 温度センサー (System) 19
 音量設定 95
 音量つまみ 95

か行

解像度 82
 拡張ウィルス防止機能 121
 拡張カード 73
 拡張カードスロット 15, 16, 18
 仮想メモリ 198
 管理者用パスワード 162
 キーボード 27
 　－コネクタ 16, 181
 　－のお手入れ 56
 休止状態 103
 コネクタ仕様 177
 コンピュータウイルス対策 114

さ行

周辺機器 60
 仕様 172
 省エネ法に基づくエネルギー
 消費効率 174
 省電力 103, 106
 シリアルコネクタ 17, 180
 スタンバイ 103
 スマートカードベイ 12
 スマートカードリーダ／ライタ 121
 セーフモード 187
 セキュリティ施錠金具 15
 セキュリティセンター 117
 セキュリティチップ 120, 166
 施錠 57

た行

通風孔 12
 ディスクアクセスランプ 13
 ディスク取り出し穴 14
 デュアルコア・テクノロジー機能 44
 電源
 　－ボタン 13
 　－ユニット 18
 　－ランプ 13
 電源コネクタ 19
 盗難防止用ロック取り付け穴 15
 ドライブバーズディスク 142
 「ドライブバーズディスク検索」
 ツール 142
 ドライブ構成 101

な行

内蔵バッテリ 19

は行

ハードウェアの競合 187
 ハードディスク 43
 ハードディスクデータ消去 128, 131
 パスワード (BIOS)
 　－削除する 165
 　－設定する 164
 　－変更する 165
 　－忘れると 162
 パラレル ATA コネクタ 19
 パラレルコネクタ 16, 180
 ヒートシンクのお手入れ 47

表示機能	175
ファイアウォール	118
フット	14
フロッピーコネクタ	20
フロッピーディスク	40
－アクセスランプ	13
－ドライブ	13
－ドライブのお手入れ	56
－取り出しボタン	13
ページングファイル	198
ヘッドホンアウト端子	13
本体カバー	62
本体仕様	172

ま行

マイク端子	13
マウス	24
－コネクタ	16, 181
－のお手入れ	55
マルチディスプレイ機能	85, 87
メインスイッチ	16
メインボード	19
メッセージ (BIOS イベントログ) ..	168
メモリ	64

や行

ユーザー用パスワード	162
------------------	-----

ら行

ラインアウト端子	17
ラインイン端子	17

わ行

ワークステーション本体のお手入れ ..	45
---------------------	----

CELSIUS J350

**製品ガイド
B5FJ-2111-01-01**

**発行日 2007年1月
発行責任 富士通株式会社**

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。